

「2010年 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」報告書

株式会社リクルート(本社:東京都千代田区 代表取締役社長 兼 CEO: 柏木 齊)では、全国の国・公・私立高校の進路指導主事を対象に、進路指導・キャリア教育の実態についてのアンケート調査を隔年で実施しています。2010年調査では、進路指導の困難度合いや取り組み、キャリア教育の進捗状況、上級学校との接続について調査しました。その分析結果をまとめましたので、ご報告申し上げます。

株式会社リクルート 進学カンパニー

TOPICS

I-1. 進路指導の困難

■進路指導を「非常に難しい」と感じている割合は約4割に。2006年以降、増加傾向

・過去調査と比べると、「非常に難しい」が毎回増加。高校現場における進路指導の難しさが06年以降高まっている様子がうかがえる。

■難しさを感じる要因として大幅に増加したのは、「産業・労働・雇用環境の変化」「高卒就職市場の変化」や「家庭環境の悪化」

・前回と比べ大幅に増えたのは【保護者】の「家庭・家族環境の悪化・計(家計面+家計面以外)」、【進路環境】の「産業・労働・雇用環境の変化」「高卒就職市場の変化」。

・今回より「家庭・家族環境の悪化」を「家計面」「家計以外の面」に分割して聞いたところ、「家計面」が6割を超える結果となった。景気の悪化が進路指導現場にも大きな影響をあたえていることがわかる。

I-2. 進路指導の取り組み

■生徒を対象とする取り組みでは大学や中学等との連携、校内研修などが増加

II-1. キャリア教育の実施状況

■新学習指導要領への対応状況は、「対応できている」が6割、「対応できていない」が4割

■キャリア教育の意味の伝達や計画作成、学外連携は増加傾向だが、結果・評価や運用体制については、まだまだこれから。

II-2. キャリア教育の評価

■「生徒にとって有意義」との評価が過半数

■一方で、「教員の負担増」「主旨が見えない」といった意見が増加

・実施時間の不足や教員の負担感、日々の進学・就職指導など「障害」は多い。

III. 上級学校との接続に対する今後の期待と見通し

■大学への進学希望率は、3年後さらに上昇する見通し

■入試方法別では、「推薦入試」「AO入試」がさらに上昇の予測。「一般入試」を上回る

・専門学校への進学希望率は「上昇する」と「低下する」が同程度、短期大学への進学希望率や就職希望率は「低下する」が「上昇する」を上回り、大学への進学希望率のみが上昇する見通しとなった。

■進学希望率が上昇すると思われる分野は、大学、専門学校とも「看護」がトップ

CONTENTS

調査概要・回答者プロフィール	3
第Ⅰ部 進路指導の実態	
1. 進路指導の困難	4
1) 進路指導の難易度	4
2) 進路指導の難しさの要因	6
3) 進路指導の難しさの最大要因	8
【フリーコメント①】生徒の問題でどのような困難が生じているか	10
【フリーコメント②】保護者の問題でどのような困難が生じているか	11
【フリーコメント③】学校の問題でどのような困難が生じているか	12
【フリーコメント④】進路環境の問題でどのような困難が生じているか	13
2. 進路指導の取り組み	14
1) 進路指導で実施している取り組み事項	14
2) 進路指導時に生徒に伝えること	18
3) 進路指導時に生徒の進学先として重視する点	20
第Ⅱ部 キャリア教育の実態	
1. キャリア教育の実施状況	22
1) キャリア教育担当部署の設置状況	22
2) キャリア教育担当部署名・部門名	23
3) キャリア教育実施時間	24
4) キャリア教育の進捗状況	26
5) キャリア教育の新学習指導要領に対する対応度	28
【フリーコメント⑤】新学習指導要領に対するキャリア教育の対応状況	29
【フリーコメント⑥】キャリア教育に対する取り組みの具体的な内容	30
【フリーコメント⑦】キャリア教育を進めて行くうえでの障害	31
2. キャリア教育の評価	32
1) キャリア教育の役立ち度	32
2) キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度	33
3) キャリア教育に対する考え	35
【フリーコメント⑧】キャリア教育に対する考え:「最も」そう思う理由	37
第Ⅲ部 上級学校との接続における今後の期待と見通し	
1. 今後期待すること	38
1) 高大接続・連携／大学・短期大学・文部科学省に期待すること	38
2) 高大連携推薦の協定締結状況	40
【フリーコメント⑨】今後の大学情報提供・公開に対する具体的な要望・意見	41
3) 高専接続・連携／専門学校・行政に期待すること	42
【フリーコメント⑩】大学・短大・専門学校との接続・連携についての意見・課題	43
2. 今後の見通し	44
1) 3年後の進学希望率・就職希望率変化予測	44
【フリーコメント⑪】予測の理由	44
2) 3年後の大学・専門学校への進学希望率変化予測	46
【フリーコメント⑫】予測の理由	46
3) 3年後の入試方法ごとによる大学への進学希望率変化予測	48
【フリーコメント⑬】予測の理由	48
4) 3年後進学希望率が上昇すると考えられる分野	50
①大学分野系統	50
②専門学校分野系統	52

▶ <調査概要>

- 調査対象: 全国の全日制高校4981校の進路指導主事
- 調査期間: 2010年10月8日～10月22日(11月1日到着分までを集計対象とした)
- 調査方法: 郵送法
- 回収数: 1240(回収率24.9%)
- 有効回答数: 1208(有効回答率24.3%)
- 回答者平均年齢: 47.57歳

▶ <回答者プロフィール>

■高校設置者(全体／単一回答)

(%)

	調査数	国公立	私立	無回答
2010年:全体	1208	74.5	24.8	0.7
2008年:全体	910	74.2	25.5	0.3
2006年:全体	813	76.9	23.1	—

■高校タイプ(全体／単一回答)

(%)

	調査数	普通科・計		総合学科・計		専門高校・計				その他	無回答	普通科・計	総合学科・計	専門高校・計
		普通科単独校	普通科中心で学科併設校	総合学科単独校	総合学科併設校	工業を中心とする高校	商業を中心とする高校	家政を中心とする高校	農業を中心とする高校					
2010年:全体	1208	53.0	20.4	6.5	1.0	5.5	4.5	0.2	3.5	4.2	1.3	73.3	7.5	13.7
2008年:全体	910	53.5	19.8	4.4	1.3	7.4	4.1	0.4	3.5	4.5	1.1	73.3	5.7	15.4
2006年:全体	813	52.3	19.2	6.2	1.2	8.4	5.7	0.5	3.2	3.4	—	71.5	7.4	17.8

■高校所在地(全体／単一回答)

(%)

	調査数	北海道	東北	関東・甲信越	北関東・甲信越	南関東	東海・北陸	東海	北陸	関西	中国・四国	九州・沖縄	無回答
2010年:全体	1208	7.9	10.1	29.4	11.9	17.5	14.6	11.6	3.0	12.7	12.4	12.2	0.7
2008年:全体	910	9.0	9.7	28.2	*	*	16.9	*	*	12.1	12.3	11.4	0.3
2006年:全体	813	7.4	10.6	29.9	*	*	18.0	*	*	11.8	10.7	11.7	—

■校務分掌(全体／複数回答)

(%)

	調査数	進路指導主事	進路指導担当	学年担当	学年主任	校長	教頭(副校長)	その他	無回答
2010年:全体	1208	84.1	14.5	7.0	1.5	—	0.2	2.4	1.3
2008年:全体	910	84.5	12.4	7.8	2.9	—	0.3	2.7	1.6
2006年:全体	813	81.8	15.0	4.6	2.5	—	0.2	3.2	2.6

■中高一貫・中学校併設状況(全体／単一回答)

(%)

	調査数	有	無
2010年:全体	1208	18.2	81.8
2008年:全体	910	15.6	84.4

■キャリア教育の研究指定状況(全体／単一回答)

(%)

	調査数	有	無
2010年:全体	1208	5.9	94.1

■大学短大進学率(全体／単一回答)

(%)

	調査数	70%以上	40～70%未満	40%未満	無回答
2010年:全体	1208	41.5	62.6	36.7	0.7
2008年:全体	910	37.8	60.9	38.8	0.3
2006年:全体	813	30.8	22.8	46.5	—

※「*」は該当項目データなし

第Ⅰ部 進路指導の実態

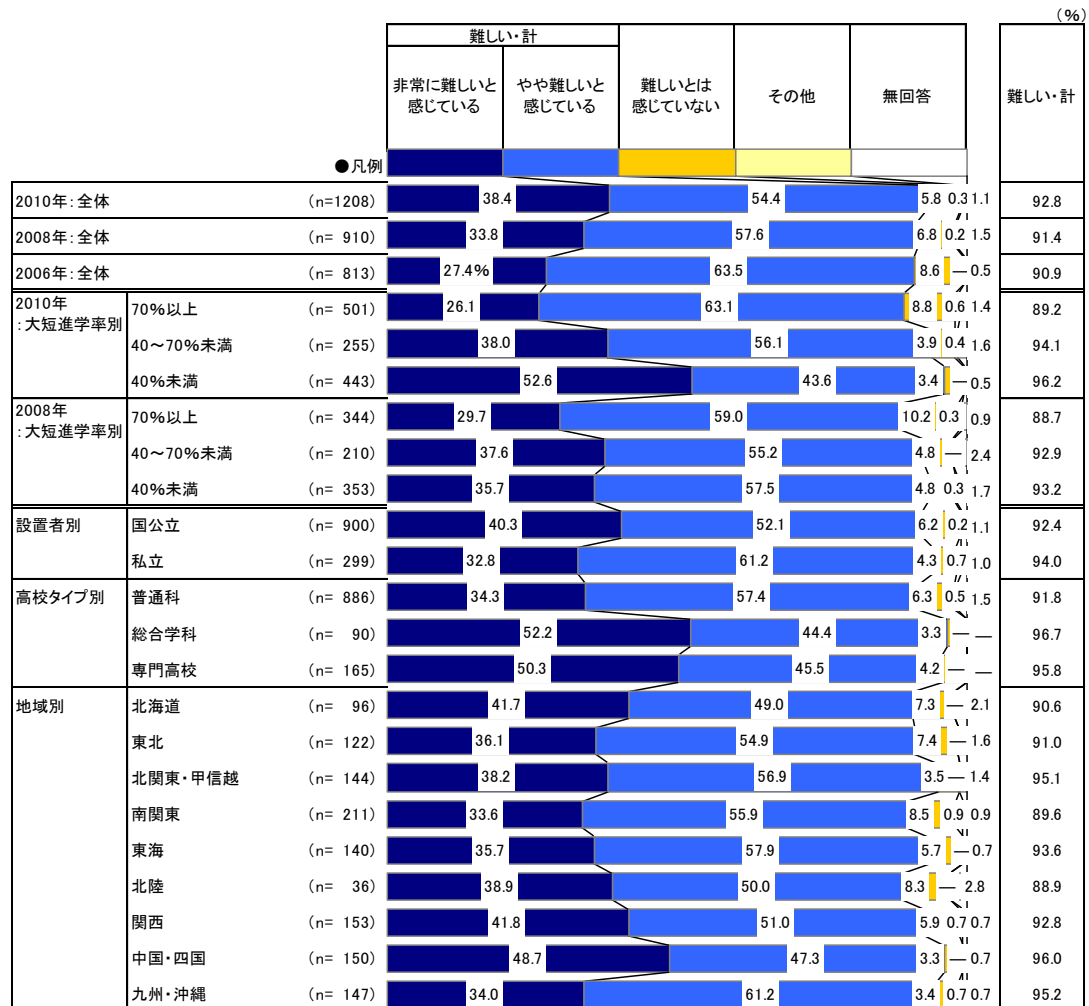
1.進路指導の困難

1)進路指導の難易度

- ▶「非常に難しい」と感じている割合は約4割。
- ▶2006年以降、増加傾向

- 現在、進路指導を難しいと感じているかという質問に、進路指導主事を中心とする回答者の38%が「非常に難しい」と回答。「やや難しい」の54%と合わせると9割以上が進路指導を難しいと感じている。過去調査と比べると、「非常に難しい」が毎回増加。高校現場における進路指導の難しさが06年以降高まっている様子がうかがえる。
- 大短進学率別にみると、進学率が低い高校ほど「非常に難しい」と感じる割合が多い。特に大短進学率[40%未満]の学校では「非常に難しい」が53%と、前回(36%)から17ポイントも大幅に増加。前回ほぼ同程度だった[40～70%未満]の高校を大きく上回った。
- 設置者別にみると、「非常に難しい」と感じる割合は、私立よりも国公立、高校タイプ別では普通科よりも総合学科や専門高校で多くなっている。
- 地域別にみると、「非常に難しい」が最も多いのは中国・四国(49%)。ついで関西、北海道(各42%)で、4割を超えるのはこの3地域。反対に低いのは南関東と九州・沖縄(34%)。

■ 進路指導の難易度(全体／単一回答)



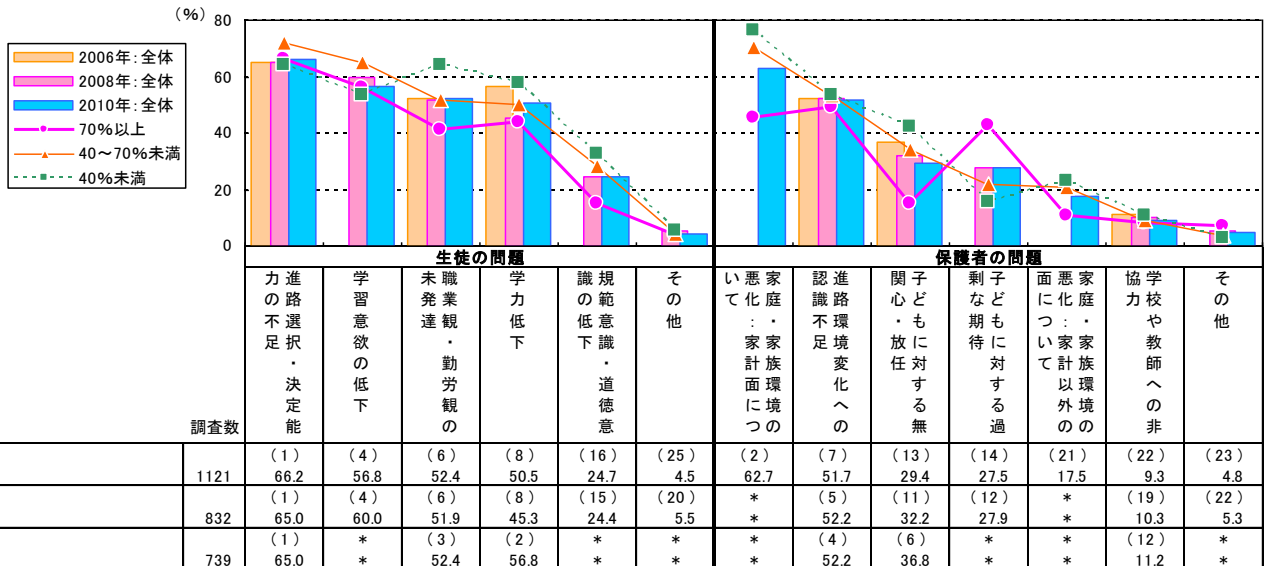
Q01

2)進路指導の難しさの要因

▶「雇用環境の変化」「家庭環境の悪化」が増加

- 現在の進路指導を「非常に難しい・やや難しい」と回答した人にその要因をすべてあげてもらったところ、最も多かったのは【生徒】の「進路選択・決定能力の不足」66%。以下、【保護者】の「家庭・家族環境の悪化(家計面)」63%、【学校】の「教員の進路指導に関する時間不足」61%と続き、いずれも6割を超えた。
- 前回と比べ大幅に増えたのは【保護者】の「家庭・家族環境の悪化・計(家計面+家計面以外)」、【進路環境】の「産業・労働・雇用環境の変化」「高卒就職市場の変化」。反対に大幅に減少したのは【進路環境】の「入試の多様化」「入試の易化」。その他にも【学校】の「校内連携の不十分」「旧態依然とした教員の価値観」「生徒とのコミュニケーション不足」などが06年以降減少傾向にある。
- 大短進学率別にみると、全般的に[40～70%未満]と[40%未満]の数値が高い項目が多く、特に[40～70%未満]では、[70%以上]と[40%未満]の学校双方の特徴を併せもつ傾向がうかがえる。
 - ・[70%以上] ① 進路選択・決定能力の不足 ② 教員の進路指導に関する時間不足 ③ 入試の多様化
 - ・[40～70%未満] ① 進路選択・決定能力の不足 ② 家庭・家族環境の悪化(家計面) ③ 学習意欲の低下
 - ・[40%未満] ① 高卒就職市場の変化 ② 家庭・家族環境の悪化(家計面) ③ 産業・労働・雇用環境の変化

■ 進路指導の難しさの要因(進路指導は難しいと感じている者／複数回答)



【2010年属性別】

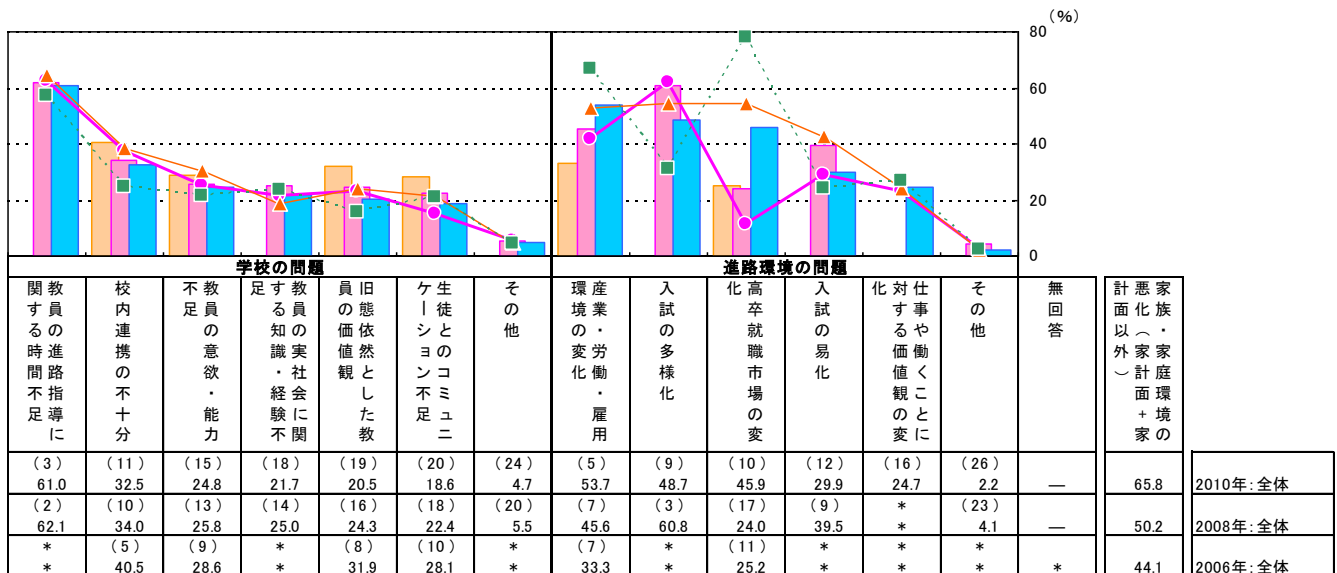
大短進学率別	70%以上	447	66.0	56.2	41.2	43.6	15.2	3.8	45.6	49.2	15.0	42.5	10.5	8.1	7.2
	40～70%未満	240	72.1	65.0	51.7	50.4	28.3	4.2	70.4	53.3	34.2	21.7	20.8	9.2	3.8
	40%未満	426	63.8	53.1	64.1	57.7	32.4	5.4	76.3	53.3	42.0	15.3	22.8	10.6	2.8
設置者別	国公立	832	67.3	56.6	53.4	51.9	25.1	4.6	65.9	52.3	30.9	22.5	16.6	9.0	4.8
	私立	281	64.1	57.7	48.8	46.3	23.1	4.3	53.4	49.8	25.3	42.7	19.9	10.0	4.6
高校タイプ別	普通科	813	66.4	59.4	50.3	49.2	22.5	3.6	60.0	52.4	28.0	30.3	16.0	10.0	5.2
	総合学科	87	74.7	63.2	64.4	54.0	35.6	3.4	81.6	56.3	34.5	17.2	26.4	17.2	3.4
	専門高校	158	63.9	41.8	56.3	55.1	31.6	7.0	67.7	46.8	35.4	17.1	20.3	3.2	2.5
地域別	北海道	87	66.7	40.2	56.3	60.9	25.3	2.3	73.6	41.4	42.5	19.5	16.1	9.2	6.9
	東北	111	64.0	55.0	53.2	51.4	22.5	3.6	64.9	64.0	32.4	20.7	17.1	10.8	3.6
	北関東・甲信越	137	57.7	56.9	52.6	48.9	25.5	6.6	62.8	48.9	22.6	30.7	16.1	9.5	2.9
	南関東	189	72.0	55.0	47.1	49.2	19.0	4.2	58.2	49.2	27.5	35.4	14.3	4.2	6.3
	東海	131	72.5	56.5	49.6	47.3	26.7	6.9	56.5	54.2	26.0	29.0	22.1	10.7	8.4
	北陸	32	78.1	62.5	53.1	53.1	34.4	—	71.9	50.0	37.5	31.3	21.9	9.4	—
	関西	142	69.0	57.0	50.0	44.4	25.4	4.2	60.6	48.6	26.1	28.2	16.2	10.6	3.5
	中国・四国	144	63.9	65.3	53.5	55.6	20.8	4.9	61.8	59.7	31.3	25.0	22.2	10.4	1.4
	九州・沖縄	140	61.4	61.4	58.6	50.0	31.4	3.6	67.1	47.1	31.4	24.3	15.0	10.7	6.4

※各カテゴリーごと「2010年:全体」の降順ソート

※【2010年属性別】は、「2010年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

※()内数値は全体順位

- 設置者別にみると、【学校の問題】は国公立よりも私立の方が全般的に高く、【生徒の問題】や【保護者の問題】は、国公立の方が高めとなる項目が多い。
- 高校タイプ別にみると、全般的に総合学科が最も高くなる項目が多いが、「産業・労働・雇用環境の変化」と「高卒就職市場の変化」については専門高校の割合が目立って高くなっている。
- 地域別にみると南関東、東海、関西は“入試に関する事柄”、北海道、東北、北陸、中国・四国、九州・沖縄などは“家庭環境(家計)や経済・雇用に関する事柄”が、他地域よりも高くなる傾向。
 - ・北海道 ①家庭・家族環境の悪化(家計面) ②進路選択・決定能力の不足 ③学力低下
 - ・東北 ①家庭・家族環境の悪化(家計面)
②進路環境変化への認識不足、進路選択・決定能力の不足、産業・労働・雇用環境の変化
 - ・北関東・甲信越 ①家庭・家族環境の悪化(家計面) ②進路選択・決定能力の不足、教員の進路指導に関する時間不足
 - ・南関東 ①進路選択・決定能力の不足 ②教員の進路指導に関する時間不足 ③入試の多様化
 - ・東海 ①進路選択・決定能力の不足 ②教員の進路指導に関する時間不足
③学習意欲の低下、家庭・家族環境の悪化(家計面)
 - ・北陸 ①進路選択・決定能力の不足 ②家庭・家族環境の悪化(家計面)、教員の進路指導に関する時間不足
 - ・関西 ①進路選択・決定能力の不足 ②教員の進路指導に関する時間不足 ③家庭・家族環境の悪化(家計面)
 - ・中国・四国 ①学習意欲の低下 ②進路選択・決定能力の不足 ③家庭・家族環境の悪化(家計面)
 - ・九州・沖縄 ①家庭・家族環境の悪化(家計面) ②進路選択・決定能力の不足、学習意欲の低下



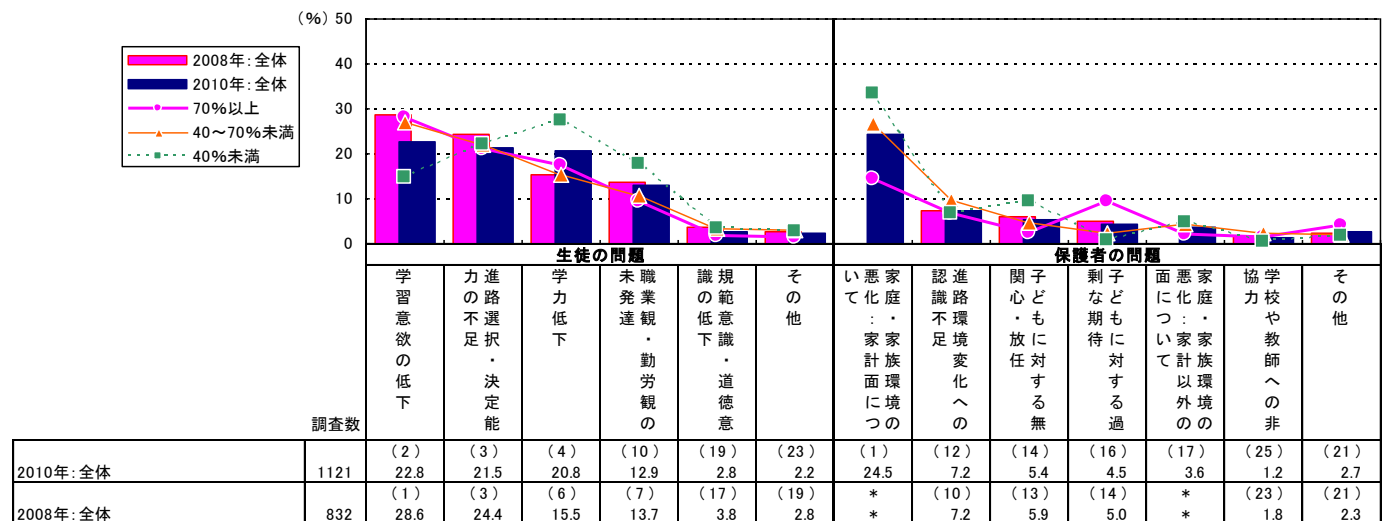
62.4	37.1	25.1	21.5	23.0	15.2	5.4	41.8	62.0	11.4	28.9	23.0	2.7	—	49.9	70%以上
64.6	38.3	30.4	18.8	23.8	21.3	4.6	52.9	54.6	54.2	42.5	24.2	2.1	—	73.3	40~70%未満
57.0	24.4	21.4	23.7	15.7	20.7	4.2	66.7	31.2	77.9	23.9	26.5	1.9	—	78.4	40%未満
59.7	29.0	23.9	19.8	17.5	18.5	4.9	56.9	47.1	51.1	28.0	24.2	2.6	—	67.9	国公立
64.1	43.1	27.4	27.4	28.8	18.9	4.3	44.5	53.0	31.3	35.6	26.0	1.1	—	59.8	私立
63.1	36.8	25.3	21.6	21.5	18.1	4.9	49.2	54.6	35.7	32.6	25.2	2.3	—	63.6	普通科
65.5	27.6	24.1	29.9	23.0	25.3	5.7	64.4	51.7	66.7	34.5	27.6	2.3	—	81.6	総合学科
55.1	17.7	24.7	19.0	12.0	22.2	2.5	70.3	19.0	81.0	15.8	25.9	1.9	—	70.3	専門高校
54.0	26.4	34.5	21.8	16.1	18.4	3.4	56.3	46.0	55.2	28.7	28.7	3.4	—	74.7	北海道
60.4	35.1	22.5	18.0	16.2	21.6	4.5	64.0	40.5	60.4	20.7	17.1	3.6	—	66.7	東北
57.7	32.8	18.2	15.3	18.2	15.3	10.2	56.2	42.3	46.7	30.7	24.1	2.2	—	65.0	北関東・甲信越
65.6	33.9	24.3	22.2	26.5	16.4	3.2	46.6	60.8	32.3	38.1	23.8	2.1	—	63.0	南関東
61.8	32.1	26.0	29.8	24.4	22.1	6.1	51.1	55.0	42.0	29.0	22.9	2.3	—	58.8	東海
71.9	40.6	28.1	18.8	9.4	25.0	—	53.1	40.6	68.8	28.1	28.1	—	—	75.0	北陸
64.8	26.1	24.6	19.7	17.6	16.9	4.2	53.5	55.6	45.8	29.6	21.1	2.1	—	63.4	関西
59.0	33.3	25.7	29.2	19.4	17.4	1.4	56.3	45.1	45.8	28.5	29.2	0.7	—	68.1	中国・四国
56.4	36.4	25.0	17.9	22.9	20.7	6.4	51.4	38.6	46.4	29.3	29.3	2.9	—	69.3	九州・沖縄

3)進路指導の難しさの最大要因

▶大短進学率の違いで要因が大きく異なる

- 進路指導を困難にしているすべての要因のうち、最も大きな要因とを感じるものを3つまで選んでもらった。最も多かったのは【保護者】の「家庭・家族環境の悪化(家計面)」25%。以下【生徒】の「学習意欲の低下」23%、「進路選択・決定能力の不足」22%、「学力低下」21%と続く。
- 前回に比べ増加したのは、「学力の低下」と「家庭・家族環境の悪化・計(家計面+家計面以外)」、高卒就職市場の変化」「産業・労働・雇用環境の変化」。
- 大短進学率別にみるとそれぞれの課題の違いがわかる。[70%以上]は1位が「入試の多様化」。「学習意欲の低下」「教員の進路指導に関する時間不足」がそれに続く。[40～70%未満]の1位は「学習意欲の低下」.[70%以上]においても2位であり、進学に向けて共通の課題といえる。続く「家庭・家族環境の悪化(家計面)」は[40%未満]でも2位と、進学率が低い層ほどこの課題が深まっている。[40%未満]の最大の困難は「高卒就職市場の変化」。雇用環境の悪化が直撃している。

■ 進路指導の困難の最大要因【最も大きな要因／上位3つ】(進路指導は難しいと感じている者／複数回答)



【2010年属性別】

大短進学率別	70%以上	447	28.0	21.0	17.2	9.4	1.8	1.3	14.5	6.7	2.2	9.4	2.0	1.3	4.0
	40～70%未満	240	27.1	22.1	15.4	10.8	3.3	2.9	26.7	9.6	4.6	2.5	4.2	2.5	2.1
	40%未満	426	14.8	22.1	27.2	17.6	3.5	2.8	33.3	6.6	9.2	0.7	4.7	0.2	1.6
設置者別	国公立	832	23.3	21.8	21.6	13.1	2.4	2.5	26.7	7.3	5.6	2.3	3.4	1.3	2.3
	私立	281	21.0	21.4	17.8	12.1	3.9	1.4	17.4	7.1	4.6	11.4	3.9	0.7	3.9
高校タイプ別	普通科	813	26.0	21.2	19.3	11.8	2.3	1.7	23.6	7.1	5.3	5.7	3.2	1.4	2.8
	総合学科	87	25.3	25.3	23.0	14.9	3.4	1.1	25.3	10.3	3.4	2.3	6.9	2.3	2.3
	専門高校	158	8.2	21.5	28.5	17.7	3.8	3.8	29.1	7.6	8.2	0.6	4.4	—	1.3
地域別	北海道	87	11.5	18.4	28.7	11.5	1.1	2.3	37.9	4.6	8.0	3.4	3.4	—	2.3
	東北	111	17.1	18.9	27.0	12.6	0.9	2.7	26.1	9.9	7.2	3.6	3.6	3.6	0.9
	北関東・甲信越	137	24.1	19.0	17.5	8.8	3.6	2.9	25.5	6.6	2.2	5.8	2.2	—	2.2
	南関東	189	20.6	24.3	15.3	10.6	1.6	2.1	27.0	6.3	4.2	7.4	1.1	1.1	3.7
	東海	131	22.1	27.5	14.5	15.3	2.3	3.1	19.1	10.7	2.3	4.6	3.8	1.5	5.3
	北陸	32	31.3	21.9	31.3	21.9	9.4	—	28.1	9.4	6.3	—	6.3	—	—
	関西	142	23.9	21.8	17.6	12.7	3.5	2.1	16.2	2.1	7.7	5.6	4.9	0.7	2.8
	中国・四国	144	31.9	18.1	25.7	13.2	2.1	2.1	23.6	7.6	6.3	1.4	4.9	1.4	0.7
	九州・沖縄	140	23.6	22.9	22.1	16.4	5.0	1.4	22.9	10.0	6.4	4.3	4.3	1.4	3.6

※各カテゴリーごと「2010年:全体」の降順ソート

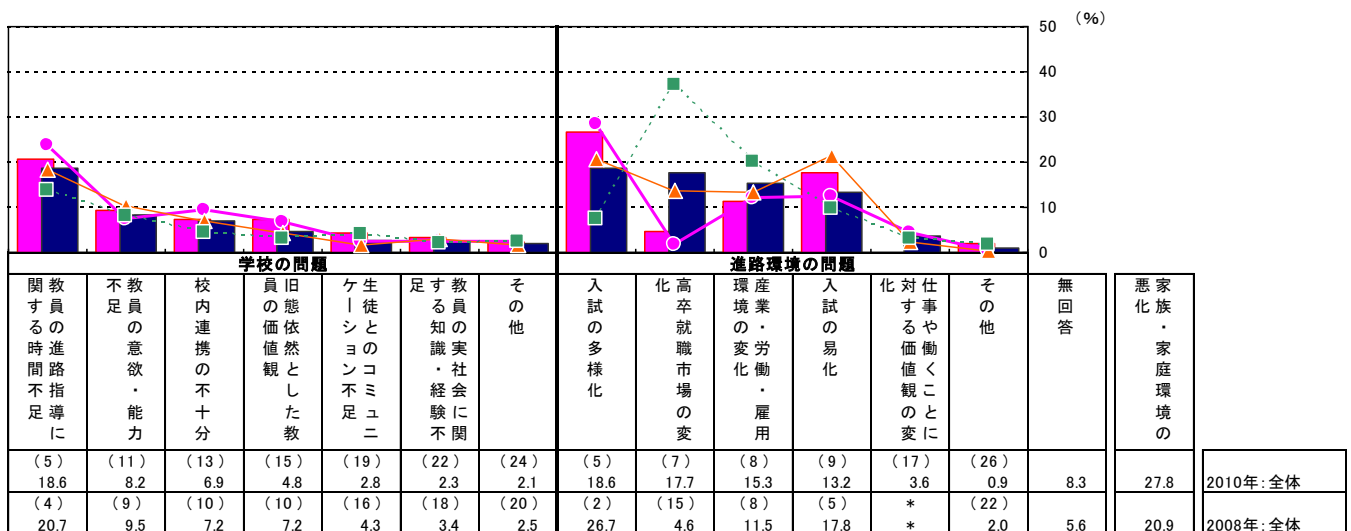
※【2010年属性別】は、「2010年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

※()内数値は全体順位

Q02SQ01

●地域別の上位3項目は以下のとおり。東海、関西以外の地域では「家庭・家族環境の悪化(家計面)」が上位3項目として挙げられている。

- ・北海道 ①家庭・家族環境の悪化(家計面) ②学力低下 ③高卒就職市場の変化
- ・東北 ①学力低下、高卒就職市場の変化 ③家庭・家族環境の悪化(家計面)
- ・北関東・甲信越 ①家庭・家族環境の悪化(家計面) ②学習意欲の低下 ③進路選択・決定能力の不足
- ・南関東 ①入試の多様化 ②家庭・家族環境の悪化(家計面) ③進路選択・決定能力の不足
- ・東海 ①進路選択・決定能力の不足 ②学習意欲の低下 ③入試の多様化
- ・北陸 ①学習意欲の低下、学力低下 ③家庭・家族環境の悪化(家計面)
- ・関西 ①学習意欲の低下 ②進路選択・決定能力の不足、教員の進路指導に関する時間不足
- ・中国・四国 ①学習意欲の低下 ②学力低下 ③家庭・家族環境の悪化(家計面)
- ・九州・沖縄 ①学習意欲の低下 ②進路選択・決定能力の不足、家庭・家族環境の悪化(家計面)



23.7	7.4	9.2	6.7	2.2	2.2	2.2	28.2	1.6	11.9	12.5	4.5	0.4	10.1	16.6	70%以上
18.3	10.4	7.1	4.2	1.7	2.9	1.7	20.8	13.8	13.3	21.3	2.5	0.4	9.6	30.4	40~70%未満
13.6	8.0	4.5	3.1	4.0	2.1	2.3	7.5	36.9	20.0	9.6	3.1	1.6	5.6	37.6	40%未満
19.1	8.8	5.5	4.0	3.0	2.0	2.3	17.1	20.0	17.2	11.8	3.4	1.2	7.8	29.7	国公立
17.4	6.8	11.0	7.1	2.1	3.2	1.8	23.5	11.0	9.6	17.8	3.9	—	9.6	21.4	私立
20.4	8.2	7.9	5.4	2.2	2.0	2.3	22.1	11.7	12.8	14.8	3.4	0.7	8.6	26.6	普通科
12.6	5.7	5.7	1.1	2.3	5.7	2.3	19.5	19.5	17.2	14.9	3.4	—	8.0	32.2	総合学科
16.5	8.9	3.2	3.2	5.7	3.2	1.3	3.8	43.7	23.4	6.3	4.4	1.9	5.1	32.9	専門高校
13.8	14.9	4.6	4.6	3.4	—	2.3	11.5	19.5	18.4	12.6	3.4	2.3	6.9	41.4	北海道
22.5	6.3	4.5	3.6	4.5	—	1.8	14.4	27.0	18.9	11.7	0.9	3.6	9.0	28.8	東北
17.5	6.6	6.6	5.1	0.7	1.5	5.1	15.3	16.8	16.8	14.6	0.7	0.7	12.4	27.0	北関東・甲信越
20.6	6.9	10.6	5.8	3.7	3.2	0.5	28.0	12.7	13.8	16.4	3.2	0.5	6.3	28.0	南関東
16.0	10.7	7.6	6.1	3.1	1.5	0.8	20.6	19.8	10.7	11.5	6.9	—	8.4	22.9	東海
21.9	6.3	9.4	3.1	6.3	3.1	—	12.5	9.4	12.5	9.4	3.1	—	9.4	34.4	北陸
21.8	7.0	5.6	3.5	2.1	3.5	2.1	19.7	15.5	16.2	12.7	3.5	0.7	10.6	20.4	関西
17.4	7.6	5.6	3.5	3.5	4.2	0.7	18.1	18.8	16.0	12.5	4.2	—	6.3	28.5	中国・四国
17.1	9.3	7.1	5.7	0.7	2.9	5.0	16.4	17.9	14.3	13.6	5.0	0.7	6.4	27.1	九州・沖縄

4【フリーコメント①】生徒の問題でどのような困難が生じているか

▶学習意欲の低下

【大短進学率70%以上】

- AO入試や、指定校など学力が不足していても、合格できる入試に、本人、保護者とも頼ってしまい、入学後のことまで考えた進路指導がしにくい(関西/普通)
- 併設大学があるため主体的に自分を追い込んで学習しなくても大学に進学できてしまう(南関東/普通)
- 中高一貫校で高校入試を経験していないので、年々学習意欲が低下している。目標もぎりぎりまで決定できない(東北/普通)
- 知的好奇心の欠如による知りたい学びたいという態度がうすれ、与えられた教材で満足している。それにより、大学で何を学びたいか、その意欲がわからない生徒が増加(九州・沖縄/普通)
- 復習、家庭学習をしないため、知識が定着せず、受験期に入ってもいつまでも基礎力を確立できない生徒が増加している(南関東/普通)
- 将来への目的意識をもてず、学習に対する意欲が低い(南関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 努力もせずに、すぐに志望校をあきらめてしまう。一般入試を避けて、推薦、AO入試にとびついてしまう(中国/普通)
- 学習しなくとも入れる上級学校が出てきているが、進学してから苦戦している(東北/普通)
- 学習に限らず、さまざまな事象に対して興味、関心がなく新たに何かを得ようという意欲に欠けるため、各種プログラムの意義を理解できない(四国/総合)
- 働きたくないし勉強もしたくない生徒たちが多く、頑張らせるための動機付けがきわめて難しい(南関東/普通)

【大短進学率40%未満】

- 入試の易化、多様化にともなって、学力をともなわなくても合格できるようになり、学習意欲が低下して来ている(北海道/普通)
- 学ぶ意欲がなくても、どこかの大学へ入学できる現状のシステムや、就職が厳しいと理解していても、どこかで何とかなんとした甘え(東海/総合)
- 何のために勉強するのかという目標がもちにくい社会状況があり、生徒の意欲が低下している(中国/総合)

▶進路選択・決定能力の不足

【大短進学率70%以上】

- 進路に関するさまざまな情報を、生徒自らが積極的に得ようとする姿勢が大変弱いように感じます。情報は与えてもらうものだと考えているようです(関西/普通)
- まじめで素直な生徒が多いが、半面自発的に進路を考え、自ら決定することに慣れていない。敷かれたレールがないと行動できない(南関東/普通)
- 自分の進路について、自分も生活の中で情報を収集し、選択し、決定するという主体的行動がとれないことが多い(中国/普通)
- 生徒が自分で調べる、考える力が低下している。教員が一から教えてあげる必要が生じている(四国/総合)

【大短進学率40～70%未満】

- 安易な進路選択。推薦に流れる(南関東/普通)
- 生徒が、今、目の前のことだけに夢中になり、先を見て進路を決定しない。安易に指定校を選ぶ。大学を退学する場合も(南関東/普通)
- 生徒、保護者が、自分のこととしてとらえていない。他人事のようである(北海道/総合)

▶進路選択・決定能力の不足(続)

【大短進学率40%未満】

- 自主的に進路を選択、決定してこうという意識が低く、他人任せで面接指導や補講などを実施しても緊張感に欠ける場面が多々見られる(東海/普通)
- 学校側でいろいろガイダンスを積んでも自分がどうなるか考えることができない生徒が多くなってきているのでは(南関東/総合)
- 自分で決定できない。保護者、教師の指示待ちが多くなっていく。友人の進路に同調しやすい(九州・沖縄/普通)
- 進路意欲に乏しく、他の意見によって簡単に方向を変えてしまう。すべてを教員に頼る姿勢(甲信越/専門)

▶学力低下

【大短進学率70%以上】

- 校内における学力幅の拡大により、身につけさせたい学力に対する教員間の統一が図りにくい(甲信越/普通)
- 本来中学校までに身につけておくべきことが身につけていない生徒が増加している(四国/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 安易な推薦入試への偏重。入れる大学に入る傾向(東北/普通)
- 小学校のうちに身につけておかなければならない、基礎中の基礎について定着がみられない。大学の一般受験に対応できない(南関東/普通)
- “ゆとり教育”によってもたらされた授業時間数削減は、生徒の知識不足を顕著にした(東海/普通)
- 「職業観、勤労観の未発達」、「学習意欲の低下」とも関連は強い。まず学力が伴っていないと、授業の理解もままならないうえ、さまざまな入試試験の突破もできない(中国/普通)

【大短進学率40%未満】

- 小・中学校程度の漢字の読み書きや計算ができず、就職試験の内定率が上がらない(関西/専門)
- 社会に出て対応できるほどの学力が備わらないまま卒業してしまうため、就職しても続かない(北海道/普通)
- 学力、基礎力の低下は、勉強についてだけでなく、思考力、行動力、すべて低下している。小学校時代から自分の生活レベルを見定めている(南関東/専門)

▶職業観・勤労観の未発達

【大短進学率70%以上】

- 働くという意識の不足。将来のイメージができない(南関東/普通)
- 生徒の将来の職業をみすえた進路決定が困難であり、生徒自らが進路の目標を立てられない(甲信越/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 業種・職種への関心が低下している。発想が安易で直線的。結果のみを見てプロセスに目が向かない(関西/普通)
- あこがれがそのまま、希望になっている生徒が多く、職業に対する正しい認識がなされている。働くことの意義を見いだせていない(東北/普通)

【大短進学率40%未満】

- 働くということの軽視。人生を大きく左右する認識が少ない(甲信越/普通)
- 将来の明確な目標を確立できないため、「自分の働くイメージ」を構築できない(東北/普通)
- 長期雇用には耐えられるだけの精神力が未発達。積極的に就職試験を受験せず、採用後早期離職もある(九州・沖縄/普通)
- なぜ仕事をするのか、根本的なことが理解できない生徒が増えてきている(四国/専門)

5)【フリーコメント②】保護者の問題でどのような困難が生じているか

▶ 家庭・家族環境の悪化：家計面について

【大短進学率70%以上】

- 進学を目指して頑張ってきていても、家計の変化で就職せざるを得ない、浪人も予備校へ行けない生徒が増えている(東北/普通)
- 優秀な能力をもちながら、就職せざるを得ない。四大志望を、短大、専門にせざるを得ない者が増加している(東海/普通)
- 本州の大学に進学させることが難しいという保護者が増えた(北海道/普通)
- 経済的事情により県外大学への進学が困難(九州・沖縄/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 本人の進路希望が、経済状況の悪化から、変更せざるを得ないケースが増えている(北海道/普通)
- 親のリストラや家計の悪化により、学力の高い生徒が就職や地元の専門学校進学しかできない。親の安易な予約奨学金申し込みの増加(東北/普通)
- 高い学力があっても就職せざるを得ない生徒が年を追って増大している(中国/普通)
- 学校のアドバイスでなく、特待生や奨学金など、どう工夫したら学費を低くおさえられるかの金銭面での相談が多い(南関東/総合)
- 経済的理由による親と子の意見の対立。高い学力を有しながらそれにみあった進学先に進学することができない(甲信越/専門)

【大短進学率40%未満】

- 授業料を滞納するほど経済的に困窮し、正式な就職採用試験も進学もできないケースが増えている(東北/普通)
- 経済的に厳しい家庭が増え、進学を希望していても学費を用意できない家庭が増えている(北関東/普通)
- 入学金や授業料の支払いが困難で上級学校を断念する生徒が年々増加している(南関東/普通)
- 突然のリストラ等での進学断念。経済的理由から大学進学希望者(特に私大4年制)の減少(東北/普通)
- 地方の求人が少なく、東京方面の住込求人も少ない。通勤として、アパートを借りる資金を出せない家庭が増えている(東北/専門)
- 成績が優秀でも、進学を断念するケースがある(南関東/普通)
- 経済的に進学できない生徒の増加。家計を支えることに必死で、子どもの教育に目が向かない家庭の増加(北海道/普通)
- 家計の悪化のため、進学先の「内容」よりも「距離＝家から近いかどうか」のほうに重視されている。就職も同様。選択の幅が狭くなってしまう(九州・沖縄/普通)
- 経済力のない家庭の生徒は、進学したくても就職をしなくてはいけないので、納得した指導が難しい(東海/普通)
- 不況による、親の離職や収入減による進路の選択幅の減少(中国/総合)

▶ 進路環境変化への認識不足

【大短進学率70%以上】

- 親は大学の名前で大学を選びがちであり、本人の適性やその後の就職等をあまり考えなくなっている(北関東/普通)
- 有名大学に入れさえすればよいという親が多い(東海/普通)
- 保護者が簡単にAOで決めてしまおうとするのでせっかく面談をして生徒にやる気をもたせてもそれを潰してしまう(中国/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 子どもに甘すぎ。推薦などの楽な道を進ませようとする。地元から出したがらない。浪人は考えられない(東海/普通)
- 自分たち(保護者の時代)の大学のランキングで志望校を見ている。そのため、特に私大の易化に対する認識が甘い(九州・沖縄/普通)
- 四大志向は強くなったものの、「大学に入れば何とかなる」という意識が強く、「専門学校は就職に強い」との誤解も少なくない(南関東/総合)

【大短進学率40%未満】

- 勉強ができない。または、勉強をしないから就職を選ぶという甘さ。就職を希望するのなら、それこそ基礎学力の定着は絶対でなければならないのに、理解されていない(九州・沖縄/専門)
- 専門高校＝就職、商業高校＝事務、販売の仕事へと思っておられるが、そのとおりにはいかない(中国/専門)

▶ 子どもに対する無関心・放任

【大短進学率70%以上】

- 無関心、放任とまでいわないが、無理はさせず、適度なところで、進学を決めようという姿勢につながる(南関東/普通)
- 進路説明会等の保護者の参加が少なく学校の説明が浸透しにくい(関西/普通)
- 進路については学校で教える(面倒を見る)ものという意識が強い(九州・沖縄/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 親がすべて学校まかせで、トラブルがおきると、すぐ学校のせいにする(北関東/普通)
- “子どもにまかせている”と言うばかり。その子どもは何も考えていない(東海/普通)

【大短進学率40%未満】

- 家庭の教育力が低下しており、子どもに対する家庭教育ができていないと感じることが多く、その分を学校に押し付けてくる(南関東/普通)
- 保護者自身も自分のことで精いっぱいであり、子どものことに対しての時間的、金銭的余裕がない(九州・沖縄/普通)

▶ 子どもに対する過剰な期待

【大短進学率70%以上】

- 進路実績の期待感が強い(北関東/普通)
- 親の過干渉(南関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 入試手続きを通じて自立していくべきところを、親が関与しすぎている。子どもがしっかりせず困る(九州・沖縄/普通)
- 親が子どもの適性や能力を理解できず、親の希望に従わせようとする(北海道/普通)

【大短進学率40%未満】

- 子どもの学力と仕事の資格の難易度が合っていない。学力向上がないのを学校の責任にする(中国/未記入)

6)【フリーコメント③】学校の問題でどのような困難が生じているか

▶教員の進路指導に関する時間不足

【大短進学率70%以上】

- 会議、各種調査等のため生徒と接する時間がどんどん減っている(東北/普通)
- 校務に追われ教員間で生徒について個別に話し合う時間がもてない(南関東/普通)
- 面談の時間を確保したいが、授業をカットすることもできないので放課後に実施することになり、担任の負担が大きくなっている(南関東/普通)
- 職場がとても忙しく、一人ひとりの生徒への進路指導に十分時間がかけられない(北陸/普通)
- 会議、補習などの時間が増大しており、教員が研修する時間が取れないのが現状。時間の確保が課題(関西/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 親のリストラや家計の悪化により、学力の高い生徒が就職や3年の担任は指定校、一般推薦および、AO入試の作文指導や面接の練習、さらに推薦書作成で、忙殺されているのが現状です(南関東/普通)
- 事務的業務の増大によって、生徒一人ひとりに向き合う時間が不足(九州・沖縄/普通)
- さまざまな業務による多忙化と入試の多様化、進路の多様化により十分な指導ができない(東北/普通)

【大短進学率40%未満】

- 進路指導のための時間が確保できない(東海/専門)
- 入試方法も多様化し、進路希望も多岐にわたるので、それに対応するための研修時間が足りない(甲信越/普通)
- 生徒とのコミュニケーションをとる時間が少ない。十分な面接指導や小論文指導ができない(九州・沖縄/普通)

▶教員の意欲・能力不足

【大短進学率40%以下】

- キャリア教育の価値がわかってもらえず、無駄な営みとしか受けとられない(南関東/普通)
- 校内で進路指導のシステムは整っているが、それを扱う担任などの教員が能力不足でクラス間に差が生じて、学年、学校としての指導ができない(南関東/普通)
- 学校の目標に一丸となって・・・という姿勢に欠けるし、授業力、コミュニケーション能力も低下しつつある(北関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 有能な人材の不足。こちらが指示しなければ、動かない。指示待ちの人間の増加(関西/普通)
- 教職員の進路指導経験が少なく進路指導部への負担が多くなっている(九州・沖縄/普通)
- 生徒を伸ばそうとする意欲の不足(中国/普通)

【大短進学率40%未満】

- 若い教員が多くなる中、中堅教員の指導が難しいことが増えた。結果として若い教員が子どもを管理する方向にすすみ、先輩の意見をきこうとしない(北海道/専門)
- 担任が生徒の性格、適性をあまりにも把握していない。生徒の希望をそのままではダメ。指導できない教員がいる(東海/専門)

▶校内連携の不十分

【大短進学率70%以上】

- 内部推薦による進学が大半なので外部大学進学に対する理解がない(南関東/普通)
- 学校の教育方針が形式化し組織化されていない(関西/総合)
- 各学年の主導により進路指導という旧態依然とした体制から抜け切れない(中国/普通)
- 教員の意欲、能力不足にもかかわらず、進路担当者が企画、計画したことをクラス単位で統一した指導で実施できない(南関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 進路情報の収集や指導のスキルアップに対する意識が低く生徒への指導がうまくできない教員の存在(東北/普通)
- 各分掌の仕事の増大の中、なかなか連携がとれず、複数の分掌間にかかわる事項について後手、後手となってしまいうらいがある(中国/普通)
- 校内での進路指導の体制が十分確立していると言いがたく(新設校なので)過去の実績もなく総学などうまく活用できていない(東海/普通)

【大短進学率40%未満】

- 教員は皆多忙で多様な生徒を前に疲れており、連携を密にし共通認識を育もうと思っても実現に至らない(東海/普通)
- 普通科を2コースに分けている。それに加えて商業科があり、極端にいうと3つの学校のように意識が違う(東北/普通)
- 生徒の意欲や能力のなさを理由にして、担任一人に任せっきりになる。各教科、学科で取り組みれば、もう少し効率良く、成果のある内容になると思うが協力が得られない(九州・沖縄/専門)

▶旧態依然とした教員の価値観

【大短進学率70%以上】

- 社会の多様化に、教員がついていっていない(中国/普通)
- 入試や生徒の変化についていけない(情報収集、分析をしない)教員がいる(北関東/普通)
- 国公立偏重、偏差値の高い大学に入ればOK。生徒の適性を見極めているのか疑問である(東北/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 若手の教員が積極的に提案しても勉強不足の年配教員が否定的な発言をすると、その先に進みづらくなってしまう(甲信越/普通)
- 研修を進んでやらないで、過去の指導に自信をもっている教員が多数存在する(北海道/普通)
- 旧態依然とした教員の価値観(関西/普通)
- 偏差値の高い大学に入ればよいという以上の価値観を示せず、進学指導が全てと考えている教師が多い(東北/普通)

【大短進学率40%未満】

- 入試制度の多様化に対応できず、指導しきれっていない(東北/普通)
- 就職なら何とかという状況が、まだ教員の認識にある(東海/その他)
- キャリア教育の概念の理解が進まず、全教育活動の中での取り組みとはなっていない(キャリア教育の取り組みが何か、特別な活動のように考えられている)。早い段階での、多角的な(生徒への)アプローチが必要なのだが(関西/普通)

7)【フリーコメント④】進路環境の問題でどのような困難が生じているか

▶入試の多様化

【大短進学率70%以上】

- 大学ごとにさまざまな入試形態が存在するので現場での対応が限界(北関東/普通)
- 多様化は入試の回数増を招き、日程的にも心理的にも、3年生後半の高校生活全般に悪影響を与えている(関西/普通)
- AO入試、推薦入試が本来の意味がうすれ青田買い入試方式になっている。センター試験の利用法が学部(大学)によって差異があり併願パターンが複雑すぎる(東海/普通)
- AOや推薦入試が先行して行われるため、一般入試の定員が少なくなり、一般入試では合格しにくくなっている。早く合格の決まる生徒が増えて、最後まで生徒を頑張らせることが困難になっている(東海/普通)
- 高校の指導体制(ハードもソフトも)が、多様化に対応しきれない(中国/普通)
- 学部、学科が多様化し、研究内容が把握できないと同時に、入試方式がさまざまで受験計画が立てられない(東海/普通)
- 入試に対応するためにカリキュラムや授業内容にひずみが生じてしまう(東北/普通)
- 入試が多様化しすぎて、生徒も保護者も混乱している(北陸/普通)
- あまりにも入試方式が多すぎて対応しきれない。小論、面接、実技、プレゼン…など、その指導に教員のほうがついてこれていない(南関東/普通)

【大短進学率40～70%未満】

- 生徒は進路先を早く決めたり、安易に指定校推薦や一般入試、最近ではAO入試に飛び付き、一般入試にチャレンジしようとしていない(南関東/普通)
- 高校卒業程度の学力をつけていない生徒が大学に受かってしまうという驚き、心配、不安(東海/普通)
- AOや推薦といった安易な尺度が幅をきかせてしまい、勉強しようとする意欲がない者でも進学できてしまう。入試時期が早期化したこともあり、授業への悪影響が大きい(南関東/普通)
- 専門学校のAO入試の早期化(6/1～)による弊害。是非9月以降に早急に改めるべき(甲信越/普通)
- 入試の多様化によって、高校教育で教えていることが、入試に反映されていないジレンマを感じる(東海/普通)
- AO入試、推薦入試の選抜方法が、各上級学校によって多様であるため、生徒だけでなく、教員も理解するのに時間がかかる(東北/その他)

【大短進学率40%未満】

- 夏期休業前はAO、夏期休業明けは推薦、その後一般というように指導の回数が増え、一斉指導で済ませる場面が減少した(北海道/普通)
- AOの増加。夏就職、AOの指導が重なりかなりの負担である(四国/総合)
- 複雑すぎて把握しきれぬ。情報が多すぎて混乱(中国/総合)

▶高卒就職市場の変化

【大短進学率70%以上】

- 求人数が異常なほど少なく、生徒の一生を左右する就職の指導が難しい(東北/普通)
- 行政、政治の就職者数(雇用)政策の不備。生徒の働く意欲を減退させている(関西/普通)
- 現在の経済の状況では、子どもたちに“将来の目標、夢をもちなさい”と言いくらい。そんな世の中である(北海道/普通)

▶高卒就職市場の変化(続)

【大短進学率40～70%未満】

- 長期にわたる不況で、生徒の満足できる就職先が少なくなり、定着率も低下している(関西/普通)
- 高卒求人減や、業務の片寄りは教員として対処するには、限界がある(九州・沖縄/普通)
- 3年前まで(リーマンショック以前)の指導基準、方法が使えなくなっている(北関東/専門)

【大短進学率40%未満】

- 高卒求人数が激減しており、特に、普通科の生徒が就職できる状況は困難になっている(関西/普通)
- 就職先の確保をするのが非常に大変である。求人依頼や求人開拓のための企業訪問をするにも旅費等の予算措置がほとんどない(関西/総合)
- 受験したくても求人がない。進学したくても金銭的な都合がつかず、本人の希望する職種がなくても就職せざるを得ない状況にあるから(北海道/専門)
- 求人数が激減し、特に本校は女子が多いために、受験先を見つけるのさえ困難である(北関東/専門)
- 生徒の望む職業と、企業からの求人の種類のギャップ。やむなく望まない就職をした結果、離職率が増加(東海/普通)
- 出口(就職)の選択肢が少ないため、生徒のやりたいことと職種がマッチしない。そのため進路意欲を失うか、ミスマッチのための早期離職につながってしまう(北海道/普通)
- 就職市場の変化に教育内容やカリキュラム、授業がついていけない(関西/普通)
- 求人数が少ないため競争が激化している。学力の比較では競り負けることが多く、内定をなかなかもらえない(南関東/普通)
- 中小企業では採用予定枠数を全体数(大専高)で考えている企業が多くなってきているように思われる。そのため学歴的に低い高校生の求人が脅かされている(北関東/専門)
- サービス系は大学生等との競争になり高校生の枠が狭くなっている(甲信越/専門)
- 高卒の職場に大卒、短大卒等が食い込んでいる。また、他地区の高校が就職を求めてエリア外に就職している(東海/専門)

▶産業・労働・雇用環境の変化

【大短進学率70%以上】

- 生徒自身が将来の希望を見いだせず、努力することを放棄してしまっている(南関東/普通)

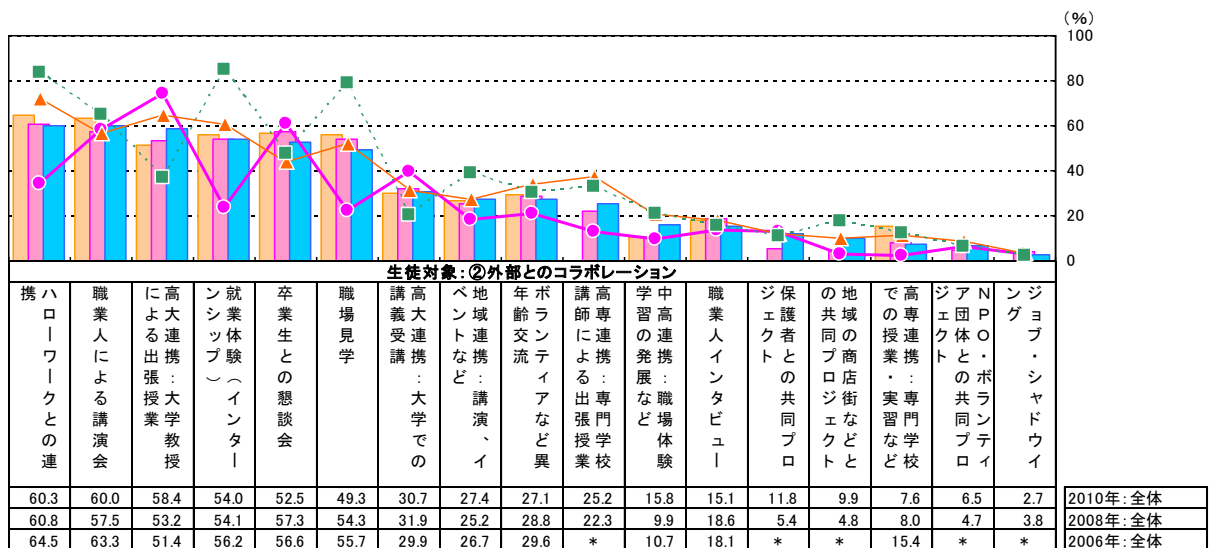
【大短進学率40～70%未満】

- 求人数減、地元の生徒の働き場がない(北海道/総合)
- 周囲の雇用状況から、大学へ行くことの意義、つまり進学することで就職へとつながらないことからくる意欲の低下(九州・沖縄/普通)
- 社会環境の変化により、進学と就職が結びつかず、進路決定がうまくいかない(北関東/普通)
- 求人数の減少、職種の偏りで、希望する職種に応募できない。企業訪問、電話応対など、求人獲得にかなりの時間が必要となっている(四国/その他)

【大短進学率40%未満】

- 求人数が絶対的に少ない。自分が就きたい職業を決めても、1回目ですべて採用になると、次が見つからない(北陸/普通)
- 地方の高卒向け求人が極端に少ない。終身雇用の崩壊。よい学校→よい就職モデルの崩壊(東北/普通)
- 女子の販売、事務の求人がない。資格等を生かした就職が困難(九州・沖縄/普通)
- 雇用の極端な減少が構造的な問題であれば、学校としては対応が困難である(九州・沖縄/専門)

- 設置者別にみると、学校内完結項目、外部連携項目とも、全般的に私立よりも国公立における実施率の方が高い。私立の方が高かったのは、「文理(コース)選択ガイダンス」と「高大連携・大学での講義受講」の2つ。
- 高校タイプ別にみると、全般的に総合学科や専門高校における実施率が高い項目が多いが、「文理(コース)選択ガイダンス」「土曜講座」「高大連携・大学教授による出張授業」など、大学受験に関する項目は普通科での実施率が他2つに比べ大きく上回っている。
- 地域別にみると、北海道、東北では「就職面接指導」「資格取得・検定奨励」「ハローワークとの連携」「就業体験(インターンシップ)」「卒業生の就職先への教員の訪問」など就職関連項目が、また「地域連携・講演、イベントなど」「ボランティアなど異年齢交流」などは北海道、東北に加え中国・四国、九州・沖縄などで他地域よりも高くなる傾向。
- 「生徒の意欲」変容度別にみると、意欲が「増した」という層は「変わらない」「わからない」という層に比べ、実施率が高い項目が多い。

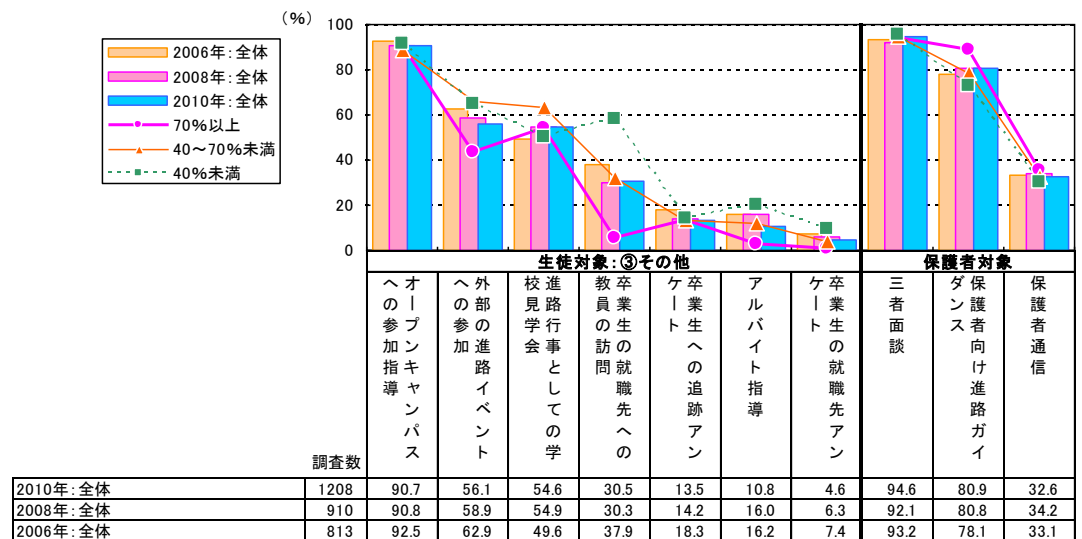


34.1	58.1	74.1	23.2	60.9	22.0	39.5	18.0	20.6	12.6	9.2	13.6	12.8	3.0	2.2	5.8	3.0	70%以上
72.2	56.5	64.7	60.8	44.3	52.2	31.4	27.1	33.7	37.3	20.4	18.0	12.2	9.8	11.4	8.6	3.1	40~70%未満
83.3	64.6	36.6	84.9	47.6	78.6	20.3	38.4	30.2	32.7	20.5	15.6	10.6	17.6	11.7	6.1	2.0	40%未満
65.3	65.0	58.7	63.0	54.7	55.3	29.6	31.4	28.3	27.7	17.0	17.1	13.0	11.4	8.0	6.7	3.2	国公立
45.5	45.5	56.9	26.8	45.8	31.1	34.1	15.4	22.7	18.1	12.0	9.7	8.4	5.0	6.7	6.0	1.0	私立
53.5	57.7	64.0	43.3	52.1	39.7	32.7	23.6	26.3	22.7	13.8	15.0	12.8	5.5	7.6	6.2	2.5	普通科
81.1	75.6	57.8	81.1	61.1	74.4	32.2	44.4	47.8	46.7	33.3	32.2	12.2	16.7	12.2	10.0	7.8	総合学科
80.0	66.1	32.1	89.1	49.7	79.4	22.4	38.8	21.2	23.0	15.8	9.1	7.9	23.6	6.1	3.6	1.8	専門高校
70.8	56.3	49.0	83.3	35.4	52.1	25.0	34.4	30.2	32.3	10.4	9.4	10.4	7.3	8.3	7.3	—	北海道
77.0	69.7	54.1	68.9	47.5	75.4	28.7	36.9	34.4	14.8	15.6	19.7	14.8	13.1	1.6	8.2	—	東北
63.2	61.1	63.9	49.3	59.0	50.0	25.7	22.2	17.4	27.8	15.3	12.5	9.0	6.3	8.3	3.5	2.8	北関東・甲信越
47.9	54.5	57.3	36.0	58.3	30.3	28.9	17.1	21.8	23.2	15.2	16.1	13.3	4.7	11.8	8.1	5.7	南関東
60.7	65.0	60.7	55.7	52.9	52.9	35.0	25.0	23.6	27.9	16.4	18.6	15.0	15.7	7.9	6.4	2.9	東海
63.9	77.8	61.1	72.2	69.4	75.0	13.9	33.3	25.0	22.2	25.0	19.4	22.2	16.7	2.8	2.8	—	北陸
56.9	50.3	58.2	37.3	47.1	40.5	42.5	18.3	22.9	24.2	9.2	13.7	9.8	7.8	5.9	6.5	1.3	関西
63.3	60.0	57.3	54.0	54.7	56.0	35.3	35.3	33.3	23.3	22.7	15.3	10.0	10.7	6.0	5.3	2.7	中国・四国
54.4	63.3	61.2	63.9	51.7	44.9	26.5	37.4	36.7	31.3	17.7	14.3	9.5	13.6	10.2	7.5	4.1	九州・沖縄
63.5	68.0	63.5	59.9	56.2	54.7	31.5	30.0	33.0	30.3	17.7	17.7	13.5	11.8	8.9	7.4	3.0	増した
61.1	57.6	56.5	55.7	53.0	48.3	30.9	27.6	26.5	24.8	16.3	15.9	10.0	10.7	6.7	7.0	2.4	変わらない
90.9	45.5	36.4	72.7	27.3	63.6	36.4	36.4	9.1	18.2	9.1	—	27.3	9.1	—	—	—	減った
56.4	54.1	57.1	46.3	47.9	46.3	29.3	26.6	21.2	19.3	11.6	13.1	12.4	6.9	8.1	5.4	2.3	わからない

▶教師の「校内研修」が年々増加傾向

- 保護者対象の取り組みでは、前回同様「三者面談」95%、「保護者向け進路ガイダンス」81%の実施率が高い。
- 教師対象の取り組みで実施率が高いのは、「校内研修」54%、「教育委員会、教育センターなどでの研修」36%など。
・自由記述で記入いただいた「校内研修」の主なテーマとしては、「小論文・面接指導」や「模試の結果分析」など入試対策に関する内容や、「キャリア教育研修」「カウンセリング・コーチング」などキャリア教育に関する内容などがあげられている。
- 大短進学率別にみると、「保護者向け進路ガイダンス」「保護者通信」は進学率が高い学校ほど実施率も高い。
- 高校タイプ別にみると、教師対象の「校内研修」「教育委員会、教育センターなどでの研修」「他校との交流」などは、総合学科の実施率が他2つに比べ高い。

■ 進路指導で実施している取組事項（全体／複数回答）



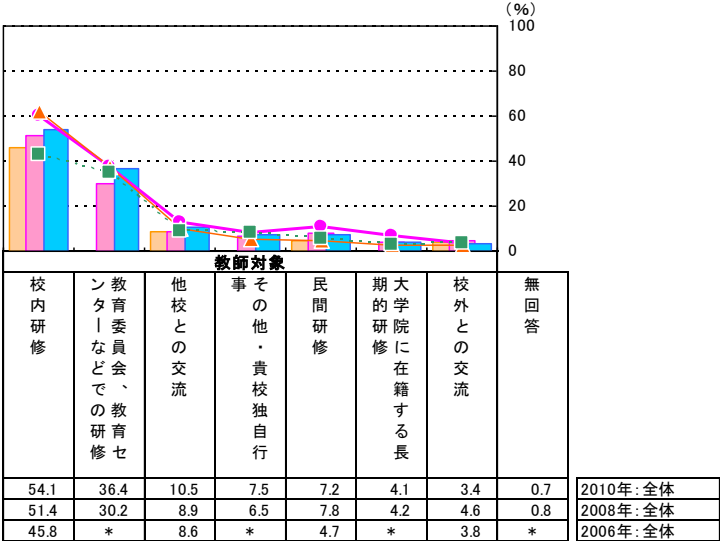
【2010年属性別】

大短進学率別	70%以上	501	90.8	43.5	54.3	5.4	13.2	2.4	0.6	94.0	89.0	35.1
	40~70%未満	255	89.0	65.9	63.5	31.8	13.3	12.2	3.9	94.5	78.8	32.5
	40%未満	443	91.4	64.6	49.9	58.2	14.2	19.9	9.3	95.3	72.9	29.8
設置者別	国公立	900	92.1	56.7	55.6	36.1	13.7	12.7	5.7	94.4	81.3	32.7
	私立	299	86.3	54.2	51.8	13.7	13.4	5.7	1.0	95.0	79.6	32.4
高校タイプ別	普通科	886	90.5	54.2	57.1	20.9	12.9	8.7	2.8	94.0	82.4	34.2
	総合学科	90	92.2	60.0	73.3	56.7	16.7	14.4	6.7	95.6	82.2	30.0
	専門高校	165	92.7	61.8	34.5	58.2	12.7	18.8	12.7	97.0	73.9	26.1
地域別	北海道	96	89.6	67.7	35.4	41.7	11.5	14.6	5.2	94.8	84.4	30.2
	東北	122	94.3	59.8	69.7	54.1	12.3	13.1	13.1	95.9	80.3	39.3
	北関東・甲信越	144	90.3	59.7	62.5	22.2	7.6	16.7	2.8	93.1	77.8	35.4
	南関東	211	93.4	43.6	52.1	14.2	21.3	5.2	1.9	92.9	81.5	27.5
	東海	140	88.6	57.9	51.4	24.3	10.7	14.3	2.9	95.7	87.1	32.9
	北陸	36	97.2	63.9	77.8	38.9	8.3	5.6	5.6	94.4	88.9	44.4
	関西	153	86.3	47.7	54.2	26.8	10.5	5.9	1.3	93.5	84.3	27.5
	中国・四国	150	90.0	60.0	56.7	34.7	18.7	8.7	5.3	96.0	76.7	32.7
	九州・沖縄	147	90.5	60.5	46.3	38.8	12.9	15.0	6.1	95.9	74.1	35.4
「生徒の意欲」 変容度別	増した	406	92.1	64.3	60.8	31.5	14.5	13.5	6.9	93.6	83.3	35.0
	変わらない	460	90.4	52.2	53.7	31.3	14.1	10.0	3.5	96.1	80.7	33.0
	減った	11	90.9	90.9	45.5	45.5	36.4	—	18.2	100.0	81.8	27.3
	わからない	259	90.0	51.0	49.8	30.5	10.0	9.3	2.7	94.6	79.5	30.5

※各カテゴリーごと「2010年: 全体」の降順ソート

※【2010年属性別】は、「2010年: 全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q03-1

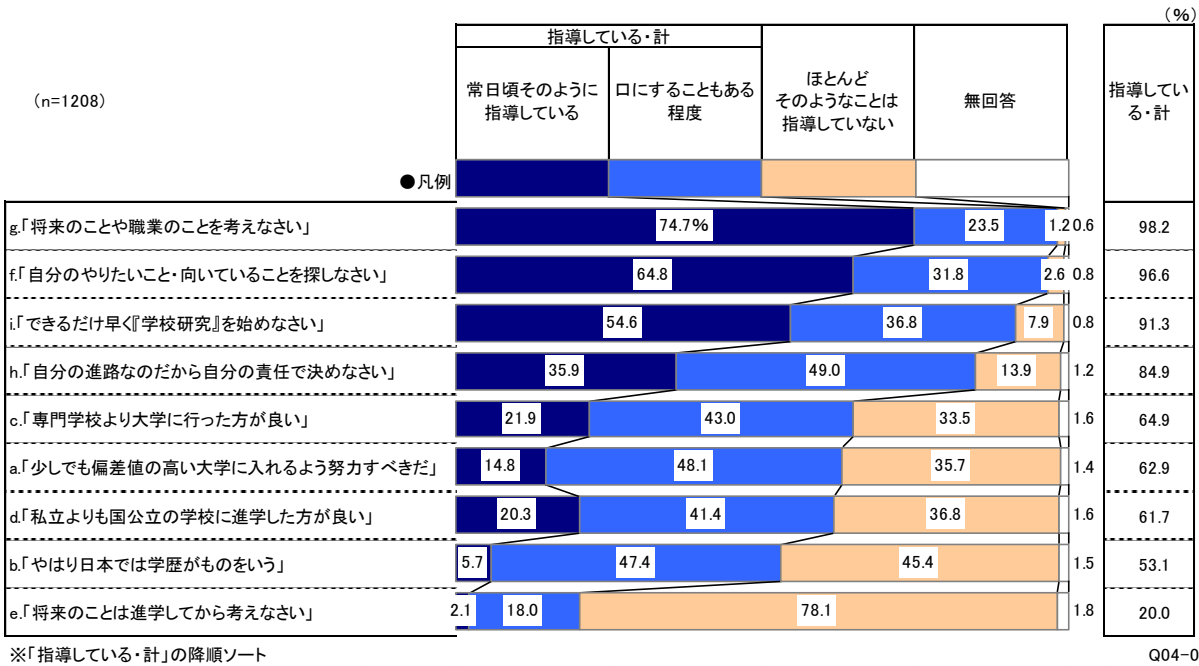


60.3	37.1	12.4	8.0	10.4	6.4	3.6	0.6	70%以上
62.0	37.3	9.8	5.5	4.7	2.4	2.7	1.2	40～70%未満
42.4	34.8	8.6	8.1	5.2	2.5	3.4	0.5	40%未満
54.9	42.7	11.1	7.1	6.1	4.7	3.6	0.8	国公立
51.5	17.1	8.4	8.7	10.7	2.3	2.7	0.3	私立
57.0	37.4	11.6	8.0	7.8	4.1	3.4	0.8	普通科
68.9	41.1	15.6	6.7	4.4	7.8	5.6	—	総合学科
33.9	29.7	4.8	6.7	6.1	3.6	2.4	0.6	専門高校
41.7	12.5	10.4	8.3	4.2	1.0	6.3	—	北海道
57.4	50.0	15.6	10.7	9.0	7.4	3.3	—	東北
42.4	44.4	4.9	7.6	4.2	3.5	0.7	1.4	北関東・甲信越
56.9	28.4	7.6	9.5	9.0	3.8	2.4	0.5	南関東
39.3	36.4	8.6	5.0	5.0	3.6	4.3	0.7	東海
61.1	58.3	11.1	2.8	19.4	—	11.1	—	北陸
56.9	25.5	11.8	5.2	8.5	5.2	1.3	1.3	関西
64.0	45.3	12.7	6.7	6.7	5.3	4.7	—	中国・四国
66.0	40.1	13.6	8.2	6.8	3.4	3.4	1.4	九州・沖縄
56.7	37.2	11.1	10.1	5.9	5.2	4.9	1.0	増した
55.7	37.6	10.4	6.1	7.8	3.7	2.2	0.7	変わらない
72.7	45.5	9.1	9.1	9.1	9.1	—	—	減った
48.3	34.4	9.7	6.6	6.6	1.9	3.1	—	わからない

2)進路指導時に生徒に伝えること
▶「高学歴志向」が強まっている印象

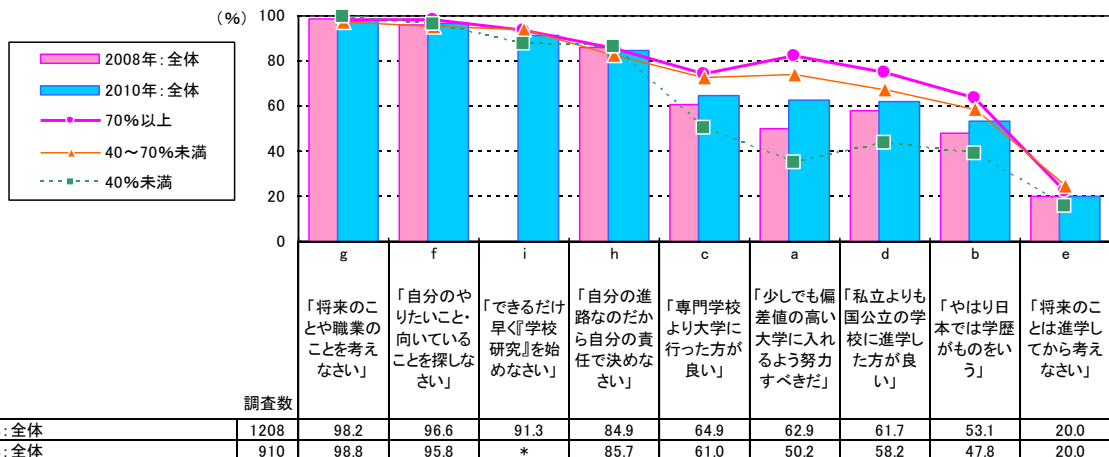
- 進路指導を行う際に教師が生徒に伝える言葉を提示したところ、「常日頃そのように指導している」という割合が最も多かったのは「将来のことや職業のことを考えなさい」75%、ついで「自分のやりたいこと・向いていることを探しなさい」65%、「できるだけ早く『学校研究』を始めなさい」55%。
- 「口にすることもある程度」まで合わせた「指導している・計」の割合をみると、9項目中8項目が5割を超える。

■ 進路指導時に生徒に伝えること_a～i(全体／各単一回答)



- 「常日頃そのように指導している」「口にすることもある程度」を合わせた、「指導している・計」の割合をみると、各項目の順位は前回と変わらず、最多は「将来のことや職業のことを考えなさい」98%。
- 今回追加した「できるだけ早く『学校研究』を始めなさい」や「自分の進路なのだから自分の責任で決めなさい」も上位に入った。前回より増加したのは「少しでも偏差値の高い大学に入れるよう努力すべきだ」「やはり日本では学歴がものをいう」など。いわゆる「高学歴志向」が強まっている風潮が見受けられる。
- 大短進学率別にみると、5位以降の4項目は進学率が高い学校ほど「指導している・計」の割合が高くなる。
- 設置者別では国公立よりも私立、高校タイプ別では普通科で、「少しでも偏差値の高い大学に入れるよう努力すべきだ」「やはり日本では学歴がものをいう」という指導がなされる割合が高い。
- 地域別にみると、南関東、東海、関西では「少しでも偏差値の高い大学に入れるよう努力すべきだ」、北関東・甲信越、東海、北陸、中国・四国は「私立よりも国公立の学校に進学した方がよい」が他エリアに比べ高くなる傾向がうかがえる。

■ 進路指導時に生徒に伝えること_a～i ※【指導している・計】のスコア一覧(全体／複数回答)



【2010年属性別】

大短進学率別	70%以上	501	98.0	97.8	93.4	85.4	73.9	82.2	74.9	63.5	21.8
	40～70%未満	255	97.3	95.3	94.1	82.7	72.9	74.1	67.1	58.8	24.7
	40%未満	443	99.1	96.2	87.4	86.0	50.3	34.8	43.3	38.4	15.3
設置者別	国公立	900	98.1	96.2	91.1	85.3	64.8	59.9	62.7	51.6	18.8
	私立	299	98.7	98.0	92.0	84.3	65.6	72.2	58.2	58.2	23.7
高校タイプ別	普通科	886	97.7	96.5	92.7	85.3	67.2	69.6	65.9	57.6	21.6
	総合学科	90	98.9	95.6	93.3	84.4	66.7	56.7	67.8	50.0	25.6
	専門高校	165	99.4	97.0	83.0	84.2	52.7	32.1	40.0	35.2	12.7
地域別	北海道	96	100.0	96.9	84.4	83.3	64.6	43.8	49.0	41.7	17.7
	東北	122	98.4	97.5	90.2	83.6	69.7	49.2	64.8	45.9	19.7
	北関東・甲信越	144	96.5	95.8	94.4	80.6	75.7	66.7	69.4	53.5	19.4
	南関東	211	97.6	97.6	91.9	86.7	62.6	72.0	46.0	55.0	20.9
	東海	140	100.0	96.4	89.3	85.7	63.6	68.6	70.7	62.1	20.7
	北陸	36	97.2	88.9	88.9	83.3	55.6	50.0	66.7	47.2	22.2
	関西	153	98.7	96.7	88.9	85.0	59.5	68.6	61.4	58.2	22.9
	中国・四国	150	97.3	95.3	94.0	87.3	65.3	64.0	68.7	54.0	22.7
	九州・沖縄	147	98.6	98.6	95.2	87.1	63.3	61.2	64.6	51.0	14.3

※「2010年: 全体」の降順ソート

※「*」は該当項目なし

※【2010年属性別】は、「2010年: 全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q04-1

3)進路指導時に生徒の進学先として重視する点

▶「学びたい学部・学科・コースがあること」について、「学生の面倒見が良いこと」が2位

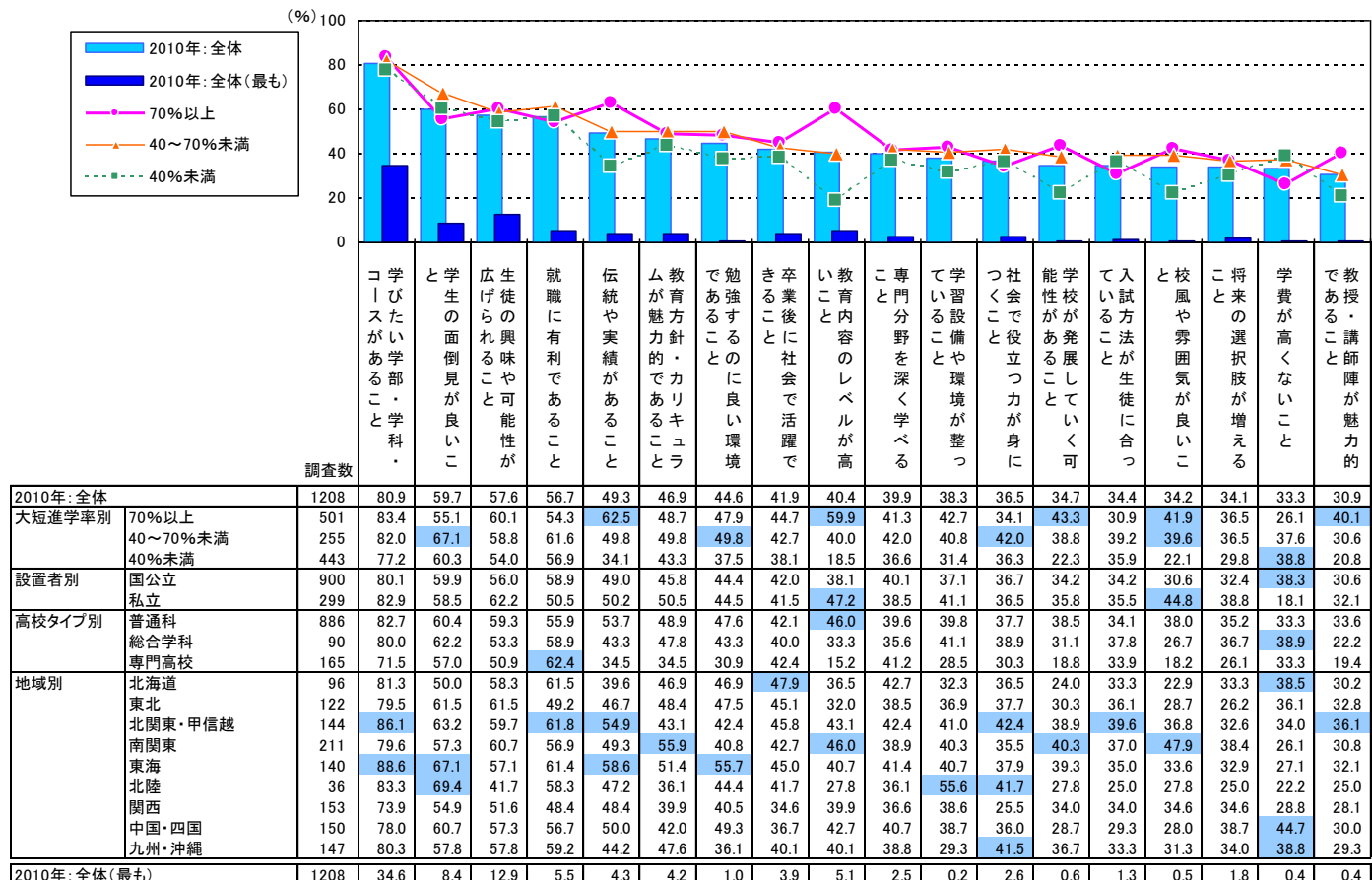
▶大短進学率の高い学校ほど、伝統・実績や教育内容・学生のレベル感を重視

●進路指導時に教師は大学のどのような点を重視するのかをたずねたところ、トップは「学びたい学部・学科・コースがあること」81%、2位は「学生の面倒見が良いこと」60%。以下、「生徒の興味や可能性が上げられること」58%、「就職に有利であること」57%と続く。

●大短進学率別にみると、いずれもトップは「学びたい学部・学科・コースがあること」。ついで進学率[70%以上]では②「伝統や実績があること」③「生徒の興味や可能性が上げられること」、[40～70%未満]と[40%未満]では②「学生の面倒見が良いこと」③「就職に有利であること」となっている。

●また、進学率の違いによる差が特に顕著なのは「伝統や実績があること」「教育内容のレベルが高いこと」「学生の学力が高いこと」など。[70%以上]での割合が他2つに比べ目立って高くなっている。他に、進学率が高いほど重視する割合も高くなるのは「学習設備や環境が整っていること」「学校が発展していく可能性があること」「校風や雰囲気が良いこと」「教授・講師陣が魅力的であること」「偏差値が生徒に合っていること」など多数みられる。

■ 進路指導時に生徒の進学先として重視する点(全体／複数回答)



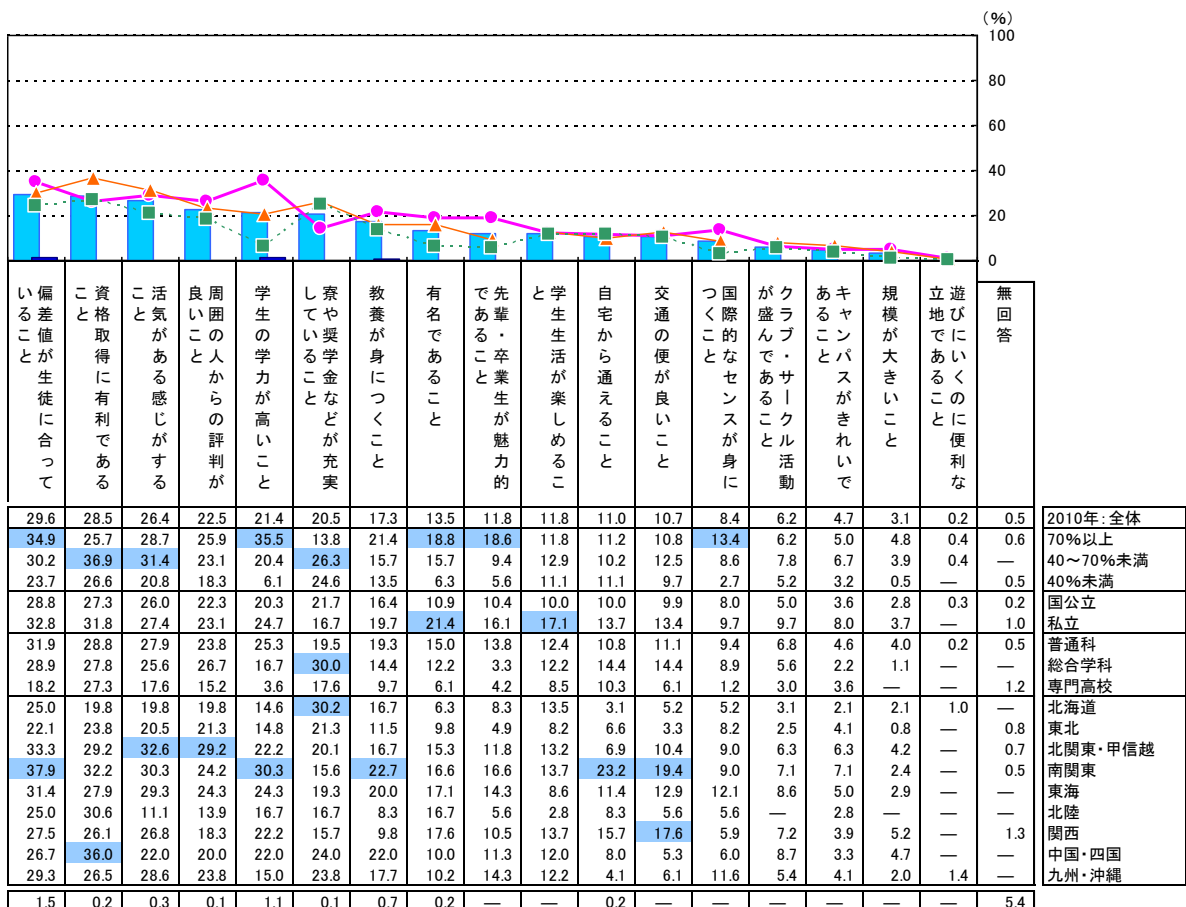
※「2010年:全体」の降順ソート

※「2010年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

●地域別にみて、全体値を5ポイント以上上回った項目は以下のとおり。

●北関東・甲信越や南関東で、重視度の高い項目が多岐にわたる。

- ・北海道 卒業後に社会で活躍できること、学費が高くないこと、寮や奨学金などが充実していること
- ・東北 (なし)
- ・北関東・甲信越 学びたい学部・学科・コースがあること、就職に有利であること、伝統や実績があること、社会で役立つ力が身につくこと、入試方法が生徒に合っていること、教授・講師陣が魅力的であること、活気がある感じがすること、周囲の人からの評判が良いこと
- ・南関東 教育方針・カリキュラムが魅力的であること、教育内容のレベルが高いこと、学校が発展していく可能性があること、校風や雰囲気が良いこと、偏差値が生徒に合っていること、学生の学力が高いこと、教養が身につくこと、自宅から通えること、交通の便が良いこと
- ・東海 学びたい学部・学科・コースがあること、学生の面倒見が良いこと、伝統や実績があること、勉強するのに良い環境であること
- ・北陸 学生の面倒見が良いこと、学習設備や環境が整っていること、社会で役立つ力が身につくこと、
- ・関西 交通の便が良いこと
- ・中国・四国 学費が高くないこと、資格取得に有利であること
- ・九州・沖縄 社会で役立つ力が身につくこと、学費が高くないこと



第Ⅱ部 キャリア教育の実態

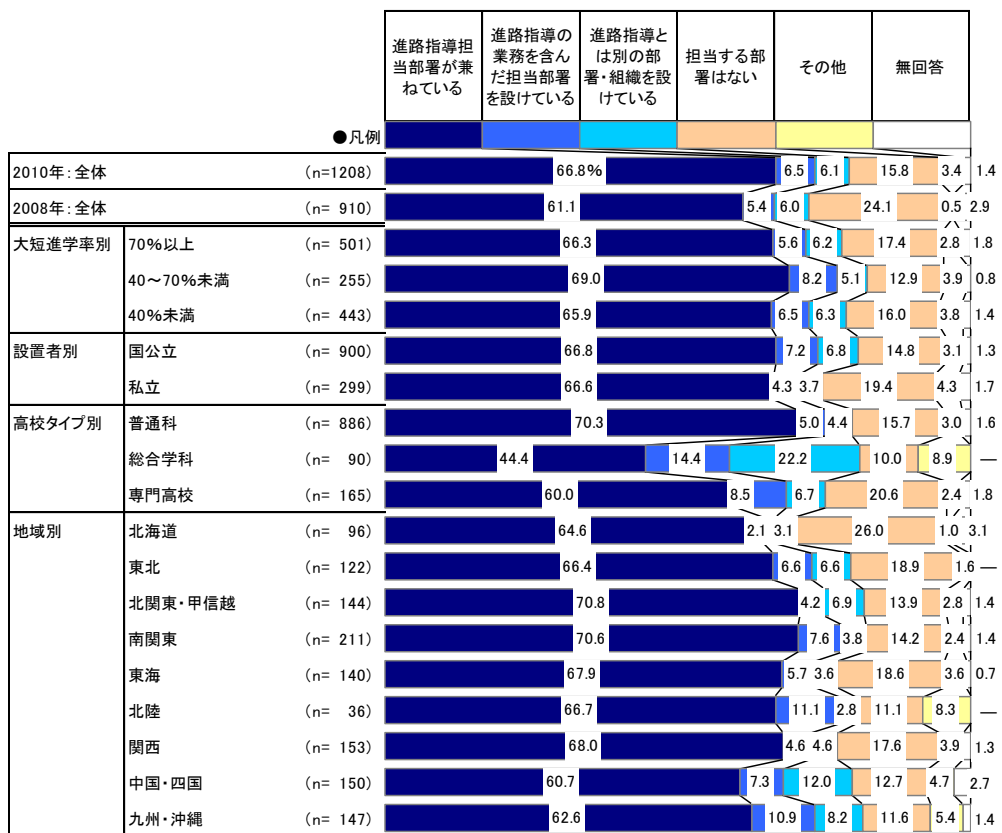
1. キャリア教育の実施状況

1) キャリア教育担当部署の設置状況

▶ 担当部署は増加傾向

- キャリア教育の担当部署の設置状況をたずねたところ、最多は「進路指導担当部署が兼ねている」67%で、前回よりも6ポイント増加。「担当する部署はない」は前回よりも8ポイント減少しており、担当部署は増加傾向。
- 大短進学率別にみると、「担当する部署はない」が最も低いのは進学率[40～70%未満]。
- 設置者別にみると、私立では「担当する部署はない」割合が19%と国公立に比べ高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「担当する部署はない」が最も低く、また「進路指導の業務を含んだ担当部署を設けている」や「進路指導とは別の部署・組織を設けている」割合が高い。
- 地域別にみると、「担当する部署はない」が最も高かったのは北海道(26%)。ついで東北、東海(19%)、関西(18%)。反対に低いのは、北陸(11%)、九州・沖縄(12%)、中国・四国(13%)。

■ キャリア教育担当部署の設置状況(全体／単一回答)



Q06

2)キャリア教育担当部署名・部門名

▶「進路」「指導」というワードがつく部署名に集中

- キャリア教育を担う部署の名前で最も多かったのは「進路(進学)指導部(課・グループ)」で、全体の3割強。
- 「キャリア」というワードがつく部署名の記入はいずれも1割未満。

■キャリア教育担当部署の名前(キャリア教育担当部署を設置している／自由回答)

順位		全体 (n=1208)	大短進学率別 (%)		
			70%以上 (n=501)	40～70% 未満 (n=255)	40%未満 (n=443)
1	進路(進学)指導部(課、グループ)	32.7	28.5	37.6	34.5
2	キャリア教育(推進、担当)部(課、係)	5.1	3.8	2.7	7.9
3	進路部(課)、教育企画部(課)	3.5	4.6	2.4	2.7
4	教務(部)	2.6	3.0	3.1	1.8
5	進路(情報室、支援グループ)	2.2	2.0	3.5	1.8
6	総合学科(推進)部(課、係)	2.0	1.2	3.5	2.0
7	キャリア支援(サポート、推進)部(課、グループ)	1.3	1.8	1.2	0.9
8	教育研究部	1.0	1.2	1.6	0.5
9	キャリアガイダンス(グループ、担当)	0.6	0.2	1.2	0.7
10	就職課、就職指導部	0.5	0.2	1.2	0.5
	商業(科、教育部、総括部)	0.5	0.2	0.4	0.9
	インターンシップ係(委員会)	0.5	—	0.8	0.9
13	研究、研修(部)	0.4	0.8	—	—
14	ガイダンス部	0.3	0.4	—	0.5
15	総合的な学習の時間委員(担当)	0.2	—	0.4	0.5
	進路ガイダンス	0.2	—	—	0.2
	総務部	0.2	0.2	0.4	—
	夢(ドリーム)プロジェクト	0.2	0.4	—	—
	企画部(係)	0.2	0.4	—	—
	その他(出現数1件のみ)	0.8	1.0	0.8	0.7
	名前はない(学年ごと、2年の担任)	1.6	1.6	2.4	1.1

Q06-0

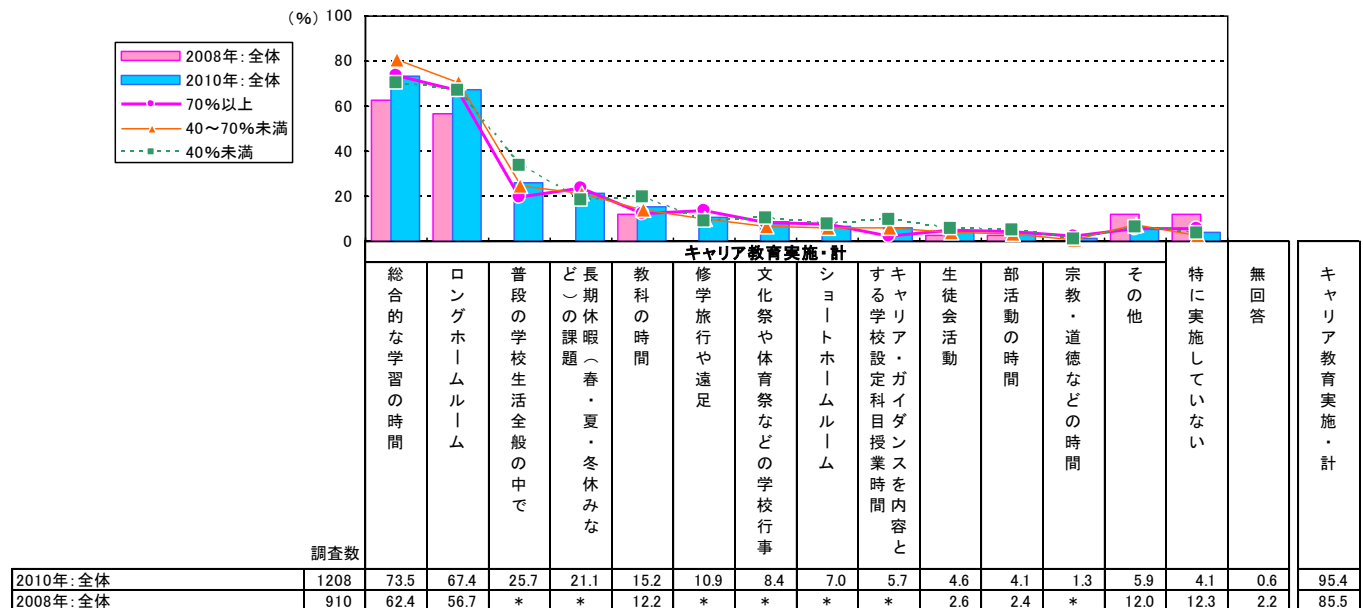
3) キャリア教育実施時間

▶ 前回同様、主な実施時間は「総合学習の時間」や「ロングホームルーム」

▶ 「実施していない」は、前回よりも減少

- どの時間にキャリア教育を実施しているかでは「総合的な学習の時間」74%、「ロングホームルーム」67%に回答が集中。「普段の学校生活全般の中で」は1/4に留まっており、教科や学校行事なども全般的に低い水準といえる。しかし、「特に実施していない」は4%と前回(12%)に比べ減少した。
- 大短進学率別で目立った違いはないが、全体値で1位・2位の「総合的な学習の時間」「ロングホームルーム」は進学率[40～70%未満]で高め。また、「長期休暇の課題」「修学旅行や遠足」は進学率が高い学校ほど、「普段の学校生活全般の中で」は進学率が低い学校ほど、高くなる傾向。
- 学校タイプ別にみると、総合学科は「総合的な学習の時間」は95%を超え、「普段の学校生活全般の中で」「キャリア・ガイダンスを内容とする学校設定科目授業時間」も3割前後と、日常生活内の時間を中心に広く実施している様子がうかがえる。
- 「生徒の意欲」変容度別にみると、「意欲が増した」という層は「変わらない」「わからない」という層に比べ、「総合的な学習の時間」「普段の学校生活全般の中で」「長期休暇の課題」での実施率が高い。

■ キャリア教育実施時間(全体/複数回答)



【2010年属性別】

大短進学率別	70%以上	501	73.3	66.7	19.6	23.4	12.2	13.4	8.2	7.4	2.2	4.4	3.8	2.2	5.2	5.6	1.0	93.4
	40～70%未満	255	80.8	70.6	24.7	21.6	13.7	10.2	6.7	5.9	6.3	3.9	3.1	0.8	7.1	2.4	0.4	97.3
	40%未満	443	69.8	66.4	33.4	18.3	19.6	8.8	9.7	7.4	9.5	5.2	5.0	0.7	5.9	3.2	0.2	96.6
設置者別	国公立	900	77.9	67.7	27.9	22.7	18.0	11.6	9.8	6.7	6.2	5.3	5.1	0.7	5.6	3.0	0.4	96.6
	私立	299	60.5	66.6	19.4	16.4	7.0	9.4	4.3	8.4	4.3	2.3	1.0	3.3	6.7	7.0	1.0	92.0
高校タイプ別	普通科	886	78.1	66.7	22.2	21.9	12.2	11.6	8.2	7.0	3.3	4.6	3.5	1.6	4.4	4.4	0.6	95.0
	総合学科	90	95.6	64.4	31.1	22.2	21.1	11.1	4.4	3.3	28.9	2.2	3.3	1.1	16.7	—	—	100.0
	専門高校	165	44.8	70.9	38.8	18.8	23.0	8.5	11.5	8.5	7.3	5.5	7.3	0.6	7.9	5.5	0.6	93.9
地域別	北海道	96	70.8	65.6	25.0	9.4	9.4	4.2	4.2	6.3	5.2	5.2	2.1	—	3.1	6.3	—	93.8
	東北	122	82.8	64.8	32.8	23.8	18.9	9.8	9.8	6.6	4.9	8.2	4.1	1.6	5.7	4.9	—	95.1
	北関東・甲信越	144	80.6	69.4	25.0	24.3	18.8	12.5	12.5	9.0	4.9	8.3	5.6	2.1	5.6	3.5	2.1	94.4
	南関東	211	71.6	64.0	28.0	24.6	17.1	12.3	8.5	9.5	3.3	5.2	5.7	1.9	5.2	4.7	0.5	94.8
	東海	140	68.6	63.6	25.0	27.1	15.7	9.3	11.4	8.6	10.0	3.6	5.7	0.7	5.0	4.3	0.7	95.0
	北陸	36	83.3	69.4	38.9	30.6	11.1	27.8	8.3	5.6	5.6	2.8	2.8	—	13.9	—	—	100.0
	関西	153	51.0	71.2	17.6	15.7	7.8	5.2	5.2	5.9	5.9	2.0	2.6	2.6	7.8	8.5	0.7	90.8
	中国・四国	150	82.0	70.0	27.3	18.7	19.3	16.0	6.7	4.7	6.7	2.0	2.7	0.7	7.3	0.7	—	99.3
	九州・沖縄	147	81.0	70.1	22.4	18.4	14.3	11.6	8.2	5.4	6.1	3.4	3.4	0.7	4.1	0.7	0.7	98.6
「生徒の意欲」変容度別	増した	406	80.3	70.9	31.5	27.1	16.7	12.1	9.1	9.6	9.1	4.4	4.9	1.5	6.9	0.2	—	99.8
	変わらない	460	75.7	70.4	25.4	22.2	18.0	12.6	8.9	6.1	5.0	5.4	4.6	1.1	4.3	0.4	—	99.6
	減った	11	81.8	81.8	45.5	18.2	18.2	27.3	—	9.1	—	9.1	—	—	—	—	—	100.0
	わからない	259	69.1	64.9	17.8	12.7	11.2	7.7	8.5	5.4	3.1	4.2	3.1	1.2	7.7	8.9	—	91.1

※「2010年: 全体」の降順ソート

※「*」は該当項目なし

※【2010年属性別】は、「2010年: 全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

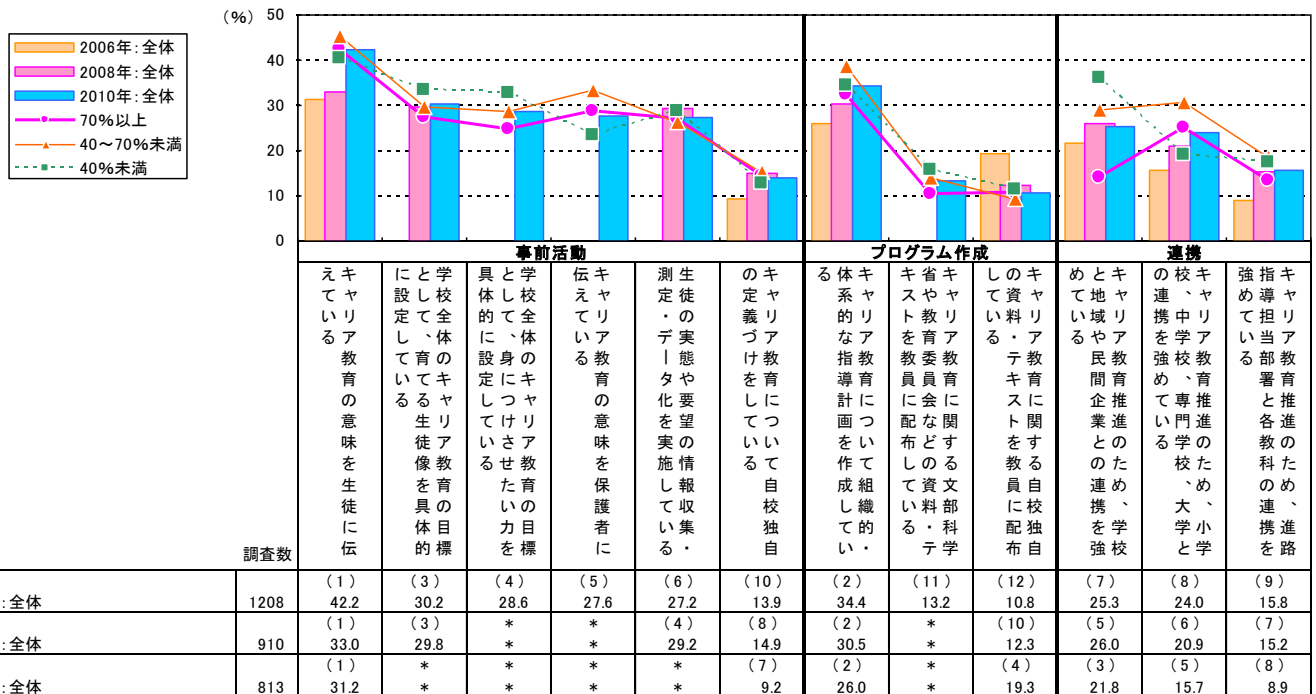
4)キャリア教育の進捗状況

▶意味の伝達や計画作成、学外連携は増加傾向

●キャリア教育の具体的な推進状況をたずねた。まず全体的な傾向を【事前活動】【プログラム作成】【連携】などの6つの大分類でみると、この中では【事前活動】が比較的高い値を示した。しかし、それでも各項目はおおむね30%前後という値。【研修・勉強会】【体制】【結果・評価】は10%に届く項目がほとんどなかった。こうした傾向は前回とほぼ変わっていない。

●全22項目のうち、最も高かったのは【事前活動】の「キャリア教育の意味を生徒に伝えている」42%、次いで【プログラム作成】「キャリア教育について組織的・体系的な指導計画を作成している」34%。これらは前回からの伸び幅も大きい。【連携】「小学校、中学校、専門学校、大学との連携を強めている」なども増加傾向。減っているのは【研修・勉強会】「キャリア教育の概要や推進方法に関する研修や勉強会を実施している」と「キャリア・カウンセリングに関する研修会・勉強会を実施している」など。

■ キャリア教育の進捗状況(全体／複数回答)



【2010年属性別】

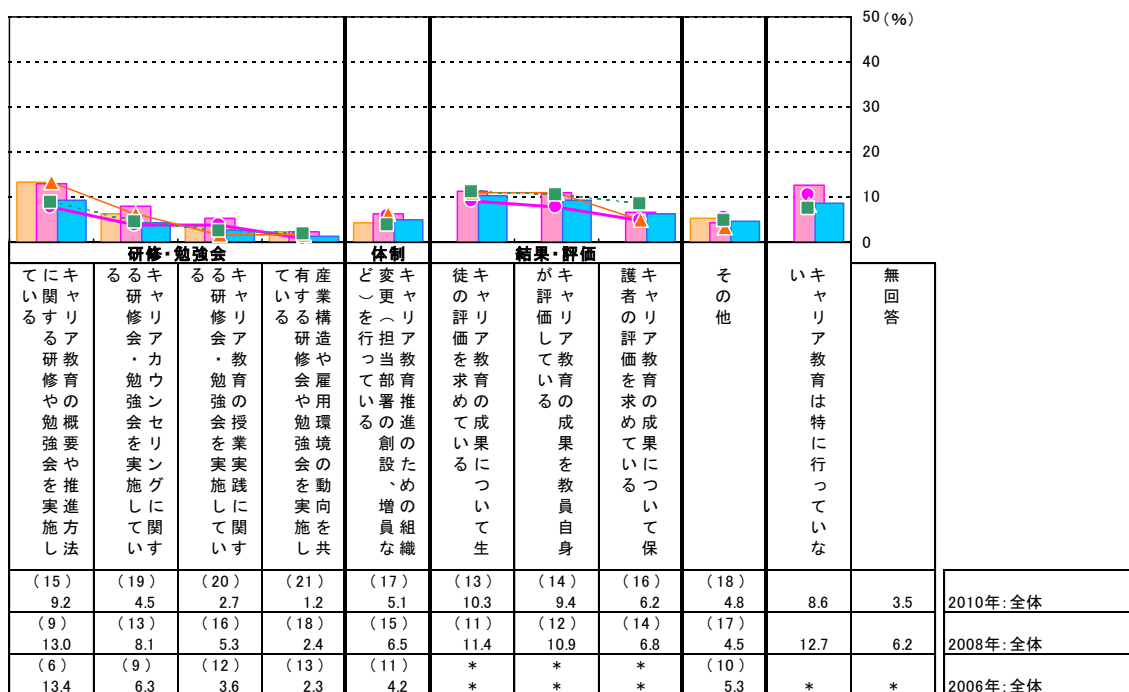
大短進学率別	70%以上	501	42.3	27.5	24.8	28.7	26.9	14.4	32.3	10.4	10.8	14.0	25.0	13.2
	40～70%未満	255	45.5	29.8	28.6	33.3	26.3	15.3	38.8	14.1	9.4	29.0	30.6	18.8
	40%未満	443	40.4	33.4	32.7	23.3	28.7	12.6	34.3	15.6	11.5	36.1	19.0	17.2
設置者別	国公立	900	42.6	33.7	32.0	27.6	28.4	14.0	39.9	14.9	10.6	30.4	25.4	16.8
	私立	299	41.5	19.7	18.1	28.1	24.4	13.7	18.1	7.7	11.4	10.0	19.4	13.0
高校タイプ別	普通科	886	41.1	28.8	26.9	27.7	26.9	13.2	32.4	13.0	9.9	20.4	25.1	14.6
	総合学科	90	52.2	42.2	40.0	33.3	32.2	23.3	55.6	8.9	16.7	44.4	32.2	16.7
	専門学校	165	38.2	29.7	28.5	23.0	27.3	13.9	30.3	11.5	12.7	38.8	13.9	21.8
地域別	北海道	96	31.3	21.9	15.6	18.8	26.0	8.3	22.9	11.5	9.4	21.9	22.9	12.5
	東北	122	41.8	35.2	33.6	28.7	20.5	18.0	40.2	14.8	11.5	34.4	19.7	18.9
	北関東・甲信越	144	50.0	29.2	26.4	31.9	26.4	12.5	33.3	22.2	4.9	29.2	24.3	11.1
	南関東	211	45.5	33.6	32.2	30.8	29.9	15.6	39.8	13.3	15.2	18.0	23.7	17.5
	東海	140	42.1	28.6	27.9	25.7	32.1	12.9	27.1	8.6	6.4	21.4	25.7	19.3
	北陸	36	47.2	22.2	27.8	27.8	25.0	11.1	33.3	8.3	11.1	30.6	13.9	5.6
	関西	153	39.9	23.5	19.0	28.8	26.8	13.1	26.8	9.2	13.1	18.3	18.3	10.5
	中国・四国	150	41.3	40.7	39.3	22.7	26.0	17.3	44.0	11.3	16.7	34.0	29.3	18.7
	九州・沖縄	147	40.1	27.2	29.3	29.9	29.9	12.2	36.1	15.0	6.1	27.9	29.3	19.7
キャリア教育役立ち度	役に立っている・計	933	48.4	35.4	33.3	33.3	32.3	16.4	41.5	14.5	13.1	30.3	28.3	18.2
	役に立っていない・計	232	22.8	12.5	12.1	8.2	11.2	5.6	9.5	10.3	2.6	9.1	9.9	8.2
「生徒の意欲」変容度別	増した	406	57.1	41.4	37.4	41.4	36.5	21.2	51.0	15.0	14.0	34.7	30.8	19.5
	変わらない	460	38.7	27.8	26.5	25.2	25.4	13.5	31.3	15.0	10.9	23.0	23.5	17.0
	減った	11	36.4	27.3	45.5	27.3	36.4	9.1	27.3	9.1	—	18.2	36.4	27.3
	わからない	259	32.8	23.2	23.9	15.8	20.8	6.6	22.0	10.0	7.3	18.9	18.9	10.0

※「2010年:全体」の降順ソート

※「*」は該当項目なし

※「2010年属性別」は、「2010年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

- 大短進学率別による違いはあまりみられないが、【連携】では若干差があり、進学率[40%未満]では「学校と地域や民間企業との連携を強めている」が36%、[40～70%未満]では「小学校、中学校、専門学校、大学との連携を強めている」が31%と、他層に比べ高めの実施率となっている。
- 高校タイプ別にみると、総合学科での実施率が高い項目が多い。
- キャリア教育の役立ち度別や「生徒の意欲」変容度別にみると、「役立っている・計」や「(意欲が)増した」という層は、他層に比べ、全般的に実施率が高い。



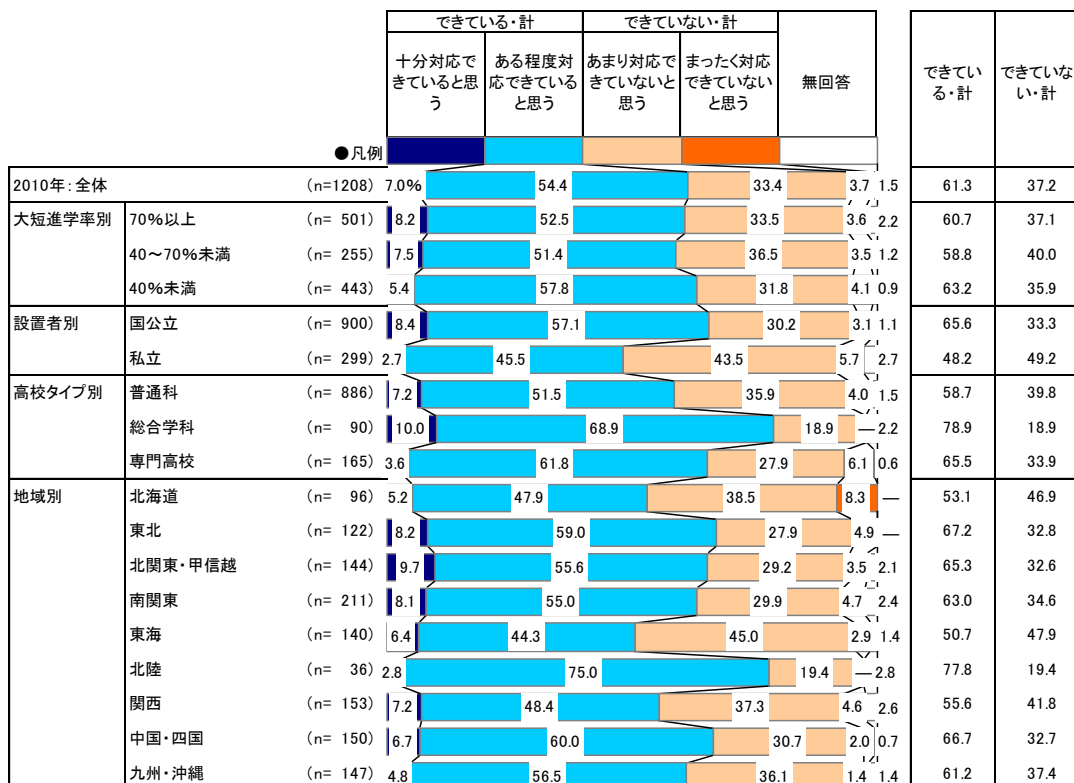
7.8	3.6	3.6	0.6	5.8	9.0	7.8	4.6	5.4	10.2	4.6	70%以上
13.3	6.3	1.6	1.6	6.3	11.0	11.0	5.1	3.5	8.2	3.9	40～70%未満
8.6	4.5	2.5	1.8	3.8	11.1	10.2	8.4	4.7	7.2	2.0	40%未満
10.6	4.4	2.9	1.6	5.2	12.4	11.0	7.7	4.7	6.8	2.6	国公立
5.4	4.7	2.3	0.3	5.0	3.3	4.3	1.3	5.0	14.4	6.4	私立
8.9	4.0	2.7	0.9	4.7	9.1	8.5	5.4	4.9	9.3	4.1	普通科
21.1	12.2	3.3	1.1	16.7	26.7	18.9	14.4	3.3	3.3	2.2	総合学科
5.5	3.6	0.6	3.6	2.4	7.9	10.3	6.1	4.2	10.3	1.2	専門高校
3.1	—	2.1	1.0	1.0	8.3	6.3	7.3	4.2	15.6	4.2	北海道
4.9	5.7	0.8	1.6	4.1	8.2	14.8	5.7	4.9	8.2	1.6	東北
7.6	2.8	2.8	0.7	4.9	13.2	6.9	6.9	6.9	6.3	4.2	北関東・甲信越
12.8	5.7	2.4	1.9	7.6	6.2	7.6	3.3	3.3	8.1	5.2	南関東
11.4	3.6	4.3	—	1.4	7.9	5.0	2.1	7.9	7.1	3.6	東海
2.8	—	—	—	—	13.9	8.3	5.6	8.3	2.8	2.8	北陸
7.2	4.6	5.2	0.7	5.9	9.8	10.5	6.5	3.3	13.7	2.6	関西
12.0	6.0	3.3	2.0	8.7	19.3	13.3	12.7	2.7	5.3	2.7	中国・四国
12.2	6.8	1.4	2.0	6.1	8.2	10.9	5.4	4.8	8.8	3.4	九州・沖縄
10.5	5.3	3.5	1.6	6.0	12.4	11.7	7.4	4.4	2.9	1.5	役に立っている・計
4.3	1.7	—	—	1.7	2.6	2.2	1.7	6.5	23.7	8.2	役に立っていない・計
12.6	6.7	3.4	2.2	5.7	18.0	18.7	10.8	3.0	1.0	1.0	増した
7.0	3.9	1.7	0.9	5.2	6.7	5.2	4.3	5.7	5.7	2.4	変わらない
27.3	—	—	—	9.1	27.3	9.1	9.1	—	—	—	減った
8.9	3.5	3.9	0.8	5.0	5.8	4.2	3.1	6.2	15.8	5.8	わからない

5) キャリア教育新学習指導要領に対する対応度

▶「ある程度できている」が過半数

- 自校のキャリア教育が新学習指導要領にどの程度対応しているかをたずねた。
「十分対応できていると思う」はまだ7%と少なく、「ある程度できていると思う」が54%と過半数を占め、2つを合わせた「できている・計」は61%となった。
- 設置者別にみると、国公立では66%が「できている・計」と回答したのに対し、私立では48%と半数を下回った。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では79%が「できている・計」と回答。他2つを大きく上回った。
- 地域別にみると、では「できている・計」が6割を超えたのは東北、北関東・甲信越、南関東、北陸、中国・四国、九州・沖縄。一方、「できている・計」が最も低かったのは東海(51%)。但し「まったく対応できていないと思う」という割合が8%と他地域に比べ目立つのは北海道。

■ キャリア教育新学習指導要領に対する対応度(全体／単一回答)



Q09

【フリーコメント⑤】新学習指導要領に対するキャリア教育の対応状況

▶「対応できている」との回答は、『学校全体での取り組みになっている』と自負する学校で多くみられる傾向。

- 自身の高校のキャリア教育が、「新学習指導要領にどの程度対応できていると思うか」をたずね、その対応状況を具体的に記入してもらったところ、【対応できている】と回答した学校からは、「進路指導部だけでなく、他の部署、全学年、各教科等連携が十分にとれている」、「以前からキャリア教育は本校の中核の1つであり、計画的、組織的に体系化されている」など、学校全体で取り組まれていると思われる記述が多くみられる結果となった。

【十分対応できている】

▶ 学校全体で計画的に取り組む

- 全学年をととして、各学年で主体的、計画的にキャリア教育を勧めている。進路指導部だけでなく、他の部署、全学年、各教科等連携が十分にとれている(東北/普通)
- 以前からキャリア教育は本校の中核の1つであり、計画的、組織的に体系化されている。また、本年度総合学科推進課と進路課が統合され、より連携しやすくなった(四国/総合)
- 文部科学省の指定を受け、組織的、計画的にキャリア教育に取り組めた(東北/普通)

▶ 独自ツールを活用

- 「進路ノート」を本校で作成し、職業観、進路意識を育てている。行事や部活を生徒主体で自律的に運営するなかで、適性や役割の担い方を学ばせ、高い目標をもって国立難関大学を目指すように育てている(南関東/普通)

【ある程度対応できている】

▶ 学年に応じた取り組みや行事への組み込み

- 3年間の指導計画を立てたうえで、生徒との個別懇談を定期、不定期に綿密に行っている。生徒の意志を細やかに拾い上げ対応する体制ができている(北関東/普通)
- 1～3年までの行事予定、LHR予定に組み込み、授業の一環として定期的実施している。しかし、近年の状況変化は著しく、組み替え等が必要と考える(南関東/普通)

▶ 学校の特性を活かして

- 中高一貫校として進路学習を中学期の職業研究などによって行っている(南関東/普通)
- 総合学科高校独自の科目、「産業社会と人間」の活動や、各学年、各時期に応じたガイダンスを行っているため(南関東/総合)
- 1年次生全員のインターンシップ参加をはじめ、多様な発表、活動の場を設定することで、体験から深く学べるようなシステムがあること。また、選択科目選定の際に、卒業時の自己を見いだす努力をさせるようになっていること(関西/総合)

▶ 基本行っているつもりだが・・・

- 担当部署を置き取り組みも定着しつつある。しかし担当者が交代などしてもOKというほどではなく、日常的なものにはなっていない(関西/普通)
- 計画的、組織的な進路指導は従来から行ってきたが、それが“キャリア教育という概念”の推進につながっているかはわからない(東北/普通)

【あまり対応できていない】

▶ 組織的な取り組みになっていない

- 組織や計画をきちんと学校としてふまえて実行しているとはいえないので・・・進路指導部独自ではきちんと指導していると思う(東北/普通)
- 3年間を活用すべく計画的、組織的な取り組みが確立できていない(九州・沖縄/普通)
- 年次、分掌、教科間の連携不足(北海道/普通)

【まったく対応できていない】

▶ キャリア教育への理解不足

- キャリア教育としての意味、意義を理解できていない教師が多い(関西/専門)
- キャリア教育を本校としてどのように行っていくのかをまったく話し合っていないし、実践されていない。進路指導と同じと考えている教員が多い(北海道/専門)

【フリーコメント⑥】キャリア教育に対する取り組みの具体的な内容

【事前活動】

▶ 生徒への意味の伝達

- なぜ勉強するのか？なぜ上級学校へ行くのかの意味を集会や研修会において問うている（不明/普通）
- 生きることを問い、自分を認識させその目標に向けて今の自分をどう頑張らせるのかという一連の取り組みは始まったばかりだが、基本的に学力の増強なしには何の発展性もないという所ですべてが語られると思う（南関東/普通）

▶ 保護者への意味の伝達

- 保護者の啓発活動（九州・沖縄/普通）
- 保護者会等における情報提供が中心。ロングホームルームを利用して、生徒に「将来像」を考えさせる（関西/普通）

▶ 目標の設定

- 本年度から、各科目毎に、キャリア教育を踏まえた「目標」を設定した（東海/普通）
- H22段階では、分掌、学年、部活等、教員の指導内容、行事等を表にまとめ、全員がキャリア教育を実践しているという認識をもつことが目的（東海/普通）
- 3年間である一定の目標をもって生徒を育てようというプロジェクトが今年度から始まりました。教員に全体にそのような意識が浸透していないため具体的な内容は不足している（南関東/普通）
- 3年間のキャリアプランを立て、各学年ごとに目標を設定し、育成すべき諸能力を考えて生徒に接している（南関東/普通）
- 目標達成型ではなく、事実の積み重ねによる目標実現となるよう講演会やLHRなどで、講話内容を改めている（中国/普通）
- 3年間を通して、将来へ向けた取り組みを行いながら、目標を実現するために「実践」し、それが実現されているか「チェック」し、そして「スキルを高めていく」を繰り返していきます。何度も自分を見つめ直しながら、将来へ向けた人間形成を、コミュニケーション力の育成でどんな未来にも対応できる人間力を身につけていこうという狙いです（東北/普通）

【プログラム作成】

▶ 独自の教材・プログラムで対応

- 糧学講座という本校独自のキャリア教育を含んだ人生の先人に学ぶ講座や「オアシス、挨拶運動」など（関西/普通）
- 学校設定教科「キャリアデザイン」＊体験Ⅰ・体験Ⅱ→を実施。＊キャリアガイダンス→2年生インターンシップを実施（南関東/専門）
- ①「パネルディスカッション」本校OBで40～70代の社会人を呼んで、社会のあり方、その中の生き方についてディスカッションしてもらう。②「訪問講義」本校OBの大学教授、企業の研究者などに講義（専門分野の）をしてもらう。③「進路ガイダンス」現役大学生に大学の様子や研究内容をきく会。④「文化講演会」その道の第一人者に活動内容やその道に進んだ理由を講義してもらう（南関東/普通）
- キャリアブックという保護者等の協力によって、色々な職業の紹介をする冊子を発行している。専門学校、大学の教員を招き、職業講話をしている（北関東/普通）
- 各学年の指導計画を作成し、総合学習、LHR等を利用して実施。また長期休業中にも、さまざまな企画を通して実施（南関東/普通）
- 独自の進路ブックが、生徒、教員のキャリア教育の手引き書となっている。インターンシップを実施し、職業体験した上で、自己の適性を考えさせ、進学先を選ばせている（南関東/普通）
- 中高6年間を系統立てたプログラムでキャリア教育を展開している（北海道/普通）
- 独自の進路のしおりを作製し、それにもとづいて行なっている（九州・沖縄/普通）
- 生き方を学ぶために、独自の教材を作成中（九州・沖縄/専門）

【連携】

▶ 大学との連携

- 高大連携キャリア支援、高大連携講座、学期集中キャリア体験（ツアー、講座など10程度）シンポジウム…（東海/普通）
- 出前授業、高大連携事業、職業講話（東北/普通）
- 推薦入試、AO入試など比較的早い時期に入試が終了した生徒を対象に「入学準備事前学習」として25時間扱い（1コマ50分）で11月～1月に実施。高大連携で大学側から講師の方にも来ていただき、大学のキャリア教育（就活で内定を得るまでの実態、中学高校の学習内容がいかに関心かなど）についても指導。ワークシートは大学にすべて提出しています（南関東/普通）

▶ 小・中学校との連携

- インターンシップの実施。地元小学校の連携（出前授業、行事への参加）。地域住民との交流（甲信越/専門）
- 中学校と連携事業を行い、中学生や高校生の職業観を育てることに役立っている（東海/専門）

▶ 地域、企業、ハローワークとの連携

- 今年度は外部との連携（地元企業による模擬面接、学校関係者による模擬面接）が特徴的だ（北海道/普通）
- 道德教育の推進。地域との連携（東海/普通）
- インターンシップ、ハローワークとの連携（関西/その他）
- 地域企業と連携し、学校内で企業説明会を実施し、企業研究とともに職業観や勤労観の育成を目指している（東海/総合）
- 進学相談会への参加、ハローワークとの連携による就職ガイダンスの実施、進学ガイダンスの実施、各種資格取得推進（北海道/普通）

【研修・勉強会】

- 教職員の勉強会（月1回のペースで一人ずつのプレゼン[自身の進路選択、教員生活、生徒との出会いなど]と、その後の座談会。若手教員を中心に中堅も加わって）。夏の全員研修会（本校生の強み弱み、それを伸ばしたり克服したりするための方策等、分科会形式で）（東海/普通）
- 1年に1度教員研修を実施している。教員全体に理解が深まっているとは言いえないが、プラスにはなっていると思う（東海/専門）
- 外部講師による教員研修会の実施（関西/普通）
- インターンシップ3日間、教育コーチング職員研修、資格取得の激励（九州・沖縄/普通）

【体制】

▶ 部署設置、積極的に連携

- 部署を設置し、様々な情報提供や模試の実施、ガイダンス、講演会などの実施などを行っている（北関東/専門）
- 実施委員会を立ち上げ、キャリア教育に関する諸行事を体系化している。外部の組織とも積極的に連携をとっている（中国/普通）

▶ これから着手、整備

- まだまだ不十分であり、今、キャリア教育体制の整備に着手しているところである（北関東/専門）
- 県の指定事業の活用（ビジネスマナー講習、進路講話）。基礎学力の定着に向けて（検討中）←学校体制として整備していきたい（東北/普通）

【結果・評価】

▶ 外部評価を導入

- キャリアガイダンスを実施している。自己の適性を見出す検査を実施し、その結果を生徒にフィードバックしている。高大連携を進める中で、「学び」の本質をつかみ、生涯学習につなげられるよう指導している。学校評価の中に、キャリア教育についての評価項目を入れ、外部評価を受けている（関西/総合）

【フリーコメント⑦】キャリア教育を進めて行くうえでの障害

▶実施段階に入ったゆえの具体的課題の増加

- キャリア教育を進める際の「障害」を自由に書いてもらった。今回目立ったのは「実施時間の不足」や「予算」の問題。教科や行事との関係でなかなか時間が確保できないといったことや、実践には経費がかかるが、その手当てができないなど実施段階に入って初めて意識された問題が多く見受けられた。
- また35頁記載のデータで増加が見られる「教員の負担は大きくなりそうだ」を裏付けるコメントも多く、多忙な業務の中でどう実践していこうかと戸惑う様子も見られる。同様に「主旨が見えない」「意味がわからない」に関連するコメントも多く、十分に理解している教師はまだ少ないと思われる。

▶実施時間の不足

- 時間の確保。HRで活用できる時間は限られている。放課後は生徒が参加しにくい。現在土曜日に体験学習をしているが、今後土曜がどうなるか未知数(関西/普通)
- 他の行事との関係で、十分な時間がとれない。(南関東/普通)
- 教科学習の時間を確保するために、キャリア教育のうち、イベント的なもの、体験的な活動を十分に行うことが難しい(南関東/普通)
- 普通高校の場合学習時間の確保という視点から考えるとこれ以上キャリア教育に割り当てる時間的な余裕がない(東海/普通)
- 学力向上のための学習時間の確保と部活動の練習時間の確保で生徒の活動はいっぱいいっぱいである。どのようにしてキャリア教育の時間が生み出せるのか不安(東北/普通)

▶教員の負担の大きさ

- 教員の(進学指導、教科指導による)多忙さ(東北/普通)
- 教員一人ひとりの負担が増えること(東海/総合)
- 人員が不足している、アイデアも不足している(東北/普通)
- 教員が忙しすぎる。余裕がなくて計画したり、研究したり、組織化することが難しい(東海/普通)

▶何をやるにも予算がネック

- 活動予算、教員の定数減少による時間的問題点(北海道/普通)
- 動こうとすると経費がかかるが、予算がなかなかつかない(東北/専門)
- 予算がたりない。外部からの人を招いて講義をしてもらうのに、公費からほとんど謝礼が出ない。本校のようにOB組織がしっかりしていれば人材を捜せるがそうでないと、外部から人を呼ぶのは難しい(南関東/普通)

▶教員の知識・理解不足

- 教員の意識・・・就職選択＝キャリア教育という公式から頭を変えられない、教員のビジョンのない指導(東海/普通)
- キャリア教育＝出口指導という思い込み(関西/総合)

▶人材育成が追いつかない

- 教員の研修(全員)が不足していること。キャリア教育が、特別な(大変な)ことと思ってしまう教員がいること(南関東/普通)
- 教員不足、若手の育成時間が足りない。管理職が2年勤務で交代していき、体系だった指導がしにくい(九州・沖縄/総合)

▶今の体制のままで限界

- 人員、予算の配当がないまま行っている。無理を続けていける体力が今の学校(教員)にはない(関西/普通)
- 県教委が職業教育に力点を置いて指導してくること(関西/普通)
- 教員間での意義の共有と協力体制の確立(九州・沖縄/普通)
- 教員の連携不足(九州・沖縄/普通)

▶学力向上や進学実績を優先

- 授業時間が、キャリア教育関連事業により減ってしまうことになり、学力低下させないで、どのようにキャリア教育を進めていくかが課題(北関東/普通)
- 学力向上が第一。時間が足りない(九州・沖縄/普通)
- 進学のための学習指導にさける時間が、十分確保できなくなる(東北/総合)
- 偏差値教育、大学のブランド(中国/その他)
- 偏差値重視の進学指導。まだ日本は偏差値や伝統権威に弱く、キャリア教育は二の次で進学実績を求められてしまう(南関東/普通)
- 高学歴、高偏差値志向の進路指導体制(関西/普通)
- 大学受験指導にとって障害となるのではないかと、という教員の意識(四国/普通)
- 受験対策に必要な時間の確保(東北/普通)

▶企業との連携の難しさ

- 講演や体験など、企業側の協力が得にくい点(甲信越/普通)
- 職場体験、インターンシップの受け入れ先確保と運営上の困難(北海道/普通)
- インターンシップを受け入れてくれる事業所の確保、手続きや生徒の割り振りなど、事前準備の煩雑さ(北海道/専門)
- インターンシップを拡大していくうえでの受入先の確保(東海/専門)

▶保護者との認識のずれ

- 保護者の理解・・・せっかく生徒の意識が変わっても、結局保護者の意向に左右される(北海道/普通)
- 保護者の進学に対する理解(四国/普通)
- 教員と保護者の共通理解を図ることが難しい(東海/普通)

▶社会環境の急激な悪化

- 高校生の就職が悪い状況の中で、内定最優先で指導しているが、求人数が少ない現状ではこれだけで手いっぱい。生徒の能力のキャパシティによって扱える内容は、限られています(北関東/その他)
- 派遣労働や不安定雇用が増加し、勉強したことが生かされる希望がもてるような社会の状況でないこと(甲信越/普通)
- 長引く不況。キャリア教育を実践しても、厳しい現状の前では、いかんともしがたい(東北/普通)
- 今の社会状態の中で、出口(進学、就職)に関して不透明であることが障害。希望がもてない(東海/その他)

▶効果検証の難しさ

- 結果、効果というものが、見えにくい。特にほぼ100%が大学進学する本校ではその後の進路を見きわめないと効果を検証しにくいと思います(北関東/普通)

▶実はよくわかっていない・・・

- 「キャリア教育」の定義やイメージが、つかみにくい(関西/普通)
- 「キャリア教育」について、よく理解できていない教職員の存在(関西/普通)

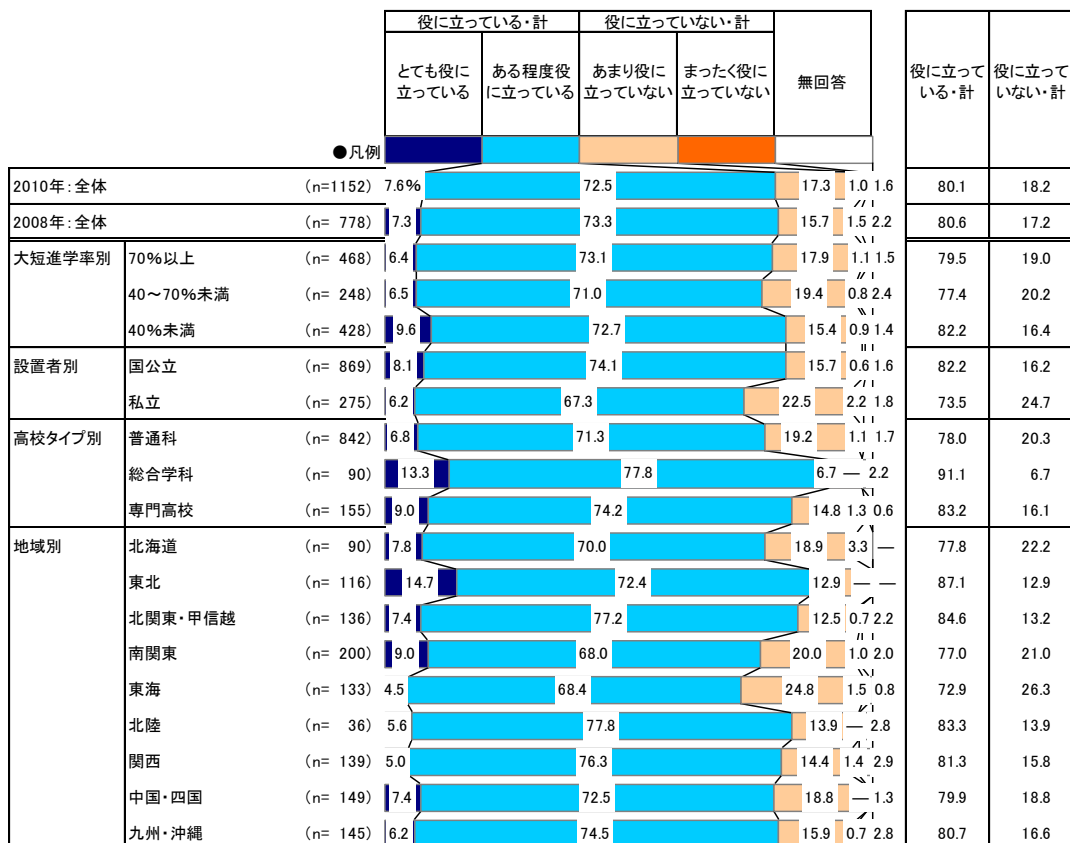
2. キャリア教育の評価

1) キャリア教育の役立ち度

- ▶ 全体の8割が「役に立っている」と回答
- ▶ 大短進学率40%未満や総合学科がより効果を実感

- 自校のキャリア教育は生徒の役に立っているのか、キャリア教育実施校にその効果についてたずねたところ、「とても役に立っている」と「ある程度役に立っている」を合わせた「役に立っている・計」は80%。「まったく役に立っていない」は、わずか1%だった。
- 大短進学率別にみると、「役に立っている・計」が最も多いのは[40%未満]82%、反対に少ないのは[40～70%未満]77.4%だった。
- 設置者別では私立よりも国公立、高校タイプ別では普通科や専門高校に比べ総合学科での「役に立っている・計」の割合が多く、総合学科の「とても役に立っている」は13%と唯一1割を超える。
- 地域別にみると、「役に立っている・計」が最も高いのは東北(87%)で「とても役に立っている」も唯一1割を超える。反対に最も低かったのは東海(73%)。

■ キャリア教育の役立ち度(キャリア教育を実施している／単一回答)

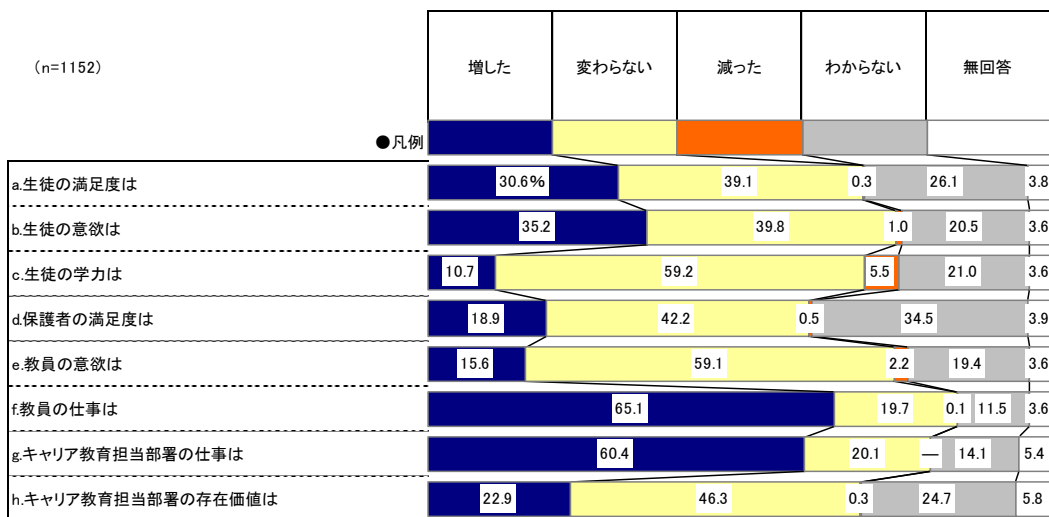


2) キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度

▶ 教員の仕事は増しているが生徒の変化の把握は不十分

- キャリア教育実施校に生徒の満足度や意欲、教員の意欲や仕事量など8項目について増減をたずねたところ、「増した」の割合が多かったのは、「教員の仕事」「キャリア教育担当部署の仕事」で、いずれも6割を超えた。以下はかなり離れるが「生徒の意欲」「生徒の満足度」などが続き、「増した」が最も少ないのは「生徒の学力」だった。
- 「教員の仕事」と「キャリア教育担当部署の仕事」以外の項目は「増した」よりも、「変わらない」や「わからない」という回答のほうが多く、キャリア教育の推進により教員の仕事量は明らかに増すが、生徒の成長などに関して実感あるいは評価できている高校はまだ少数という様子がうかがえる結果となっている。

■ キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度_a～h（キャリア教育を実施している／各単一回答）

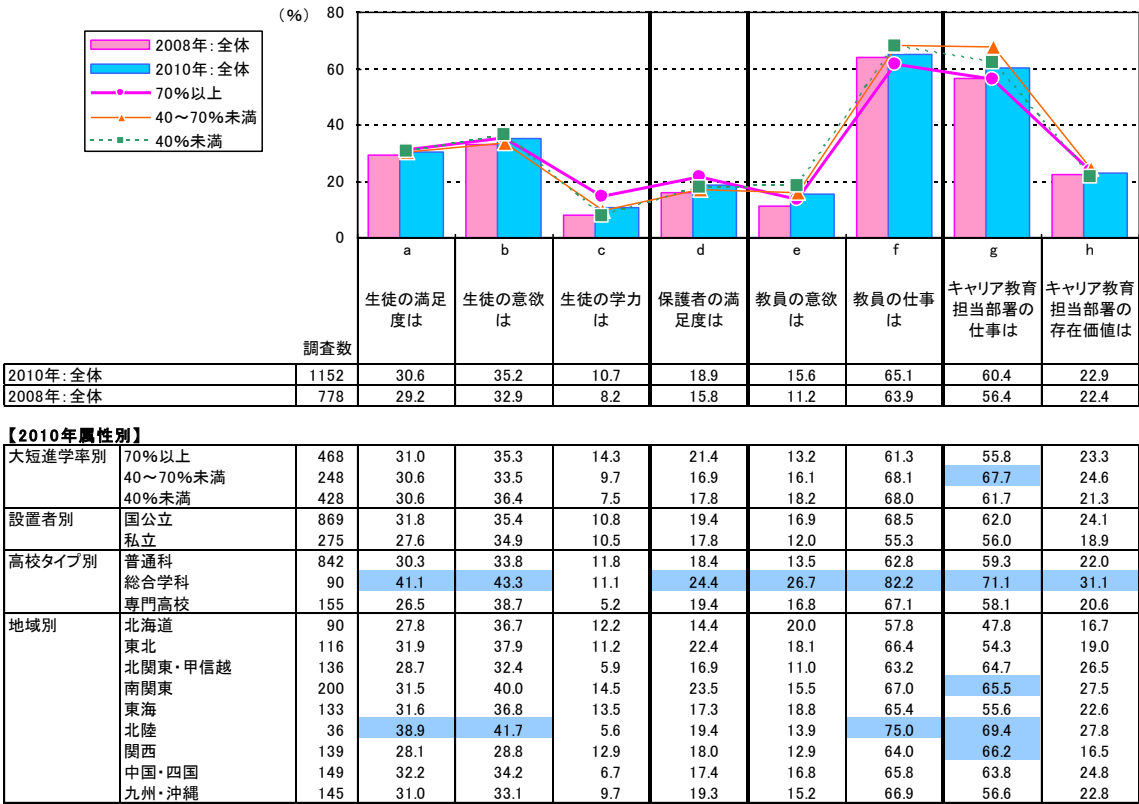


Q11-0

▶ 前回に比べ、どの項目も「増した」は増加

- 前回同様、「増した」の割合が多かったのは、「教員の仕事」「キャリア教育担当部署の仕事」。以下はかなり離れて「生徒の意欲」「生徒の満足度」などが続き、「増した」が最も少ないのは「生徒の学力」。
- 大短進学率別で大きな違いはみられないが、進学率[70%以上]では「生徒の学力」や「保護者の満足度」、[40～70%未満]と[40%未満]では「教員の仕事」「キャリア教育担当部署の仕事」とともに「教員の意欲」などが、他層に比べ高めとなっている。
- 高校タイプ別にみると、全般的に「増した」の割合が高いのは総合学科。

■ キャリア教育の推進による学校や生徒の変容度_a～h 【増した】のスコア一覧：時系列比較
(キャリア教育を実施している／複数回答)



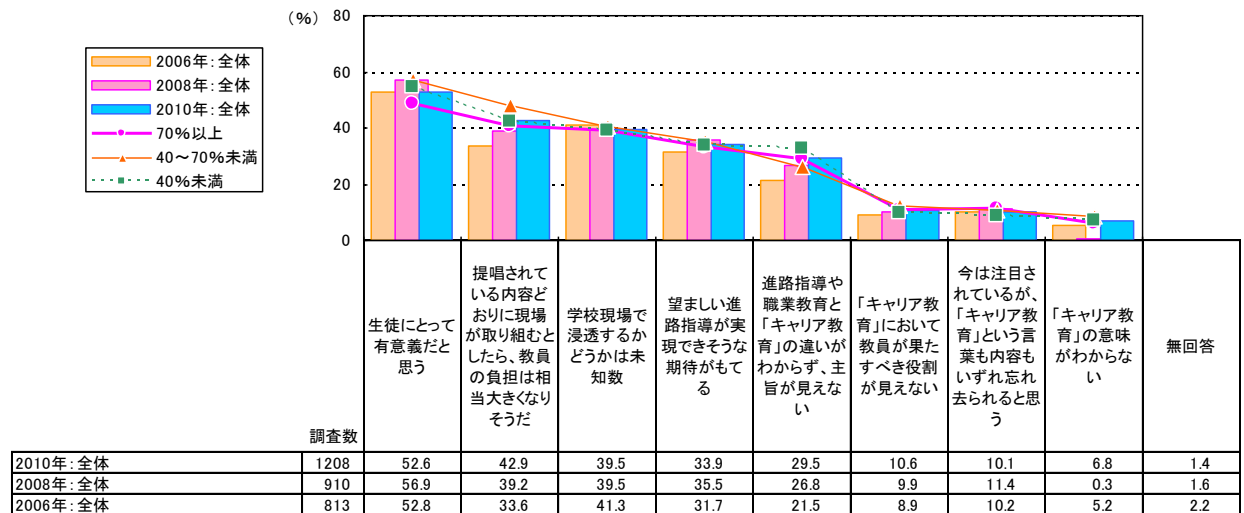
※【2010年属性別】は、「2010年: 全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

3) キャリア教育に対する考え

▶「教員の負担」や「主旨が見えない」が増加

- キャリア教育について8つの選択肢から、自分の考えに近いと思うものをすべて選んでもらったところ、最も多かったのは前回と同様、「生徒にとって有意義だと思う」53%という前向きな意見。しかし前回よりは減少しており、同様に「望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる」という前向きな意見も減少した。
- 逆に、今回増加したのは、キャリア教育について後向きともとれる意見。「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」43%が2位、「学校現場で浸透するかはどうかは未知数」40%が3位となった。
- また、基本的な理解が十分に進んでいない状況も見受けられ、「進路指導や職業教育と『キャリア教育』の違いがわからず、主旨が見えない」や「『キャリア教育』の意味がわからない」が増加している点も今回の特徴といえる。
- 大短進学率別で大きな違いはみられないが、進学率[40～70%未満]では「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」48%と、他2層に比べやや高めとなっている。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「生徒にとって有意義だと思う」「望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる」という前向きな意見とともに、「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」の割合も普通科や専門高校に比べ高い。
- 地域別にみると、他地域に比べ北海道は「生徒にとって有意義だと思う」が低く、「進路指導や職業教育と『キャリア教育』の違いがわからず、主旨が見えない」「『キャリア教育』の意味がわからない」といった割合が高い。

■ キャリア教育に対する考え（全体／複数回答）



【2010年属性別】

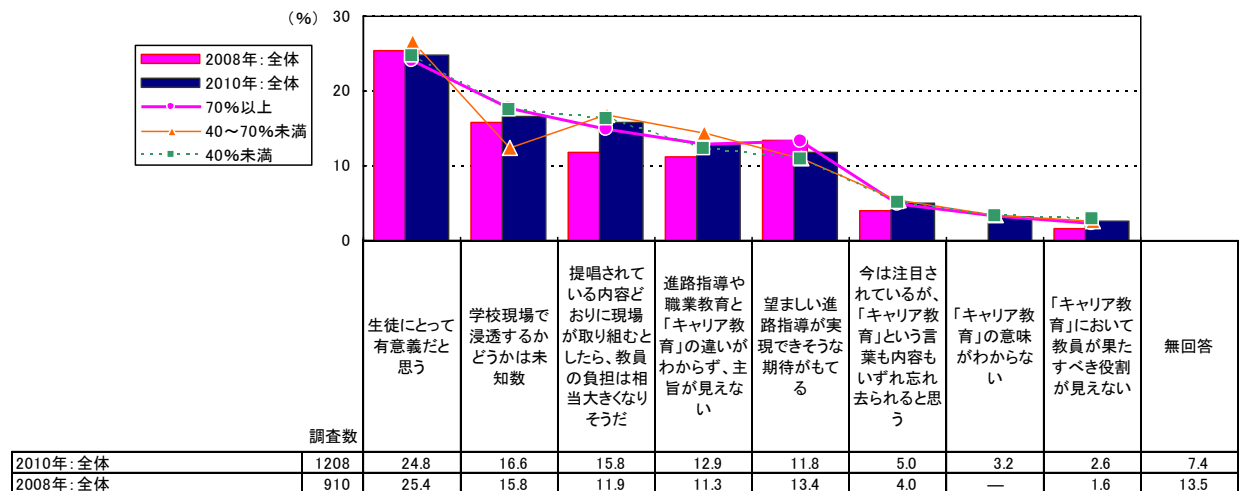
大短進学率別	70%以上	501	48.3	40.7	39.1	33.1	28.7	10.8	11.2	5.8	1.2
	40～70%未満	255	57.3	48.2	40.8	35.3	26.3	12.2	10.6	8.6	2.0
	40%未満	443	54.4	42.2	39.1	33.6	32.3	9.7	8.8	7.0	1.4
設置者別	国公立	900	52.1	43.2	39.8	34.0	29.0	10.2	10.8	6.2	1.2
	私立	299	53.5	41.8	38.5	33.1	31.1	12.0	8.4	8.7	2.0
高校タイプ別	普通科	886	51.1	43.7	41.0	32.6	30.2	10.8	10.7	6.9	1.2
	総合学科	90	62.2	52.2	35.6	41.1	21.1	12.2	8.9	4.4	1.1
	専門高校	165	52.7	39.4	35.8	35.8	32.1	7.3	8.5	6.7	1.2
地域別	北海道	96	44.8	36.5	35.4	33.3	38.5	12.5	10.4	14.6	4.2
	東北	122	60.7	41.0	34.4	32.8	33.6	14.8	12.3	7.4	—
	北関東・甲信越	144	59.7	45.8	39.6	36.8	25.7	11.1	6.9	3.5	2.1
	南関東	211	46.4	42.2	41.2	33.6	33.2	11.4	10.4	9.0	0.9
	東海	140	53.6	40.7	44.3	30.0	23.6	12.1	10.7	7.1	0.7
	北陸	36	58.3	47.2	38.9	36.1	38.9	2.8	5.6	11.1	—
	関西	153	49.0	41.8	40.5	32.0	33.3	9.2	14.4	2.6	1.3
	中国・四国	150	50.7	46.7	40.7	33.3	23.3	9.3	10.0	7.3	1.3
	九州・沖縄	147	55.1	44.9	36.7	37.4	24.5	8.2	7.5	4.1	2.0

※「2010年：全体」の降順ソート

※【2010年属性別】は、「2010年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

- 前ページ項目の中から、「最もあてはまる」ものをひとつ選んでもらったところ、複数回答と同様に最も多かったのは「生徒にとって有意義だと思う」25%で、ほぼ前回同様。ついで「学校現場で浸透するかどうかは未知数」17%、「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」16%で、いずれも前回から微増傾向。有意義だとは思いつながら、今後についての不安も垣間見る結果となった。
- 高校タイプ別にみると、複数回答同様に総合学科は「生徒にとって有意義だと思う」「望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる」という前向きな意見とともに、「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」の割合も普通科や専門高校に比べ高い。

■ キャリア教育に対する考え（最も）（全体／単一回答）



【2010年属性別】

大短進学率別	70%以上	501	24.0	17.6	14.8	12.8	13.2	4.8	3.2	2.2	7.6
	40～70%未満	255	26.7	12.5	16.9	14.5	11.0	5.5	3.5	2.7	6.7
	40%未満	443	24.6	17.4	16.3	12.2	10.8	5.0	3.2	2.9	7.7
設置者別	国公立	900	24.0	16.7	16.3	13.1	12.8	5.2	2.0	2.8	7.1
	私立	299	27.1	15.7	14.0	12.4	9.0	4.3	7.0	2.0	8.4
高校タイプ別	普通科	886	23.8	17.4	15.8	13.5	11.7	4.7	3.4	2.1	7.4
	総合学科	90	32.2	14.4	20.0	5.6	13.3	6.7	2.2	3.3	2.2
	専門高校	165	25.5	14.5	16.4	13.3	11.5	4.8	1.8	3.6	8.5
地域別	北海道	96	16.7	15.6	12.5	17.7	11.5	5.2	7.3	1.0	12.5
	東北	122	27.9	16.4	13.1	13.9	11.5	4.1	3.3	5.7	4.1
	北関東・甲信越	144	31.9	12.5	15.3	13.2	11.1	3.5	—	2.8	9.7
	南関東	211	22.3	19.0	16.6	15.2	11.4	5.2	4.3	1.4	4.7
	東海	140	27.9	16.4	12.9	11.4	12.1	6.4	3.6	2.1	7.1
	北陸	36	25.0	8.3	19.4	19.4	16.7	—	2.8	—	8.3
	関西	153	23.5	15.7	14.4	13.7	7.8	8.5	1.3	4.6	10.5
	中国・四国	150	25.3	17.3	20.7	7.3	13.3	4.7	4.7	2.7	4.0
	九州・沖縄	147	21.8	19.0	17.7	10.2	15.0	3.4	2.7	1.4	8.8

※「2010年：全体」の降順ソート

※【2010年属性別】は、「2010年：全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q12SQ01

【フリーコメント⑧】キャリア教育に対する考え:「最も」そう思う理由

▶ 生徒にとって有意義

- 将来へ夢や展望をもつために、具体的な内容を学習可能である(東北/専門)
- 学力、意欲の低下に歯止めをかけるには、生徒が学ぶことの意味を考える場が必要だから(九州・沖縄/普通)

▶ 教員の負担は相当大きくなりそう

- 「キャリア教育」の幅が広すぎる上、校内の活動だけでおさまりきらず、ほかの教育活動との併立が難しい、準備もする余裕なし(南関東/普通)
- 担当部署は、内外の連携、対応、資料情報の収集など、教師は指導法など、研修、研鑽の必要性が出てくる教科、生徒指導もあるので、追いつかない(九州・沖縄/普通)
- 現在も同様のことをしているが、企画、運営を担当する者、担任などの負担は相当なものである(四国/総合)

▶ 学校現場に浸透するかは未知数

- 目標が大き過ぎており、小目標を設定しづらいので実感、もしくは評価しにくい(中国/専門)
- 意義はあるが、多くの者が真の意味を理解していないので(北海道/普通)

▶ 望ましい進路指導が実現できそうな期待

- これまでも言ってきた内容が明文化されたことにより、校内においても意識されるようになり、より推進しやすくなったため(九州・沖縄/普通)
- 学年進行に伴い、3年間、生徒が意識しながら取り組めば、生徒の進路意識は相当高まり、自己実現能力も身につくと思われる(関西/普通)

▶ 違いがわからず主旨が見えない

- 以前から学校全体で取り組んでいることとの違いがわからない(九州・沖縄/普通)
- 職業教育とキャリア教育の違いがなかなか理解できない(東海/専門)
- キャリア教育と学問の関係がわかりづらい。職業教育(就職指導)と進学指導とキャリア教育をはっきり区別していない。キャリア教育の幅が広い(九州・沖縄/専門)

第Ⅲ部 上級学校との接続における今後の期待と見通し

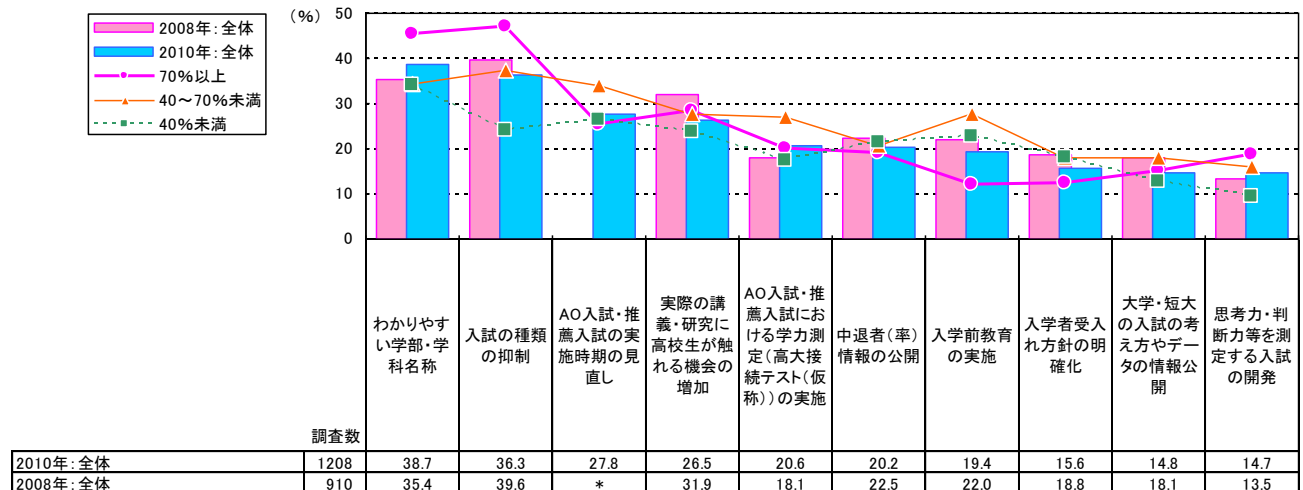
1. 今後期待すること

1) 高大接続・連携／大学・短期大学・文部科学省に期待すること

- ▶ 最も期待することは、「わかりやすい学部・学科名称」、ついで「入試の種類の抑制」
- ▶ 前回とは1位、2位が逆転

- 高大接続・連携の観点から大学・短大および文部科学省に期待することをたずねたところ、トップは「わかりやすい学部・学科名称」39%、ついで「入試の種類の抑制」36%。前回と1位、2位が逆転した。
- また今回新しく追加した「AO入試・推薦入試の実施時期の見直し」が28%で3位。進路指導時の困難な要因として多くコメントされた“入試の早期化”による問題点の解消を求める声の表れといえる。
- 大短進学率別にみると、進学率[70%以上]では「わかりやすい学部・学科名称」「入試の種類の抑制」、[40～70%未満]では「AO入試・推薦入試の実施時期の見直し」「AO入試・推薦入試における学力測定の実施」「入学前教育の実施」、[40%未満]では「推薦入試枠の拡大」「AO入試枠の拡大」が、それぞれ他層に比べ高くなっている点が特徴的。

■ 高大接続・連携／大学・短期大学・文部科学省に期待すること(全体／複数回答)



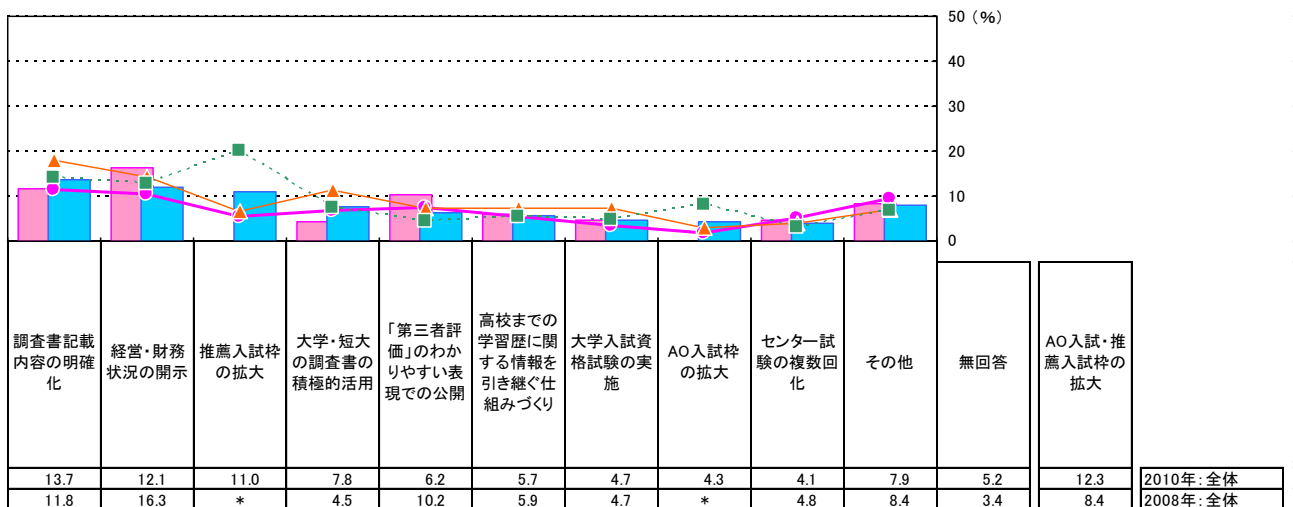
【2010年属性別】

大短進学率別	70%以上	501	45.3	47.1	25.5	28.5	20.0	19.0	12.0	12.2	15.0	18.8
	40～70%未満	255	34.5	37.3	34.1	27.8	27.1	20.8	27.8	18.0	18.0	16.1
	40%未満	443	33.9	23.9	26.4	23.7	17.2	21.4	22.8	18.1	12.6	9.3
設置者別	国公立	900	36.4	36.6	28.9	26.9	20.3	20.8	18.8	15.2	15.8	14.3
	私立	299	45.8	36.1	24.1	25.8	20.7	18.7	21.1	16.7	11.7	15.7
高校タイプ別	普通科	886	40.3	39.3	29.3	28.1	22.8	21.4	18.5	15.2	15.3	16.7
	総合学科	90	36.7	43.3	32.2	27.8	21.1	20.0	27.8	14.4	21.1	12.2
	専門高校	165	33.3	20.0	21.2	21.8	12.1	16.4	21.8	19.4	11.5	9.1
地域別	北海道	96	32.3	26.0	30.2	21.9	18.8	21.9	27.1	15.6	12.5	13.5
	東北	122	34.4	31.1	14.8	26.2	22.1	18.9	21.3	18.0	19.7	15.6
	北関東・甲信越	144	36.1	37.5	26.4	26.4	20.8	21.5	24.3	18.1	16.7	9.0
	南関東	211	46.4	43.1	30.3	24.6	28.4	24.6	17.5	15.6	13.3	19.0
	東海	140	44.3	36.4	34.3	28.6	12.9	20.0	16.4	14.3	16.4	12.9
	北陸	36	61.1	50.0	19.4	22.2	22.2	13.9	16.7	16.7	11.1	13.9
	関西	153	34.0	38.6	28.8	28.1	13.7	17.6	18.3	13.1	11.8	17.0
	中国・四国	150	41.3	41.3	31.3	30.7	22.0	18.0	18.0	17.3	18.0	12.0
	九州・沖縄	147	29.9	26.5	25.2	26.5	20.4	19.7	16.3	12.9	11.6	16.3

※「2010年: 全体」の降順ソート

※「*」は該当項目なし

※【2010年属性別】は、「2010年: 全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け



11.4	10.2	5.4	6.6	7.2	5.2	3.4	1.6	5.0	9.4	3.4	5.8	70%以上
18.0	14.5	6.7	11.4	7.5	7.5	7.5	3.1	3.9	7.1	4.3	8.2	40～70%未満
14.0	12.6	19.9	7.2	4.3	5.4	4.7	7.9	2.9	6.8	7.4	22.1	40%未満
13.6	12.9	11.6	7.4	5.4	5.8	5.0	3.9	3.3	7.9	5.4	12.8	国公立
14.4	9.4	9.4	9.0	8.4	5.7	4.0	5.4	6.0	8.0	4.0	11.0	私立
13.5	12.4	6.7	7.8	7.0	5.3	4.5	3.2	4.2	8.7	5.3	7.6	普通科
16.7	17.8	15.6	8.9	3.3	7.8	6.7	5.6	5.6	5.6	2.2	15.6	総合学科
14.5	9.7	27.9	8.5	4.8	6.7	4.8	7.9	1.8	4.8	5.5	30.9	専門高校
24.0	14.6	10.4	3.1	5.2	5.2	6.3	2.1	6.3	7.3	7.3	10.4	北海道
13.9	5.7	12.3	5.7	7.4	9.0	4.1	7.4	2.5	7.4	11.5	15.6	東北
11.1	11.1	9.0	7.6	5.6	4.2	1.4	2.8	2.8	9.0	4.2	10.4	北関東・甲信越
15.6	10.9	6.2	7.1	9.0	4.7	5.2	2.4	4.7	7.6	3.8	6.6	南関東
13.6	9.3	9.3	6.4	5.7	2.9	2.9	2.9	2.9	12.1	4.3	9.3	東海
2.8	16.7	8.3	11.1	2.8	2.8	2.8	5.6	2.8	5.6	8.3	8.3	北陸
9.8	17.0	12.4	9.2	5.2	7.2	8.5	3.9	3.9	7.8	5.9	13.7	関西
16.7	14.0	12.0	9.3	8.0	6.0	3.3	5.3	3.3	6.0	2.0	14.0	中国・四国
10.9	12.2	19.0	11.6	2.7	8.2	6.8	7.5	6.1	6.8	3.4	21.8	九州・沖縄

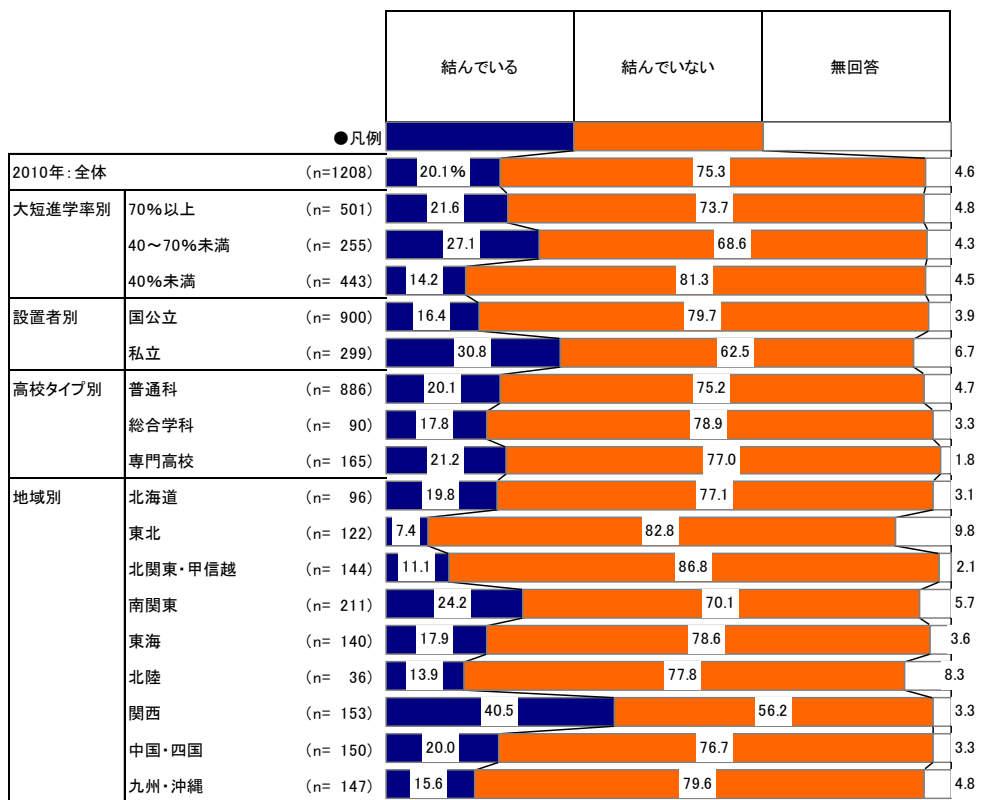
※2006年～2008年調査時の選択肢「AO入試・推薦入試枠の拡大」を、2010年調査で「AO入試枠の拡大」「推薦入試枠の拡大」に分割

2) 高大連携推薦の協定締結状況

▶ 「結んでいない」が75%を占める中、突出して高い関西の協定締結率

- 特定大学・短大と高大連携推薦の締結の有無をたずねたところ、「結んでいない」が75%を占めた。
- 大短進学率別にみると、「結んでいる」割合が最も高いのは、進学率 [40～70%未満] 27%。
- 設置者別では、国公立よりも私立のほうが「結んでいる」割合は高く3割を超える。
- 地域別にみると、「結んでいる」割合が突出しているのは関西(41%)。ついで南関東(24%)、中国・四国(20%)。反対に唯一「結んでいる」割合が1割に満たないのは東北(7%)。

■ 高大連携推薦の協定締結状況(全体／単一回答)



Q15SQ01

【フリーコメント⑨】今後の大学情報提供・公開に対する具体的な要望・意見

【大短進学率70%以上】

▶ 大学教員の実績、研究内容詳細

- 大学の先生の専門(強み弱み)や研究室の特色の開示。就職状況の大学間のわかりやすい比較(南関東/普通)
- 大学での研究成果実績がわかりやすい形で公表されること(関西/普通)
- 研究に専心してほしい。情報提供、公開はしっかりした研究があつてこそもの(東北/普通)

▶ 大学で学ぶ内容、シラバス、身につく力

- 似たような研究内容の学部学科どうしの違いがわかりやすく提示されると良い(関西/普通)
- 研究室でどんな研究をしているか。就職率、進学率とその行先。中退率、留年率。シラバスの公開(南関東/普通)
- 英語教育の充実度。就職状況と中退、休学の状況を全国統一のデータで公表してほしい(南関東/普通)
- シラバスの開示(具体的にどのような授業があるかなど)、就職率の明示、卒業時に身につく能力の明確化(関西/普通)
- HPをもっと見やすく。研究内容がよくわかるように。特に人文系(中国/普通)

▶ 入試関連

- 入試問題作制における「ねらい」、「期待する学生像」といったもの(南関東/普通)
- 入試のシステムごとの入学者の、入学後の成績の比較(明確、具体的な指標、スケールに基づいたもの)(関西/普通)
- 入学者のうちの一般入試、推薦、指定校などの種別ごと毎の人数を(北海道/普通)
- 入試データ全公開(受験数、入学数)。就職率、資格合格率の分母明示。推薦、AOの可否判定基準の公開(東海/普通)

▶ 入学後の状況

- 入学者の割合(定員に対する)。卒業率(関西/普通)
- 入学者数、退学者数、就職者数の細かい内訳の公開(東海/普通)
- 入学後の成長率を示すものがあれば示してほしい(九州・沖縄/普通)

▶ 就職関連

- 就職率などの算出根拠の明示(母数は何か?)、研究内容の開示(東海/普通)
- 就職内容の明示。マスコミ等で就職率NO.1大学とか言っているが、内容も含め表示するようにしてほしい。数字だけの評価は恐ろしいし、危険である(北関東/普通)

▶ 資格取得関連

- 大学で取得できる資格をもう少しわかりやすく明示して欲しい。(国公立大は特に学部、学科ごとに作成されていて書式が統一されていないケースが多い)(九州・沖縄/普通)
- 例えば薬学部などの、国家試験の合格者を分母を統一(在籍者なのか受験者なのか)してのデータ比較を高校で調べとれるようにしてほしい(東北/普通)

▶ 経営情報関連

- 大学の経営状況、定員に対する充足率などの明示(南関東/普通)
- 国公立大学、私立大学を問わず、経営状況は大丈夫なのか。地方国公立大の場合、設備、人材が劣化しているのではないかと懸念があるが、情報がない(関西/総合)

【大短進学率40～70%未満】

▶ 大学で学ぶ内容、シラバス

- 学科の内容のちがいを明確に提示してほしい(中国/普通)
- シラバスの開示(甲信越/普通)

▶ 入試関連

- 全大学で、過去問の公開および送付(東海/普通)
- センター利用試験について(関西/普通)
- 推薦入試における、可否ラインの明確な資料(南関東/専門)
- 調査書が大学の可否に、どこまで利用されているのか数値化してもらいたい(東北/総合)

▶ 入学後の状況

- 中退率、ゼミ加入率、就職率などの算出根拠の明示、就職先—いい所だけでなくページが増してもいいのでできれば一覧を(南関東/普通)
- 低学力生徒を受け入れたあとの指導方法。大量にそのような生徒を入学させているが、その生徒の就職状況(関西/普通)
- 大学入試、AO入試、すいせん入試による差が入学後にどのくらいあるのか。ということ。成績、生徒の動向等(中国/普通)

▶ 就職関連

- 高校出身者の、就職先の連絡が欲しい。(個人情報なのはわかるが、本人の了解をとって知らせてほしい。専門はそうしてくれている。)(北海道/普通)
- 就職情報が学校によりまちまち、すべての人数、すべての進路先を公開してほしい、一人ひとりに対しての。過去3年の就職先の一例といった具合(東北/総合)

▶ 資格取得関連

- 国家試験合格率の情報明確化(母数は何か)。就職率などの算出根拠の明示(母数は何か)(東北/普通)

▶ 経営情報関連

- 経営状況(全国統一バランスシート)の公開(中国/普通)

【大短進学率40%未満】

▶ 就職関連

- 生徒(大学在生)の就職状況(特に新卒生)や、その取組などをわかりやすく示してほしい。(一部の学校では宣伝しかない所もある。)(南関東/普通)
- 就職率などの算出根拠の明示。数字をどの程度信じてよいのか。(甲信越/普通)
- 就職先の明確化(1人で複数の内定を得る場合が多いので、就職先の実人数が知りたい)(東北/総合)

▶ 入試関連

- AO入試、推薦入試の評価方法の公開→2年半かけて、合格できる人物を育てる(東北/専門)
- AO入試、公募推薦、専門学科推薦で不合格の場合の理由を開示してほしい(九州・沖縄/総合)

▶ 入学後の状況

- 進学した卒業生が、どのような状況にあるかを、すべて知らせてほしい。卒業してからの企業、進学先なども含めて(東北/普通)
- 進路決定状況について大学の状況を知りたい。特に資格取得、インターンシップの取組み状況(東海/総合)

▶ 資格取得関連

- 資格取得が可能な学部学科については、その受験状況(定員に対し、受験者、合格者)(九州・沖縄/普通)

3)高専接続・連携／専門学校・行政に期待すること

▶最も期待することは、「就職実績の公開」

▶ついで「卒業時に身につく能力の明確化」や「中退者(率)情報の公開」

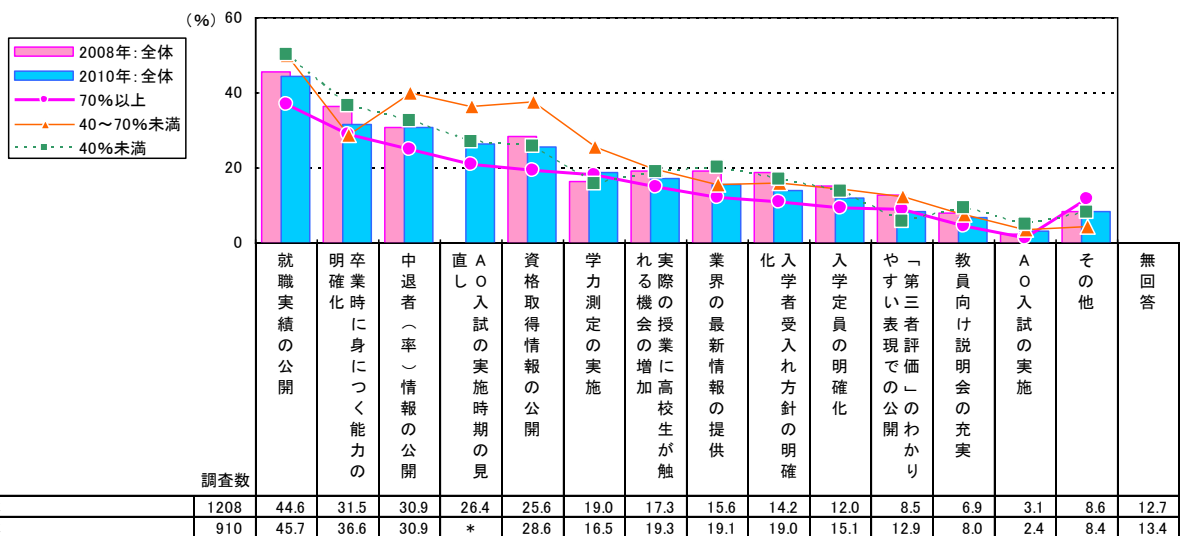
●高専接続・連携の観点から専門学校および行政に期待することをたずねたところ、トップは「就職実績の公開」45%、ついで「卒業時に身につく能力の明確化」32%、「中退者(率)情報の公開」31%。前回同様の順位となった。

●また今回新しく追加した「AO入試の実施時期の見直し」は26%で4位。高大と同様に上位にあげられている。

●大短進学率別にみると、進学率[40～70%未満]では「中退者(率)情報の公開」「AO入試の実施時期の見直し」「資格取得情報の公開」「学力測定の実施」、[40%未満]では「卒業時に身につく能力の明確化」などが他2層に比べ高くなっている点特徴的。[70%以上]は他2層に比べ全般的に低い。

●高校タイプ別にみると、全般的に高めなのは総合学科。全体値の上位2項目については専門高校も総合学科と同水準。

■ 高専接続・連携／専門学校・行政に期待すること(全体／複数回答)



【2010年属性別】

大短進学率別	70%以上	501	36.9	28.7	25.0	20.8	19.2	18.0	15.0	12.2	10.8	9.4	9.0	4.6	1.4	11.6	18.2
	40～70%未満	255	50.2	29.0	40.0	36.5	37.6	25.5	19.6	15.7	16.1	14.5	12.5	7.5	3.5	4.3	6.7
	40%未満	443	50.1	36.3	32.3	26.9	25.7	15.6	18.7	19.9	16.9	13.5	5.6	9.3	4.7	7.9	9.7
設置者別	国公立	900	47.6	32.7	33.0	28.7	25.9	20.9	17.6	15.8	14.2	14.0	9.0	6.8	2.8	9.1	10.9
	私立	299	35.8	28.4	24.4	19.4	24.4	12.0	16.7	15.7	14.0	6.0	7.0	7.4	4.0	7.4	17.7
高校タイプ別	普通科	886	43.0	29.0	31.7	26.4	25.5	20.4	16.8	15.1	13.1	11.9	9.5	6.4	1.9	9.4	14.3
	総合学科	90	53.3	41.1	40.0	36.7	33.3	22.2	20.0	15.6	23.3	15.6	8.9	5.6	6.7	10.0	4.4
	専門高校	165	52.1	40.6	23.0	20.6	24.8	10.9	18.8	18.8	14.5	12.1	5.5	7.9	6.1	6.1	8.5
地域別	北海道	96	45.8	31.3	27.1	35.4	20.8	18.8	18.8	13.5	9.4	5.2	8.3	2.1	3.1	12.5	
	東北	122	47.5	36.9	24.6	17.2	25.4	18.0	18.9	17.2	13.1	11.5	13.1	7.4	4.1	8.2	13.1
	北関東・甲信越	144	39.6	31.9	32.6	23.6	23.6	18.8	15.3	15.3	16.0	12.5	11.1	4.9	2.8	12.5	13.9
	南関東	211	45.5	34.6	33.2	26.5	29.9	16.1	17.5	13.7	16.6	13.7	7.1	7.6	1.9	10.4	13.3
	東海	140	43.6	32.1	29.3	32.1	27.1	23.6	23.6	10.7	15.0	12.9	7.1	4.3	2.9	7.9	13.6
	北陸	36	50.0	33.3	30.6	13.9	16.7	19.4	8.3	11.1	19.4	13.9	8.3	—	8.3	8.3	16.7
	関西	153	48.4	27.5	26.1	32.0	22.9	15.7	17.0	13.1	9.8	7.8	9.8	11.1	3.3	9.8	14.4
	中国・四国	150	46.7	34.0	39.3	24.7	30.7	19.3	18.7	20.7	16.0	10.7	8.0	7.3	2.7	6.7	8.7
	九州・沖縄	147	38.8	23.8	31.3	23.8	22.4	20.4	12.2	19.7	10.9	15.6	6.8	6.1	4.1	8.2	10.2

※「2010年:全体」の降順ソート

※「*」は該当項目なし

※【2010年属性別】は、「2010年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

【フリーコメント⑩】大学・短大・専門学校との接続・連携についての意見・課題

【大短進学率70%以上】

▶ 連携はしたもの・・・

- 親大学との連携の難しさ←進学者数が少ないことによる(南関東/普通)
- 連携を結んでも通学時間がかかり、希望してもその時間に行くことができない問題点がある(南関東/普通)

▶ 入試のあり方に問題あり

- 入試が多様化しすぎた感がある。体験入学のような事がおこる場合もあるようだ。大学、専門学校にまかせきりのシステムになっている面もある。それぞれの特徴であると言えばそれまでだが、もう少しなんとかならないものかと考える(関西/普通)
- 入試は一本化し、一般入試のみにすべきだ。高大接続テストなど、不要になる、学力もつく(北関東/普通)
- AO入試が、入学生確保の手段になっている(特に専門学校)。ひどいと思う(関西/普通)
- 入試の制度が多すぎ、生徒は勉強しないで、入学できる方法を捜して、勉強しなくなっている(関西/総合)

▶ 大学側も認識を変える時期

- 大学側も認識を改め、変わらなければならない時期に来ていることを痛感する。生徒、学生の学力を含めた現状認識が、なかなか進んでいないと思う。真の意味での連携とか、教育の断続をなくすことである(九州・沖縄/普通)
- 高大、高専連携も大切であるが、中高連携にも、もっと力を入れていくべきだと考える(四国/普通)
- 大学出張講義などを実施しているが、単発に終わっており、もう少し長いスパンでの取り組みができればと考えている(甲信越/普通)

▶ もっと生徒に厳しく

- 生徒に対してもっと厳しくしてほしい。安易に大学に入れるので、努力もしない生徒が増える。努力しない生徒を高校と大学ばかりが努力して面倒をみている(教育しているのではない)ことはどこかでやめにしてほしい(関西/普通)

▶ 大学からの訪問増で負担大

- 多忙化に伴い、大学、短大、専門学校からの学校訪問に十分対応できない。中には、一校から年間に数回訪問される所もあり困っている(中国/普通)

【大短進学率40～70%未満】

▶ 地域格差が大きい

- 地域間格差・・・大都市圏には大学等が多く恵まれているが、地方には大学等が少ない(東北/普通)
- 近くに大学等がないことから、接続、連携はとても困難である(東北/総合)
- 地理的条件(遠隔地)で、どのような連携ができるか(九州・沖縄/普通)

▶ うっかり連携は危険

- ヘタに連携すると、相手校の子会社になりかねない恐れがあり、危険である(北関東/普通)
- 専門学校と連携しようとするとうちに生徒募集を始めてしまうので、生徒と専門学校をくっつけられない(南関東/普通)

▶ AOや専門学校の動きの早期化を疑問視

- 専門学校は、生徒数の減少から経営の悪化もあり、生徒獲得のため、早期より高校生をあおっている。CMや営業力に惑わされている(東海/総合)
- 文科省より、8月より面談開始となっているが、特に不認可の専門学校等は、この時期を守っていないところ多し(南関東/普通)
- 特に専門学校ですが、夏のオープンキャンパスで勝手にAO入試の面接へと促し、調査書を送れと要求してくるのはやめてほしい(九州・沖縄/普通)
- AOの時期が早すぎる。11月以降にすべきである(東北/普通)

【大短進学率40%未満】

▶ 地域によって連携が難しい

- 僻地から高等教育機関の研究や講義に触れられる機会が実質的に制限されていること。(交通費等の負担等)(北海道/普通)
- 本校のように、生徒の自宅が交通の便が悪く、進学動機が高くないと、大学の授業を受けるまでの意欲がわからない(南関東/総合)

▶ 青田刈りが大問題

- 専門学校のAO入試が、青田刈りが目的となっていることに問題を感じています(北海道/普通)
- 大学、短大、専門学校の「青田買い」具体的には、オープンキャンパスや校内説明会に参加した生徒に直接、「推薦で合格」「特待」などの話を持ちかける。高校の現場が混乱するのでやめてもらいたい(甲信越/普通)
- 特に専門学校の青田刈り(AO入試エントリー)をやめてほしい(東海/総合)

▶ 安易な入試(入学ルート)の是正を

- 指定校枠の安易な拡大など、学生確保の手段のみに利用されることがないように、連携の質を高めていく工夫が必要である(東北/普通)
- 専門学校については、入試のありかたや入試後のありかたに疑問がある(場合がある)。入試については、書類提出のみで、面接はオープンキャンパス出席で免除、学力テストは高校の調査書の評定で判断している所がある。また、比較的決定が早いので、モチベーションを下げさせないためにも、学力向上の課題や入学後の講義の先取り学習など、与えてもらいたい(九州・沖縄/普通)

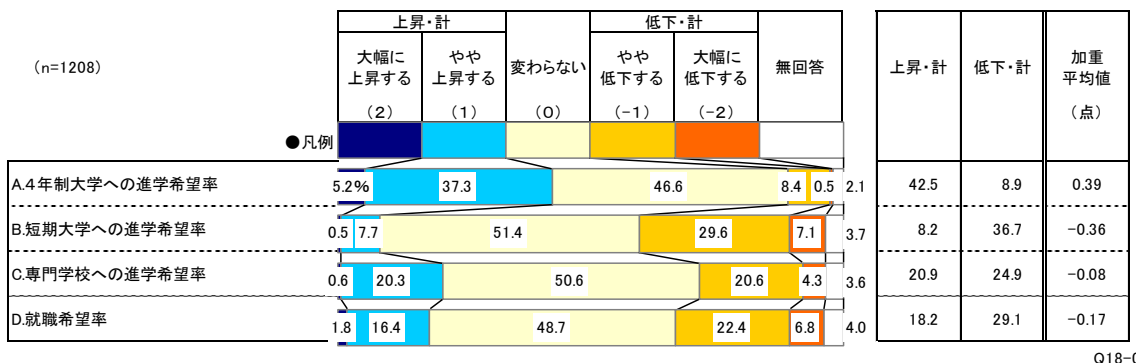
2. 今後の見通し

1)3年後の進学希望率・就職希望率変化予測

▶ 大学への進学希望率は、3年後さらに上昇する見通し

- 自校における3年後の高校生の進路希望率の変化を予測してもらったところ、大学への進学希望率について、「上昇する」が43%、「低下する」が9%となり、「上昇する」が「低下する」を大幅に上回る結果となった。
- また、専門学校への進学希望率は「上昇する」と「低下する」が同程度、短期大学への進学希望率や就職希望率は「低下する」が「上昇する」を上回り、大学への進学希望率のみが上昇する見通しとなった。

■ 3年後の進学希望率・就職希望率変化予測_A～D(全体／各単一回答)



【フリーコメント⑪】3年後の進学希望率・就職希望率予測の理由

大学進学希望率が「上昇する」と思う理由

▶【大短進学率70%以上】

- 進学重点支援校。入学当時の意欲を失わせない授業の工夫(南関東/普通)
- 不透明な社会であるがゆえに、学歴資格を求める傾向が強くなるとされる(中国/普通)
- 大学入試易化のため(南関東/普通)

▶【大短進学率40～70%未満】

- 中高一貫校として来年度から内申生が入学してくる。進学意識が高いので、引っ張られるような形で四大進学が増加すると思う。また、進路指導部としてもその方向で今から指導している(関西/総合)

▶【大短進学率40%未満】

- 高卒では職種が限られ、専門学校進学では不適応を起こした場合無駄になる。従って、生徒の将来の可能性を広げるためには短大、それよりも4大に進学させていくしかない(中国/普通)
- 就職の厳しさと大学入学の易化(北関東/専門)

専門学校進学希望率が「上昇する」と思う理由

▶【大短進学率40～70%未満】

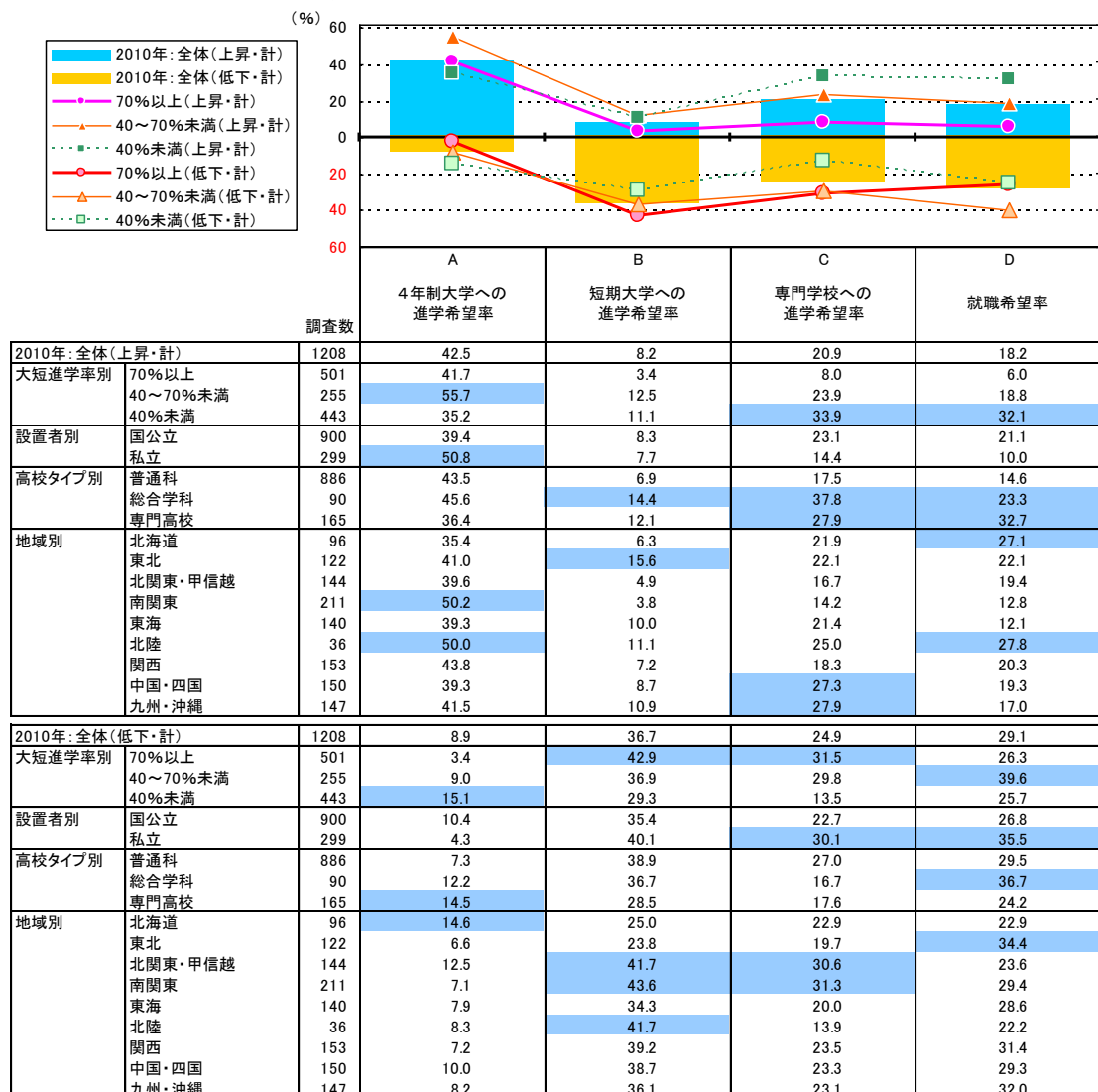
- 高卒就職市場の悪化と入試の易化(特に専門学校)(四国/総合)
- 景気の悪化に伴い進学希望率が上昇すると思う(東海/専門)

▶【大短進学率40%未満】

- 相変わらず就職の状況が厳しく、進学の必要性に迫られるだろうから(関西/普通)
- 就職難であることが伝えてあるため3年後であれば大きく景気変動していない限り、さらにスキルアップを目指し進学者の増加が予想される(東海/その他)
- 高卒求人は厳しい。脱落者が専門学校に流れる。大学には入りやすくなったので、年々希望が増加している(南関東/専門)

- 大短進学率別にみると、大学への進学希望について「上昇する」が最も高いのは進学率[40～70%未満]。一方、[40%未満]では、大学、専門学校、就職の割合が拮抗。
- 地域別にみると、大学への進学希望について「上昇する」という割合が5割を超えたのは南関東と北陸。

■ 3年後の進学希望率・就職希望率変化予測_A～D(全体／各単一回答)



※「2010年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q18-00

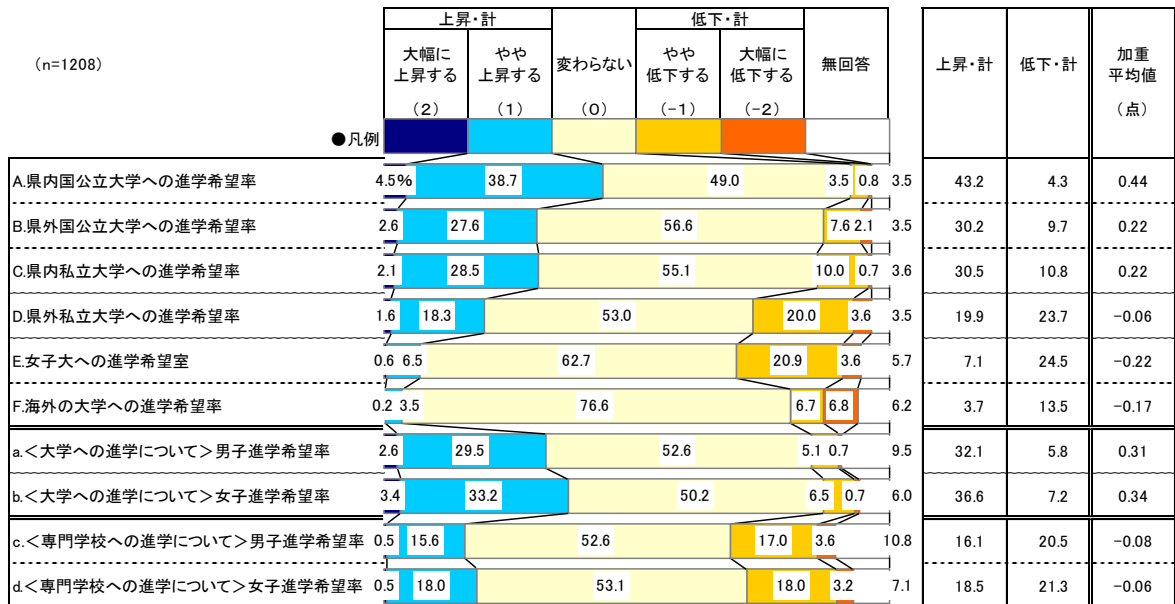
2)3年後の大学・専門学校への進学希望率変化予測

▶ 県内外問わず国公立大学への進学希望率は上昇

▶ 一方、私立大学は県内進学希望率は上昇するも、県外は低下と予測する割合が若干多い

- 自校における3年後の高校生の進路希望率の変化を予測してもらったところ、女子大や海外の大学への進学希望率は、「上昇する」を「低下する」が大きく上回った。

■ 3年後の大学・専門学校への進学希望率変化予測_A～F、a～d(全体／各単一回答)



Q19-0

【フリーコメント⑫】3年後の大学・専門学校への進学希望率予測の理由

県内・県外 国公立大学進学希望率が「上昇する」と思う理由

▶【大短進学率70%以上】

- より高いレベルの、学問分野への進学を望んでいるため(南関東/普通)
- 社会情勢が大きく好転する可能性は低いと思われるため、近場の国公立進学希望が増えると思われる(北関東/普通)
- 国公立大学進学を基本とする学校体制にかわるため。(現在移行中)(関西/普通)
- 県内の国公立大学への進学希望率がやや上昇すること、県外の国公立大学への進学希望率が大幅に上昇することについて、教員としての希望です。地方の国公立大に特色ある学部、学科があるのを知ってほしい(南関東/普通)
- 国公立に入れなければ私立の中高は生き残れない(南関東/普通)
- 経済的理由から、県内国公立大進学が増える(四国/総合)

▶【大短進学率40～70%未満】

- 経済的に厳しい家庭が、今後さらに増加する傾向になると思います(北海道/総合)
- 学費の問題(東海/普通)
- 私大入試の易化、経済状況の変化、就職難(中国/普通)

▶【大短進学率40%未満】

- 経済的理由からも、比較的授業料の安い国公立が増えるのと、チャレンジしようとする生徒が増加しているため(北海道/専門)

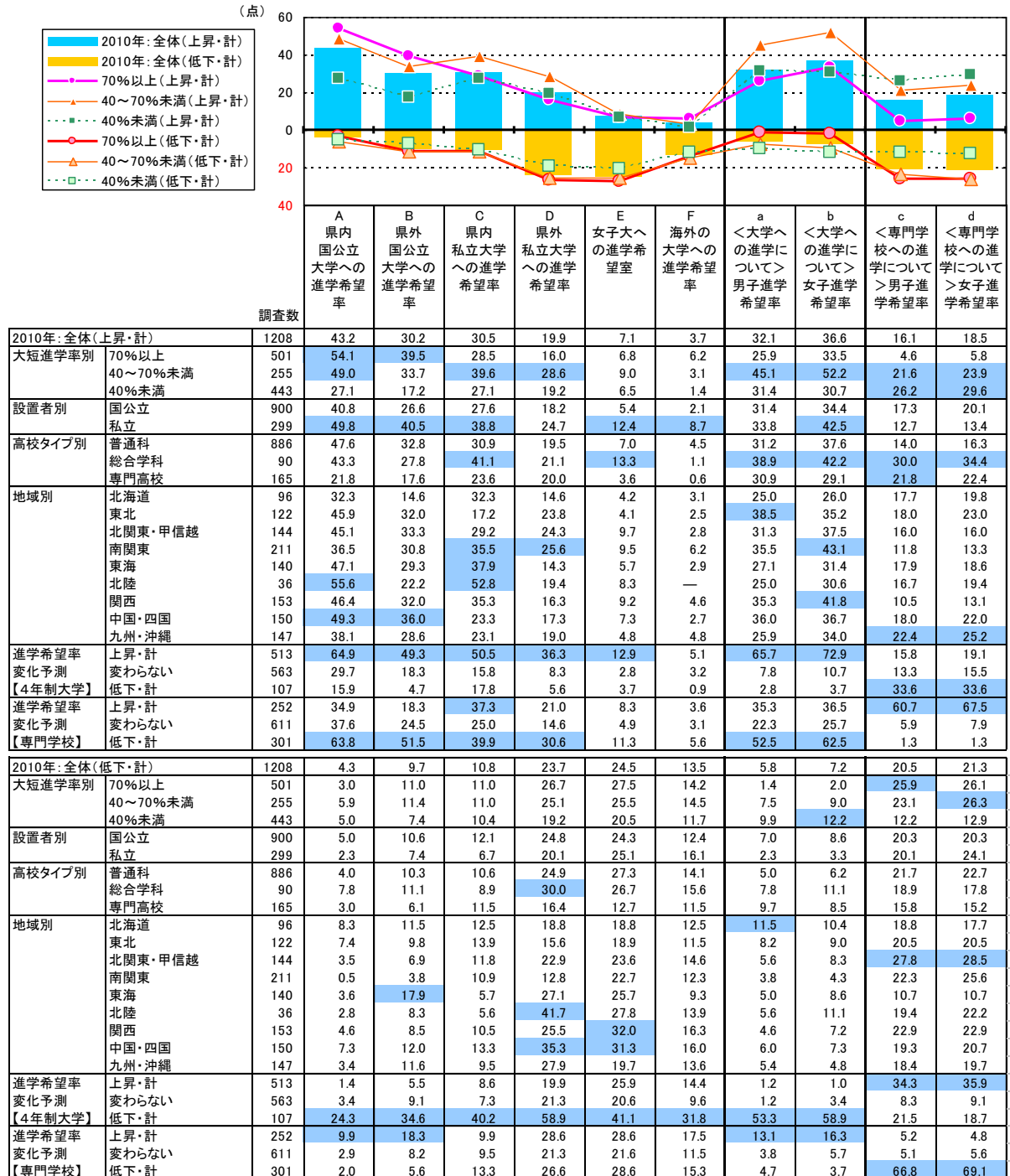
県内私立大学進学希望率が「上昇する」と思う理由

▶【大短進学率40%未満】

- 入学してくる生徒、特に女子の学力が高く進学希望者が多い。また、大学側も大幅に受け入れようとする姿勢がうかがえる。(推薦など)(東海/専門)
- 県内の大学のほうが地元への就職に有利、という意識が保護者の中にある。また県外へ出す経済的余裕もない(甲信越/普通)
- 自宅から通学できる学校を選択する生徒が多い(南関東/普通)

- 大短進学率別にみると、進学率[70%以上]と[40～70%未満]で最も高いのは県内国公立大学。進学率[70%以上]は県外国公立大学、[40～70%未満]は県内私立大学がつづく。
- [40%未満]のみ、県内国公立大学と県内私立大学が同率。

■ 3年後の大学・専門学校への進学希望率変化予測_A～F、a～d(全体/各単一回答)



※「2010年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

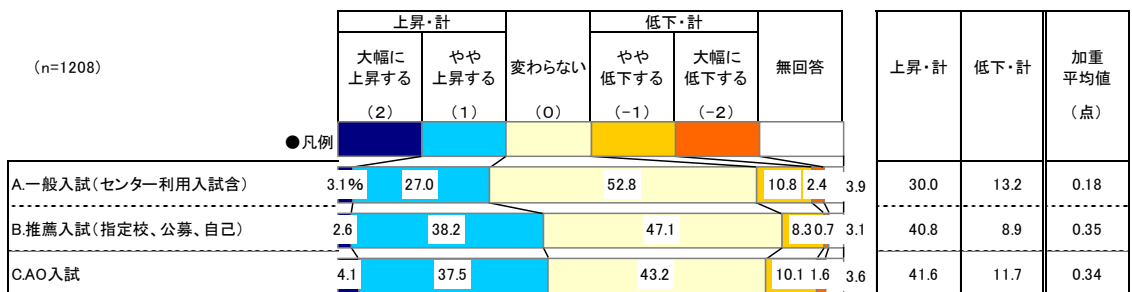
Q19-00

3)3年後の入試方法ごとによる大学への進学希望率変化予測

- ▶ 大学の入試方法別では、「推薦入試」「AO入試」がさらに上昇の予測
- ▶ 「一般入試」の上昇率を上回る

- 入試方法別に大学への進学希望率の変化を予測してもらったところ、「一般入試」「推薦入試」「AO入試」ともに「上昇する」が「低下する」を上回った。「上昇する」と「低下する」のポイント差をみると、「一般入試」が17ポイントに対し、「推薦入試」は32ポイント、「AO入試」は30ポイントと、「推薦入試」「AO入試」が「一般入試」を上回る結果となった。

■ 3年後の入試方法ごとによる大学への進学希望率変化予測_A～C(全体／各単一回答)



【フリーコメント⑬】3年後の入試方法ごとによる大学への進学希望率予測の理由

推薦入試やAO入試希望率が「上昇する」と思う理由

▶【大短進学率70%以上】

- 入学時から推薦を生徒保護者ともにあてにしている。また大多数の教員も同調している(東海/普通)
- 学生たちが学力に自信をもてないため。(南関東/普通)
- 私大への安易な希望(早く決まりたい)(関西/総合)

▶【大短進学率40～70%未満】

- 一般入試(学力試験)受験前に、推薦、AOで合格してしまう生徒が増えそうな気がします(北海道/総合)
- 一般入試を受けるほどの学力は、すぐには身につかない。しかし、大学への進学は促す(東北/普通)
- 生徒が早く進路を決定したいと考えるようになってきている。ねばり強さがなくなっている(東海/専門)

▶【大短進学率40%未満】

- 生徒は安易なほうへ流れてしまう。一般は学力が必要、推薦が出席状況や調査書点が良くて無理、AOは「意欲」だけでも受験できてしまう(南関東/普通)
- 学力低下と、早期に合格を手に入れたいと、生徒が思う傾向から(北海道/普通)

一般入試希望率が「上昇する」と思う理由

▶【大短進学率70%以上】

- 付属大学以外への進学意識が年々高まっているため(南関東/普通)
- より偏差値の高い学校への進学意欲が高まる(といいなと思う)から(南関東/普通)

▶【大短進学率40～70%未満】

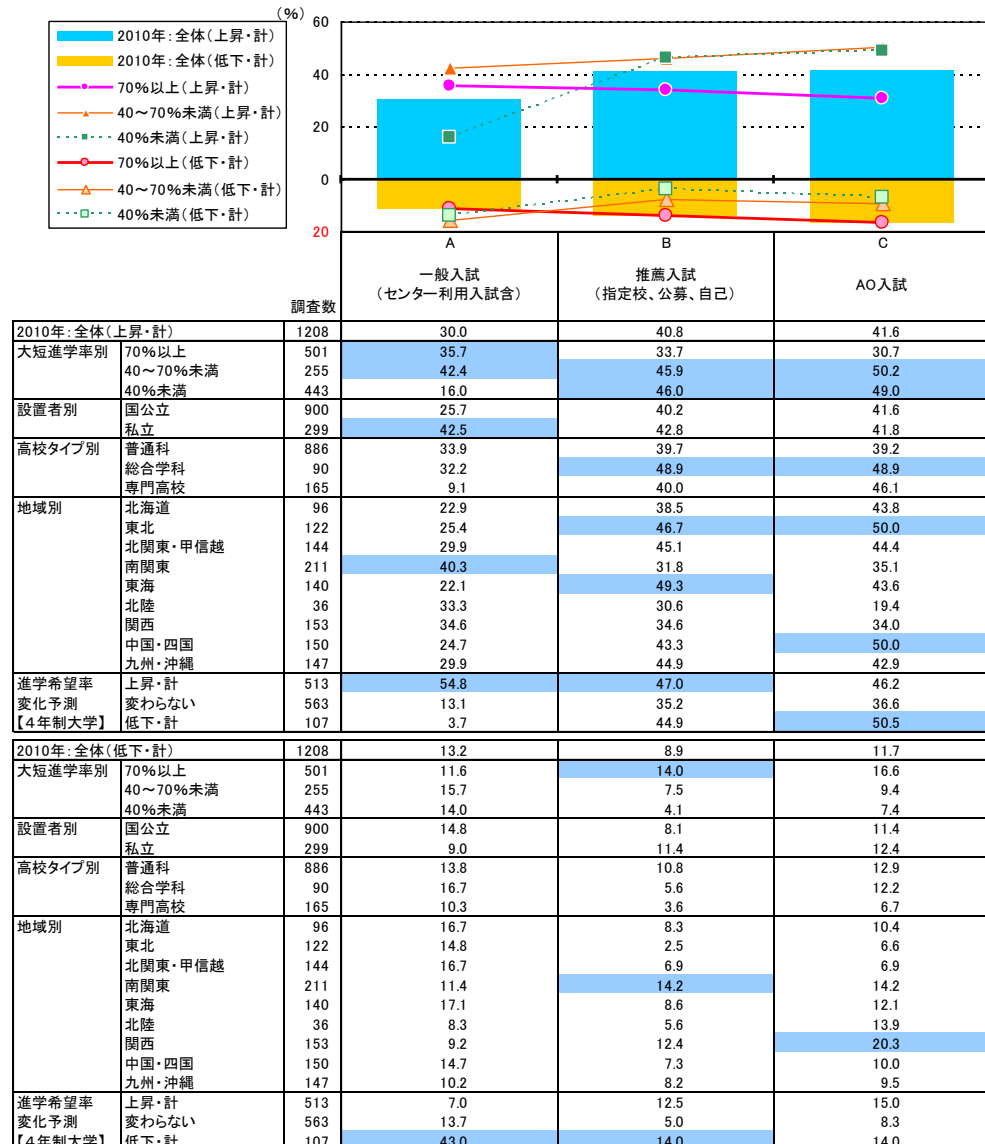
- 国公立大学希望者が年々増加しているから(中国/普通)
- 学校としては、一般入試受験者を増やそうとしているので(東北/普通)

▶【大短進学率40%未満】

- 進学コースの設置(中国/普通)

- 大短進学率別にみると、どの入試方法についても「上昇する」が4割を超えるのは進学率[40～70%未満]。[40%未満]は、「一般入試」は16%と低い、「推薦入試」「AO入試」は[40～70%未満]とほぼ同水準。

■ 3年後の入試方法ごとによる大学への進学希望率変化予測_A～C:平均点一覧(全体/各単一回答)



※「2010年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

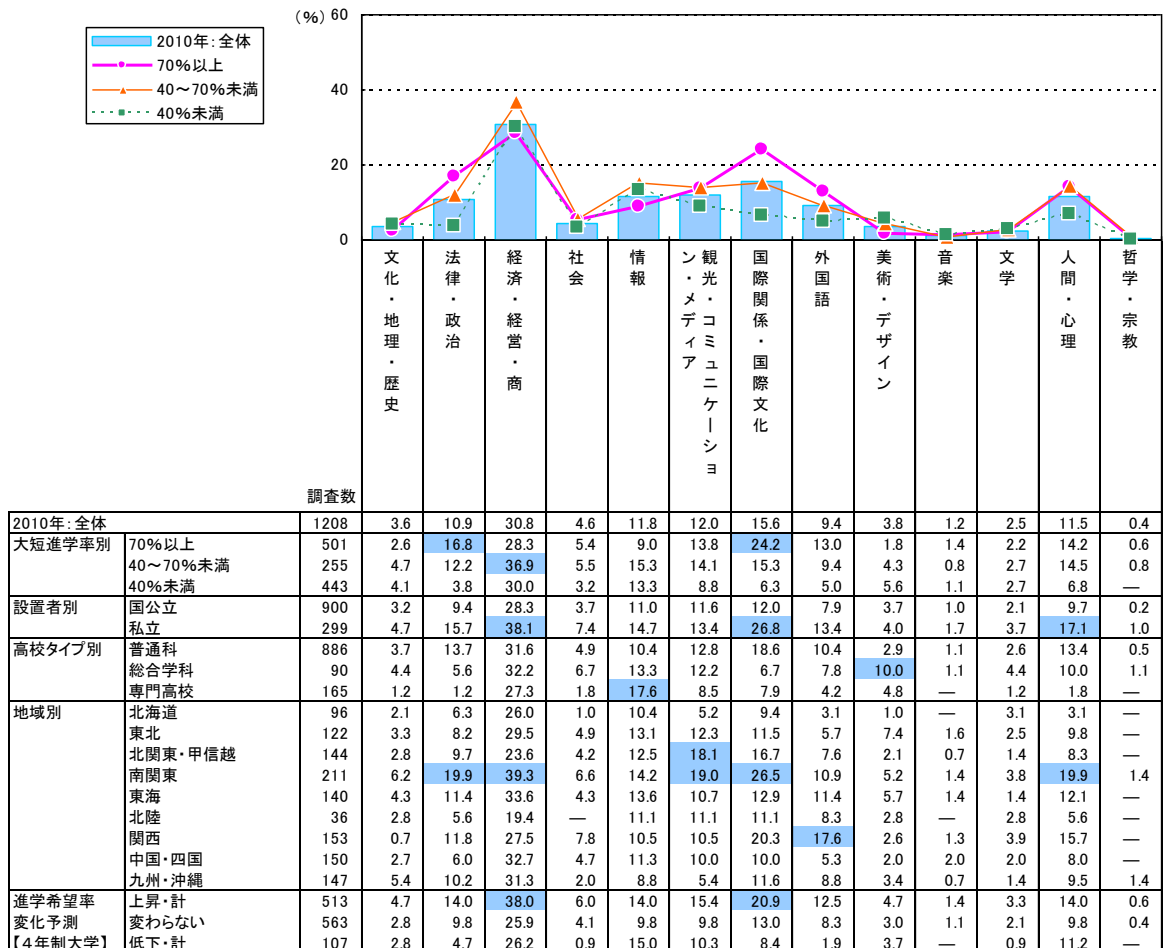
Q20-00

4)3年後進学希望率が上昇すると考えられる分野 ①大学分野系統

- ▶ 大学で進学希望率が上昇と思われる分野は「看護」がトップ
- ▶ ついで「医療・保健・衛生」「教育・保育」「経済・経営・商」

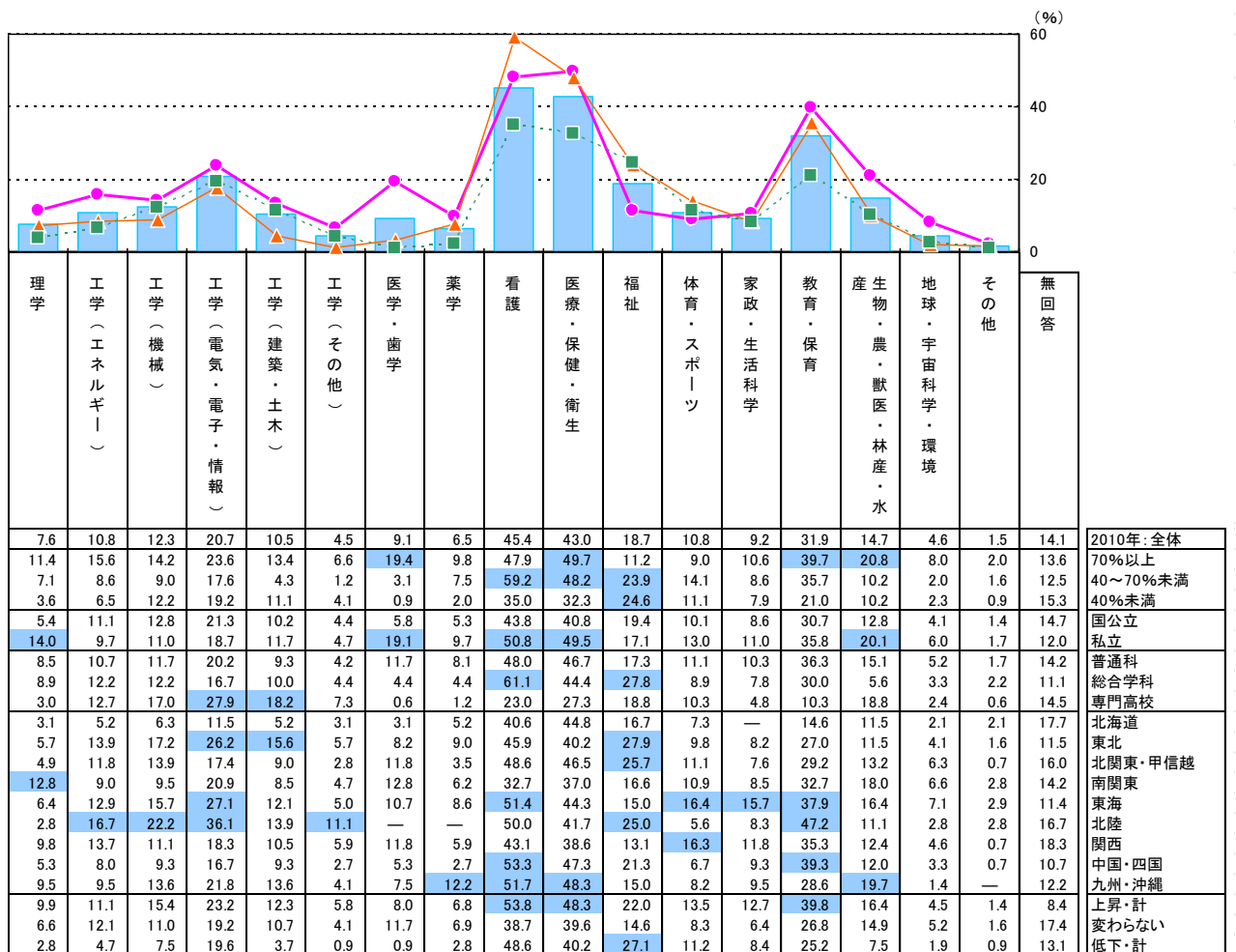
- 3年後に進学希望が上昇すると考えられる大学の分野を予測してもらったところ、「看護」が45%でトップ。「医療・保健・衛生」43%、「教育・保育」32%、「経済・経営・商」31%と続く。
- 大短進学率別にみると、進学率[40～70%未満]では「看護」「医療・保健・衛生」に加えて、「福祉」を挙げる割合も高めとなった。[40%未満]は他2層に比べ全般的に低く、「看護」「医療・保健・衛生」「経済・経営・商」の3つのみが3割を超える。反対に全般的に高めなのは[70%以上]で、「理学」「工学全般」「医学・歯学」「生物・農・獣医・林産・水産」などの理系分野に加え、「国際関係・国際文化」や「教育・保育」など幅広い分野で高めとなっている。

■ 3年後に進学希望率が上昇すると考えられる分野系統＜A:大学分野系統＞（全体／複数回答）



※「2010年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q21-A



4) 3年後進学希望率が上昇すると考えられる分野 ②専門学校分野系統

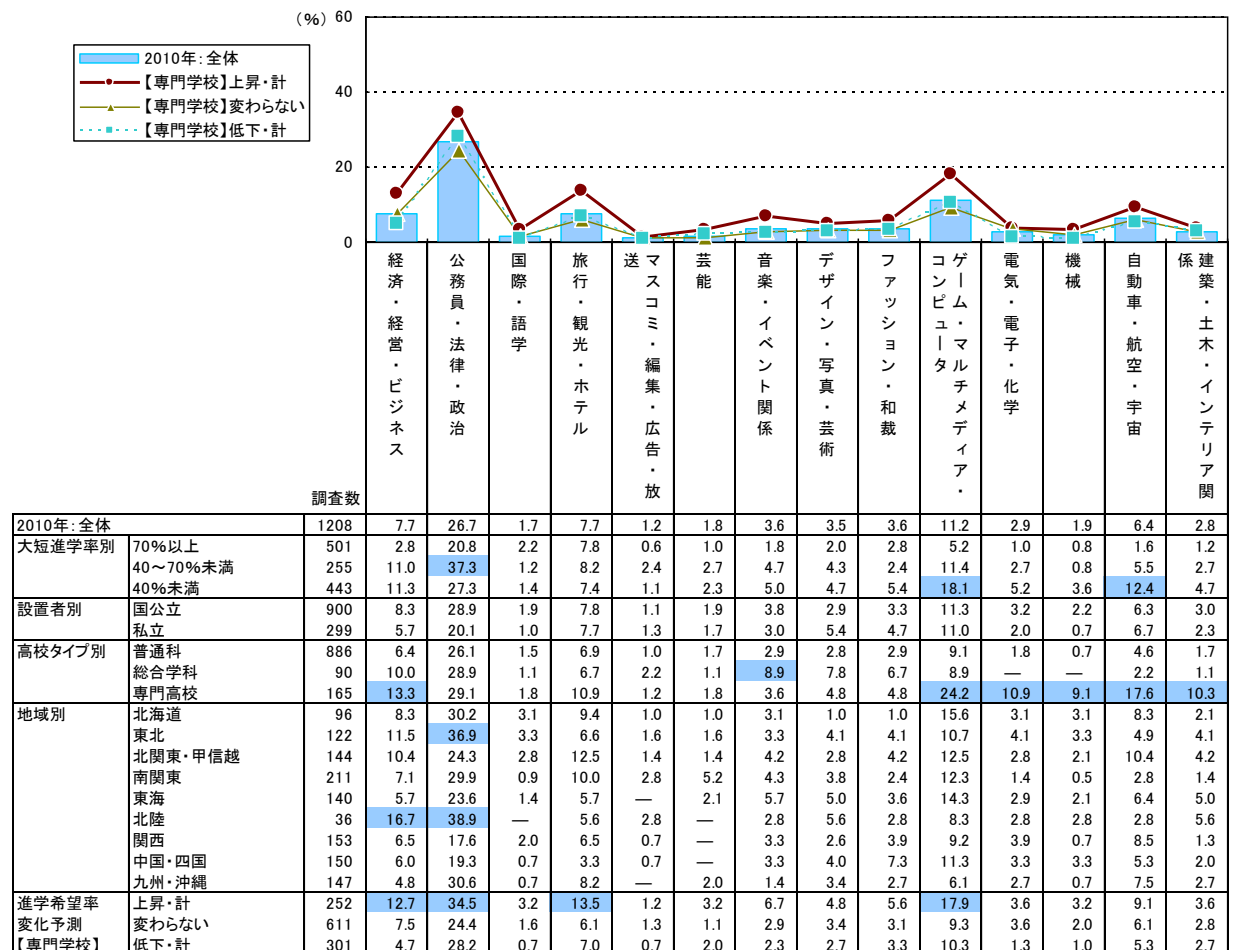
▶ 専門学校で進学希望率が増えると思われる分野は「看護」がトップ

▶ 「医療関係(看護以外)」「公務員・法律・政治」「美容・理容・ヘアメイク」「福祉関係」「保育・教育」と続く

- 3年後に進学希望率が上昇すると考えられる専門学校の分野を予測してもらったところ、大学同様「看護」が43%でトップだった。ついで「医療関係(看護以外)」「公務員・法律・政治」「美容・理容・ヘアメイク」「福祉関係」「保育・教育」など、なんらかの資格保有や公的試験を受けて就業するような分野が上位に位置している。

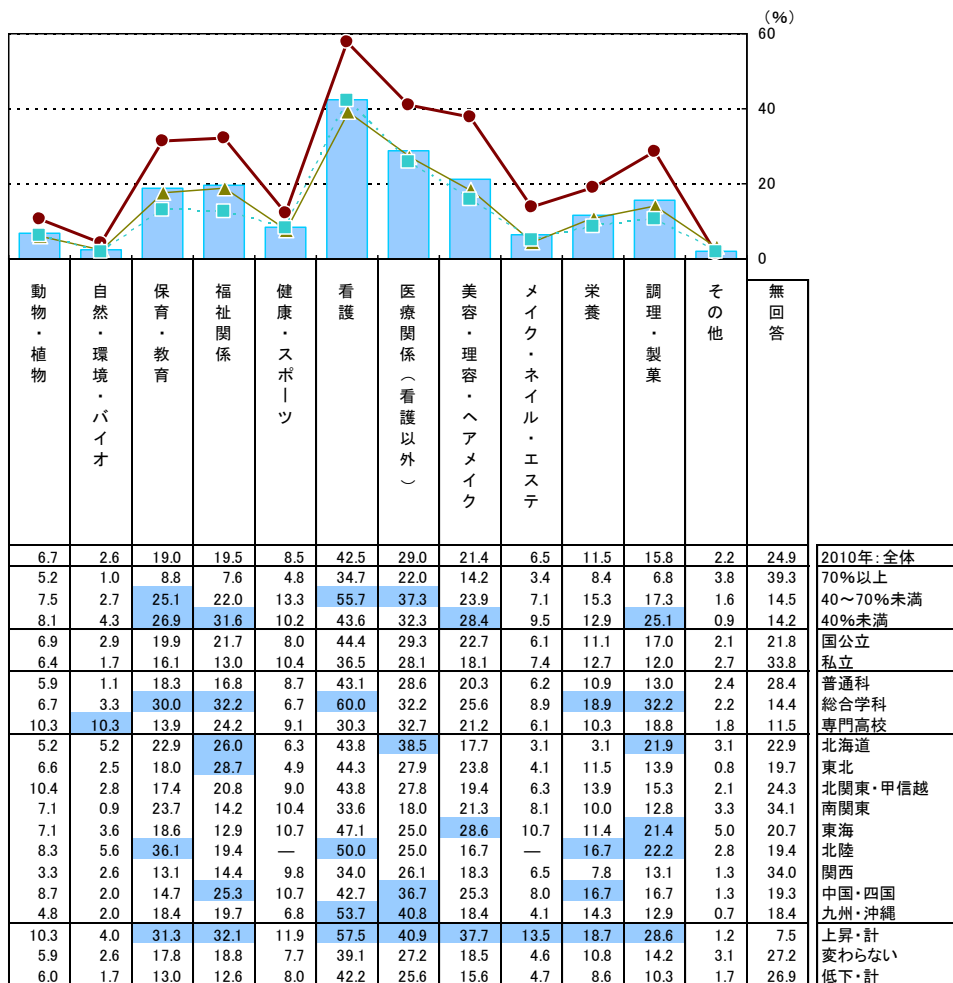
- 【専門学校】進学希望率は上昇するという層においても、全体値と同様の傾向。

■ 3年後に進学希望率が上昇すると考えられる分野系統<B:専門学校分野系統>(全体/複数回答)



※「2010年:全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け

Q21-B



Q21-B

▼本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします▼

株式会社リクルート進学カンパニー キャリアガイダンス編集室
TEL03-6835-4068／e-mail:career@r.recruit.co.jp

- ※ 出版・印刷物等へデータ記載する際には、“(株)リクルート調べ”と明記していただきますようお願い申し上げます。
- ※ この調査結果については、キャリア教育専門誌『キャリアガイダンスNo35』(リクルート)にも掲載しています。